

スコット・ストラッブ
スコット・ストラッブ

スコット・ストラッブ

はしがき

言語はその民族の母であり搖籃であります。従って他の民族を理解し、その文化や伝統を知るためには、その民族の言語を知ることが、最も大切なことであることはいうまでもありません。日本では欧米各国語は相当研究され普及されていますが、残念ながら日本と最も近接しておる朝鮮語については、殆んど研究されず、また普及されていないのが現状だと思います。その意味において本書を基礎語学双書の一篇として出版する 大学書林は、日本ではおそらくはじめての朝鮮語入門書を出すわけであります。朝鮮と日本が相互互恵の原則に立ち、両国の文化交流が盛んになり、両国文化向上に役立つことを願う著者としては拙著がこの意味において両民族の相互理解と信義を高める一端となれば幸であります。

本書出版にあたって多大の労をとられた 大学書林 をはじめ、柏屋印刷所および朝鮮民報社に感謝いたします。

著者の研究不足からくるまずさや説明の不足な点、御批判などがありましたならば、出版社あて御教示下さい。参考にさせていただきたいと思います。

1957年2月

宋 枝 學 識す
ソンタ ジ ハ、

目 次

○本書の第一版が発行された後に、万国音標符号の若干のものが統一されたので、下記のように改めたいと思いますが、全編にわたる組み替えとなるので、今回の改訂ではそのままにしておきます。御承知おき下さい。

w → ū

g → g̈

p' → P'

K' → K̈

ſ' → ſ̈

tſ' → tſ̈

tſ' → tſh

k' → kh

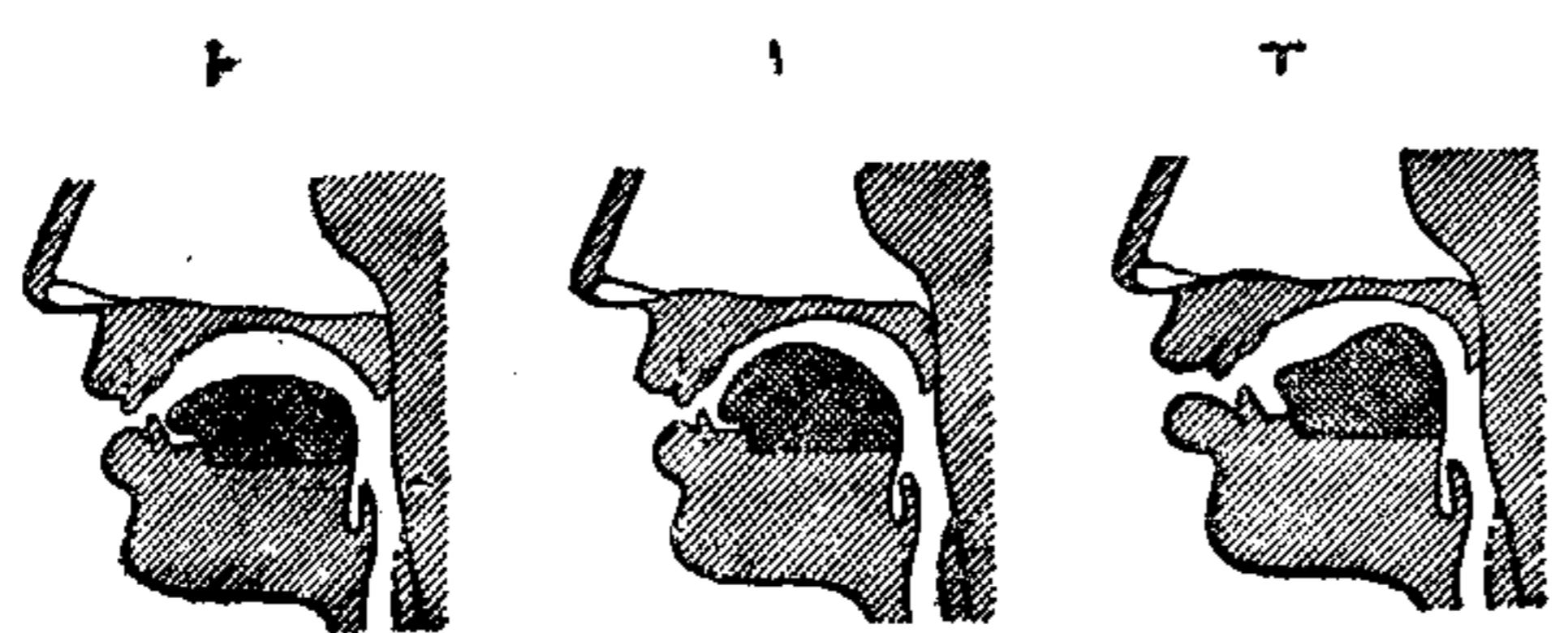
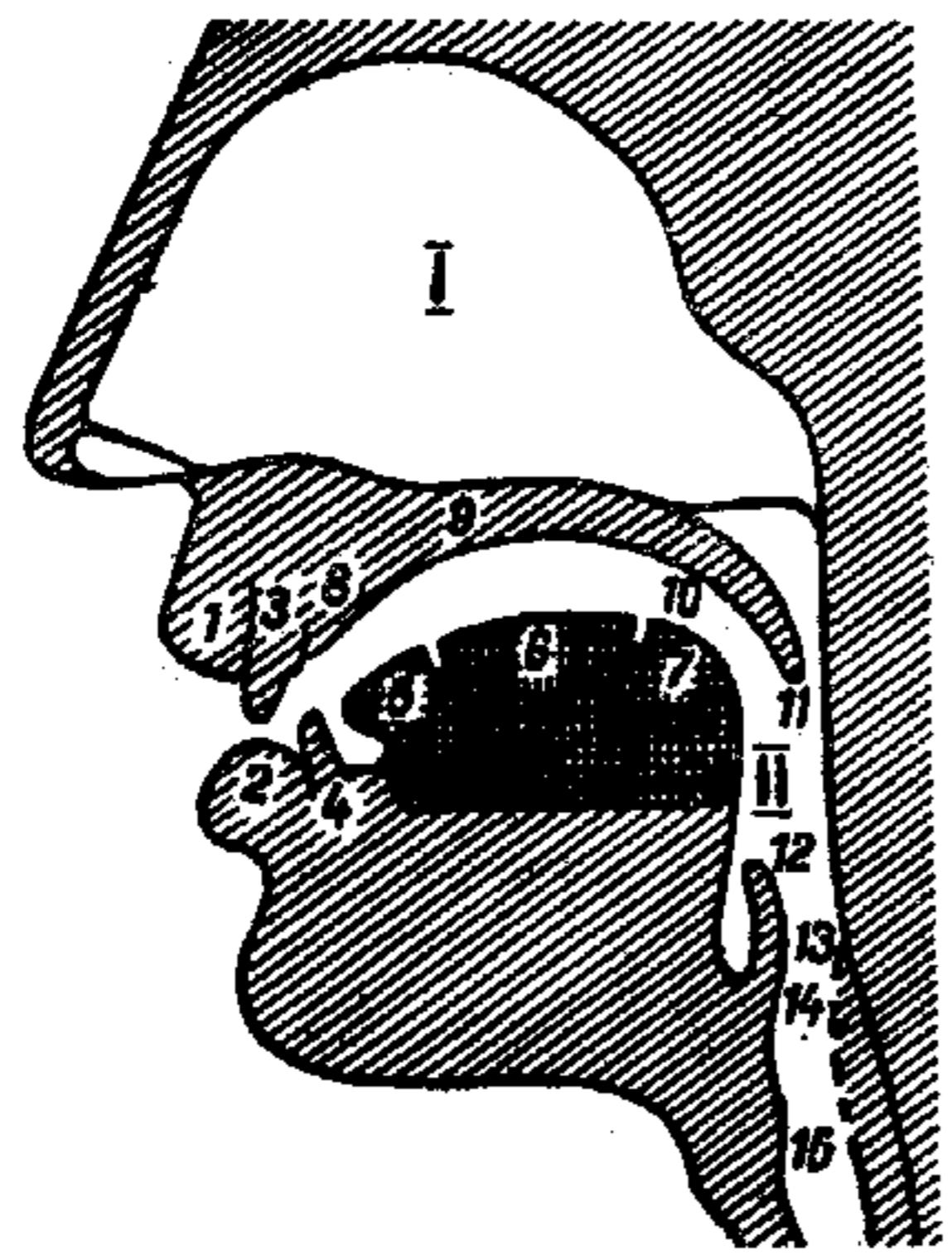
t' → th

P' → Ph

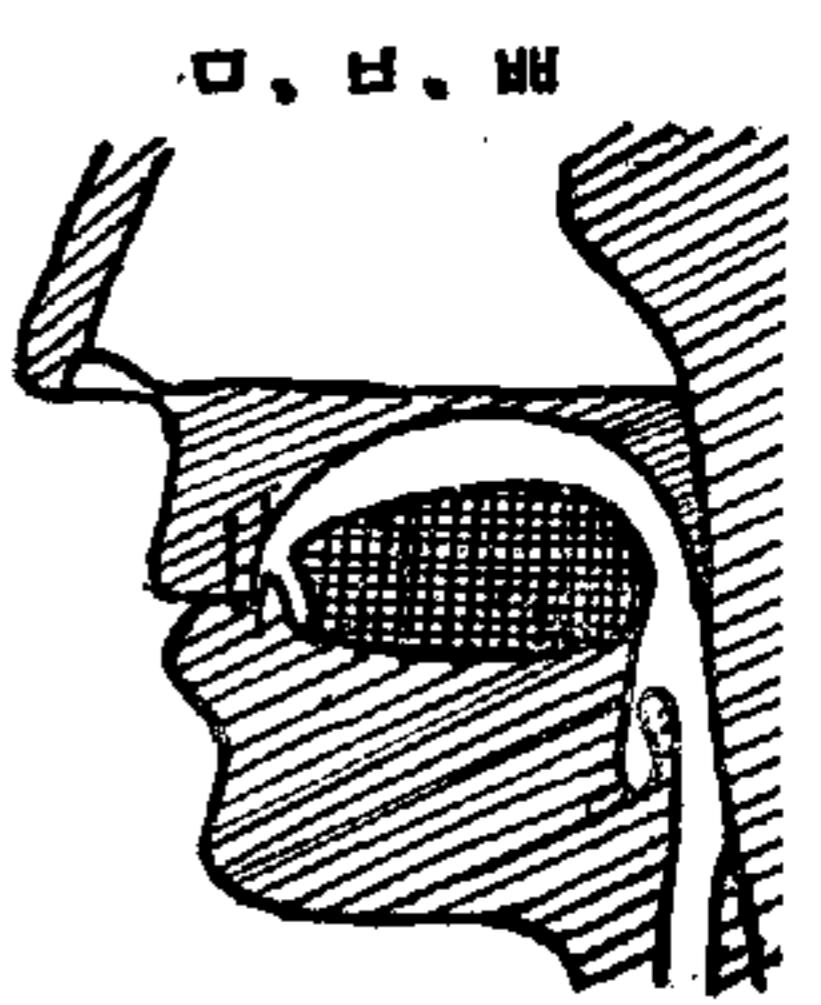
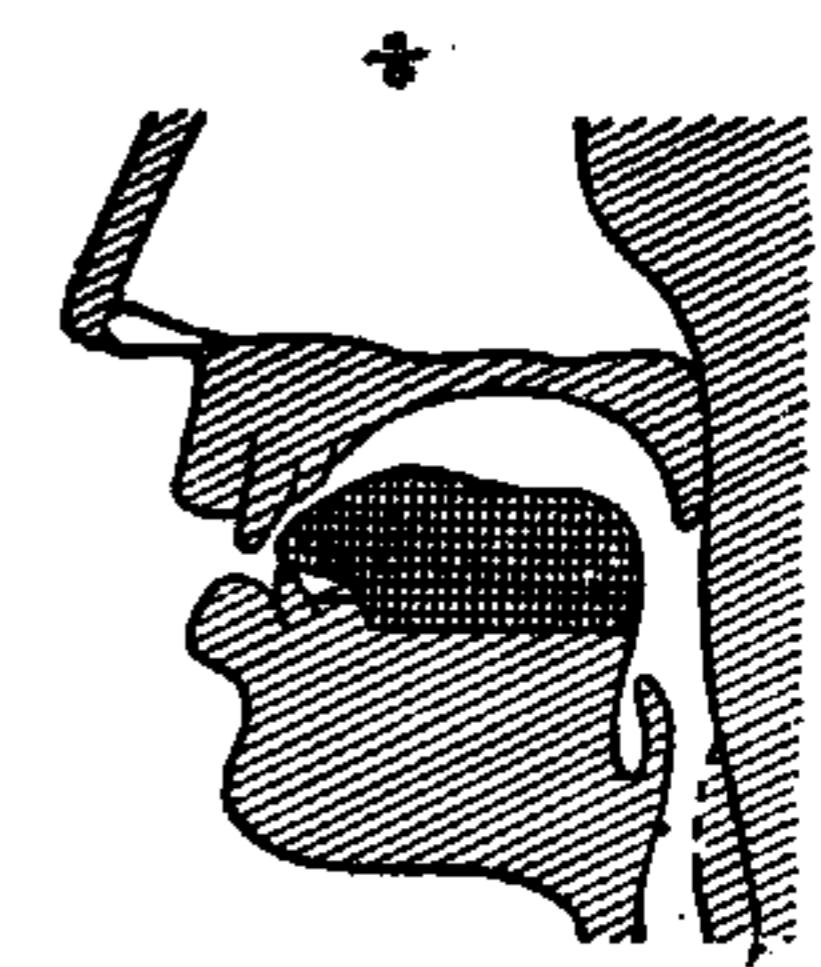
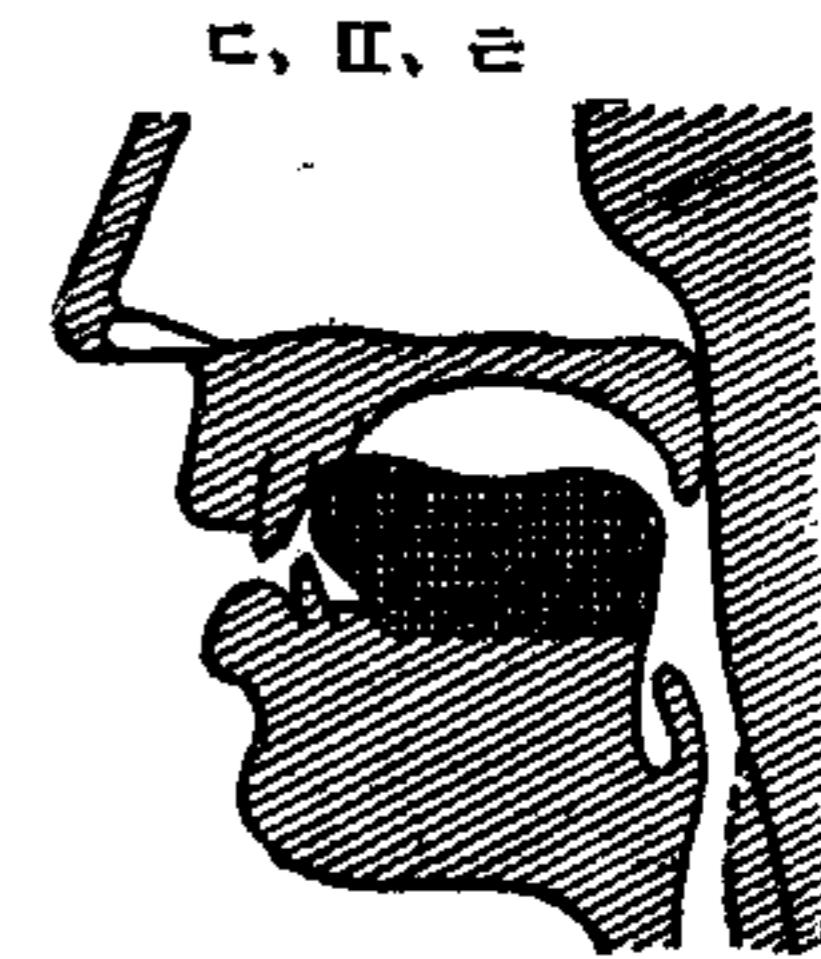
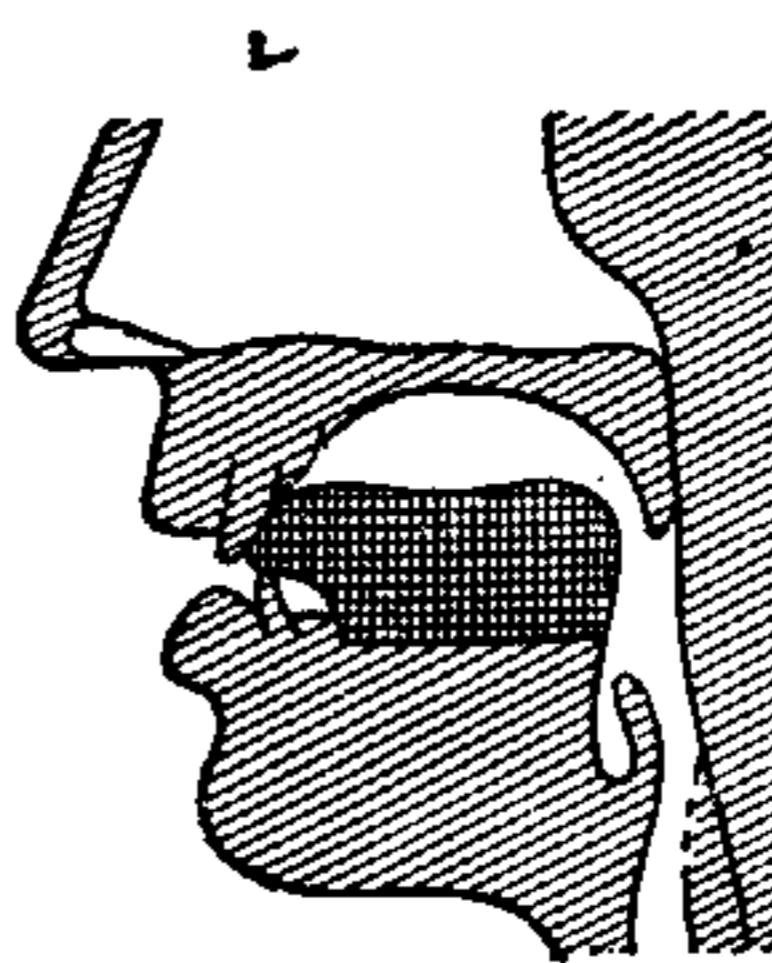
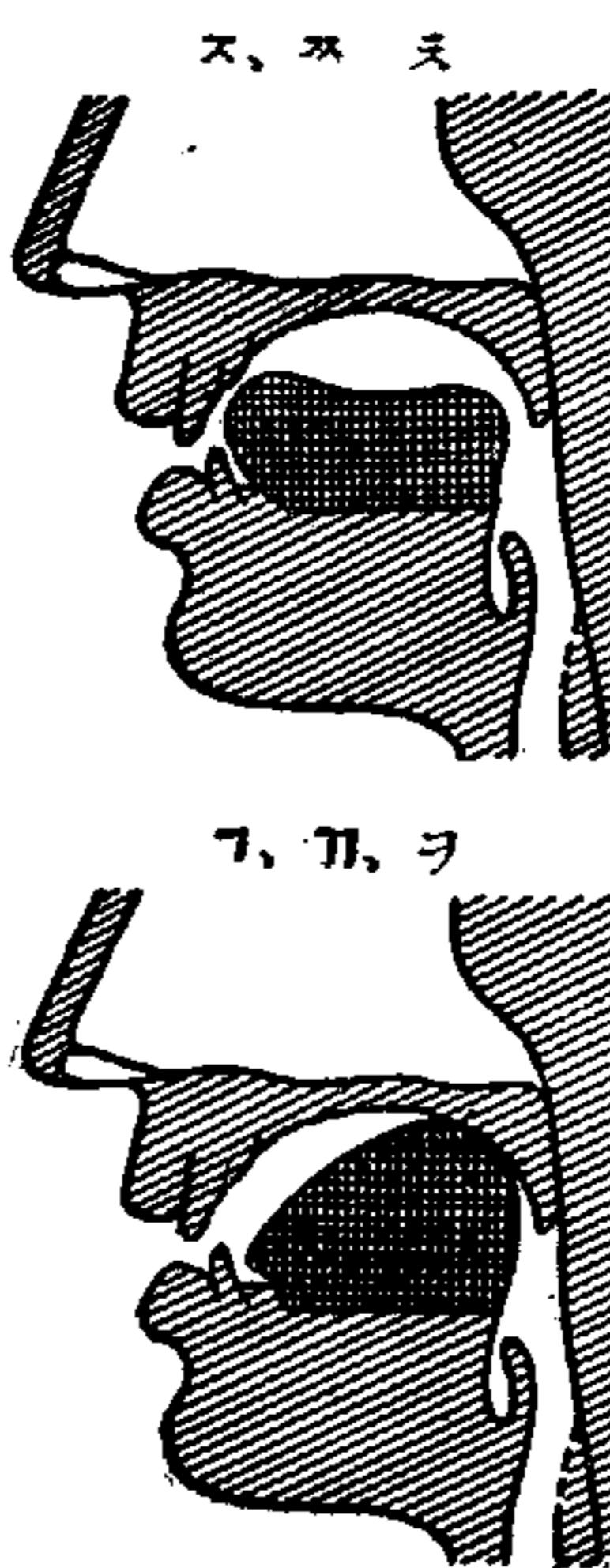
はしがき	i
第一部 発音篇	1
第一講 朝鮮語について	3
第二講 朝鮮語の字母	4
第三講 字母の順序とよみかた	5
第四講 音の種類	8
第五講 母音の発音	10
1. 単母音(11)—2. 合成母音(14)—3. 二重母音(17)	
第六講 子音の発音	18
1. 単子音(18)—2. 濃音(23)—3. 激音(25)	
第七講 練字	29
第八講 字母二個の組み合せ綴り	33
第九講 代表的な綴り	35
第十講 받침(終声)(1)	37
第十一講 받침(2)	39
練習	43
第十二講 받침(3)	43
練習	48
第十三講 語音同化	49
第十四講 [古]と混成される子音	53
練習	55
第十五講 口蓋音化	56
練習	59
第十六講 띠여 쓰기(離し書き)	59
第十七講 音の高低と長短	61

第十八講 サイ ツ（中間符号）について	64
第十九講 連音と絶音	67
第二部 基礎篇	69
第二十講 名詞の格について	71
練習	77
第二十一講 人称代名詞	78
練習	80
第二十二講 指示代名詞	81
第二十三講 不定・疑問代名詞	82
第二十四講 再帰代名詞	84
第二十五講 数詞	85
練習	88
第二十六講 名詞における時称(過去・現在・未来)	89
第二十七講 名詞における階称	91
第二十八講 名詞における階称と時称の関係	94
第二十九講 動詞〔한다〕(～する)	95
第三十講 動詞〔한다〕以外の場合	96
練習	99
第三十一講 形容詞	100
第三十二講 形容詞につく助詞について	106
練習	109
第三十三講 短文	110
第三十四講 動詞の時称について	111
第三十五講 動詞につく助詞	113
A. 終結の助詞	B. 接続の助詞
C. 規定語の助詞	D. 補語の助詞
練習	117
第三十六講 動詞につく助詞の変化	118
練習	120

第三部 構文篇	121
第三十七講 仮定形 ~면, ~다면, ~거든	123
練習	125
第三十八講 ~만, ~라고, ~한것 (～と, というもの)	125
練習	130
第三十九講 短文	131
第四十講 疑問文 ~ㅂ니까? (～ですか)	133
第四十一講 命令文 ~시오 (しなさい)	134
第四十二講 勧誘形 ~ㅂ시다 (しましょう)	136
第四十三講 否定形 ~아니다 (～でない)	138
第四十四講 使役形 ~시키다 (～させる)	141
練習	143
第四十五講 被動形(受身) ~하다 (～される)	144
第四十六講 副詞	146
第四十七講 冠形容詞	148
第四十八講 語音交替(変格用言)	150
練習	152
第四部 文章篇	153
第四十九講 法の一覧	208
練習問題解答	211



- 1 上唇
2 下唇
3 上齒
4 下齒
5 舌端
6 前舌
7 後舌
8 齒グキ
9 硬口蓋
10 軟口蓋
11 声門
12 下声門
13 食道
14 声帶
15 咽頭腔



本書使用上の注意

1. 振りがなをつけてあるが、あまり正確でないので原則として表音符号を基礎にして発音すること。
2. 平がなの部分は、原音と大分発音がちがっているが、便宜上片かなと区別して平がなを使用した。
3. 平がな、片かなのゴヂック体は、激音、強音を表わすために使用した。
4. 平がな、片かなの小文字は日本語式のよみかたでなく、次のように発音される。カヌ [kan] カヌ [kan], の場合、カヌとならず [kan] となり、カングでなく [kag] と一音節として発音する。かなと表音符号との相違に注意すること。
5. 振りがなが六種類使用されていることに注意すること。つまり、平がな、片かな、平がな小文字、片かな小文字、平がなゴヂック、片かなゴヂックである。
6. 練習問題で解答のついていないものはすべて巻末の付録にある。参照すること。
7. 朝鮮語と日本語が同系統とはいえ、やはり別の言語であるから、直訳すると意味の通じないものがある。こういうところは当然のことながら意訳してあるから注意すること。

第一部

発 音 篇

第一講

朝鮮語について

これから諸君が学ぼうとする朝鮮語とはどんな国語でしょうか？ まずそれから話してみることにしましょう。

地図を開いて見ると、中国大陆と朝鮮と日本列島とが隣り合わせになっていることは、皆さん御存知の通りです。そればかりでなく、歴史的にも、日本と密接な関係があります。そこですぐ頭に浮ぶのが、中国語、朝鮮語及び日本語は、同じ系統であろうと思うことです。ところが、そうではありません。中国語は全然別の系統の言語で、朝鮮語と日本語が、同じ系統です。つまり朝鮮語や日本語が同じ系統の、ウラル・アルタイ語族です。その点、初めて学ぶ日本の方も、楽な点があるわけです。

ウラル・アルタイ語の特徴は、文法構造がヨーロッパ諸語と違って、主語の次に補語がきて、最後に述語が来ることです。ですから、朝鮮語の単語さえ知っていれば、日本語のような順序で並べて行けばよいのです。ヨーロッパ諸語のように、主語の次に述語、そして補語が来るのでないから、〈私は学校へ行く〉というように、朝鮮語の単語と助詞を並べればよいのです。

朝鮮と日本は地理的に近いばかりでなく、歴史的に非常に深いつながりをもち、古代においては、特に、朝鮮の文化が日本の文化に及ぼした影響は、大いなるものがあると思います。それにもかかわらず、近代において、両国の関係が、支配、被支配という不幸な関係になり、為政者の、しからしむるところとはいえ、朝鮮に対する蔑視感は、未だに、ぬぐい去られていません。この不幸な関係は、一日も早く、あらためなければなら

ないし、文化の交流が正常な関係において、正常に行われるべきではないでしょうか？

外国語を一つ知るということは未知の世界を一つ知るということであり、その国民性や感情を知る上にも、大切なものです。日本においても朝鮮語の学習が盛んになり、お互の文化を自由に交流させ、文化の発展に寄与させるところが、少しでもあれば、甚だ幸だと思います。この小冊子が、その役目の一端を果すことが出来ればと願うものです。

第二講

朝鮮語の字母

朝鮮語の字母は次の表のように、字母が全部で 40 個あります。この 40 個の中、母音が 21 個と、子音が 19 個です。従来は字母を 24 個といっていましたが、これは、従来、形の上で母音が二つ或いは三つ重なり、子音が二つ重なっていると見られるものは基礎的な字母として考えず、別に重母音、重子音として取扱ったからです。しかし字母が重なっていると見られるものも、その音は全然別の場合が大部分です。また、朝鮮語の場合に、一つの独立した文字を構成する場合、必ず子音と母音が結合して出来るのは、母音同士、子音同士が重っても一つの独立した文字になることは出来ません。ですから字母が重なったと見られるものも、一個の字母として取扱い、最初からその構造並びに発音をしっかり身につける方が、正しいのであります。これは朝鮮において、1954年、出版された文法教科書で統一されています。これは朝鮮語を若干知っている方は迷わ

れるかも知りませんが、これから習う人は、勿論、知っている人でも丹念にやって頂ければ、もっと合理的に、しかも早く学ぶことが出来るでしょう。

次に朝鮮語は、棒と丸で出来ていると言われますが、その通りです。ヨーロッパ諸言語や文字のように、難かしくはありません。母音は棒を横と縦、上と下に二つ又は三つと種々に組合せたものであり、子音も発音される時の口の恰好を表わしており、音が強くなるに従って、棒を一つずつ加えているのです。これらの組合せは、非常に科学的に出来ておるし、発音も豊富で、人間の出す音声のどんなものでも表わされるし、またこの文字をたよりに発音することが出来るわけです。ですから、朝鮮語に日本語の振りガナをつけることはとうてい出来ない相談です。

この点困難を感じるでしょうけれども、一度習っておけばやさしいものです。本書では表音符号を中心にして発音の練習をして下さい。

第三講

字母の順序とよみかた

前講で説明した字母を朝鮮語特有の順序に並べ、その読み方を朝鮮文字、発音記号、日本語のカナで表わして一覧表にしました。朝鮮語の「いろは」ですから、まず第一歩としてよく覚えて下さい。

字母	よみ方	発音符号	振りガナ
ㄱ	기윽 (그)	ki-wk	キ ウク (ク)
ㄴ	너운 (느)	ni-wn	ニ ウン (ヌ)
ㄷ	더을 (드)	di-wt	ト ドウ (ト)
ㄹ	리을 (르)	ri-wl	リ ル (ル)
ㅁ	미음 (므)	mi-wm	ミ ウム (ム)
ㅂ	비읍 (뵤)	pi-wp	ビ ブ (ブ)
ㅅ	시읏 (스)	si-wt	シ ウス (ス)
ㅇ	이옹 (으)	i-wŋ	イ ウン (ン)
ㅈ	지읒 (즈)	tʃi-wt	ジ ウズ (ズ)
ㅊ	치읒 (츠)	tʃ'i-wt	チ ウツ (チ)
ㅋ	키읔 (크)	k'i-wk	キ ク (ク)
ㅌ	티읕 (트)	t'i-wt	ト ドウ (ト)
ㅍ	피읖 (프)	p'i-wp	ピ ブ (ブ)
ㅎ	히읗 (흐)	hi-wt	ヒ ブ (ブ)
ㄲ	끼윽 (꼬)	k?i-wk	キ グ (ク)
	(된기윽)		
ㄸ	띠을 (뜨)	t?i-wt	ト ドウ (ト)
	(된더을)		
ㅃ	삐읍 (뽀)	p?i-wp	ピ ブ (ブ)
	(된비읍)		
ㅆ	씨읏 (쓰)	s?i-wt	シ シス (ス)
	(된시읏)		
ㅉ	찌읕 (쯔)	tʃ?i-wt	チ シツ (チ)
	(된지읕)		

字母の読み方の中()してある オ(o)(お), オ(jo)(いょ)
オ(phi)(オフ), オ(wo)(ウフ), オ(y)(ゐ), オ(wi)(うイ)は
きました。又, 出来るだけ正確を期するために, 平ガナと片カ
して発音して下さい。出来るだけ表音符号によるようにして下

字母	よみ方	発音符号	ふりがナ
ㅏ	아	a	ア
ㅑ	야	ja	ヤ
ㅓ	어	eo	(エ)
ㅕ	여	jo	(イエ)
ㅗ	오	o	オ
ㅘ	요	jo	ヨ
ㅜ	우	u	ウ
ㅛ	유	ju	ユ
ㅡ	으	ɯ	(ウ)
ㅓ	어	i	イ
ㅔ	애	æ	(エ)
ㅖ	예	jæ	(イエ)
ㅚ	외	e	エ
ㅟ	위	je	イエ
ㅚ	와	ɸ	(オエ)
ㅟ	웨	y	(エ)
ㅕ	웨	ɯi	(ウイ)
ㅗ	وا	wa	ワ
ㅙ	وا	wɔ	(ウオ)
ㅚ	웨	wæ	(ウェ)
ㅟ	웨	we	ウェ

一(ウ)(う), ハ(æ)(アエ), ハ(jæ)(イアエ), ハ(wæ)(ワエ)
振ガナが原音とあまりにもへだたりがありますから括弧してお
ナ及び太カナを用いましたが、片カナ以外の振ガナは充分注意
下さい。

第四講 音の種類

口音と鼻音

ア ャ お い オ ヨ ウ ュ う イ
ト ド ナ ニ ハ ム ッ ッ ッ ッ ッ ッ

等の母音と

ク ト ル ス ズ チ ク ト ブ フ
フ ハ ニ ハ ハ ハ ハ ハ ハ ハ

等の子音は、主に口から出ます。このように主に口から出る音を口音といいます。

ヌ ム ブ ヌ
レ ハ ム ハ

等のように、音の出る道が、主に鼻の中から出る音を鼻音といいます。

有 声 音

ア ャ お い オ ヨ ウ ュ う イ
ト ド ナ ニ ハ ム ッ ッ ッ ッ ッ ッ

等の母音と

ヌ ル ム ナ
レ ハ ム ハ

等の子音のように、喉を振動させて出す音を、有声音といいます。

無 声 音

ク ト ブ ス ズ チ ク ト ブ フ
フ ハ ニ ハ ハ ハ ハ ハ ハ

等のように、喉を振動させないで出る音を、無声音といいます。

单 音 と 重 音

ア お オ ウ ア ュ エ オ ェ
ト ハ ニ ハ ハ ハ ハ ハ ハ
ク ヌ ド ル ム ブ ス
フ レ ハ ニ ハ ハ ハ ハ ハ

等の母音と子音は発音するときに一つの音として出ます。これを单音といいます。



ヌ, ハ, ニ, ハ, ニ, ハ, ハ

等の母音と子音は完全に二つの音が重なったものです。これを重音といいます。

合 成 音

イ ア ェ イ ェ ャ い わ ョ ム ハ ワ
月, 午, ト, ニ, ハ, ム, ハ, ハ, ハ, ハ

く と ぶ す つ
フ, ハ, ハ, ハ, ハ

等の母音と子音は、二つの音が重なったように思われますが、重音のように、完全に二つの音が重なっているわけではなく、混っている音です。つまり单音でも重音でもなく、合成された

音です。これを合成音といいます。

第五講 母音の發音

朝鮮語の發音は、特殊の場合(後述する=子音同化の項)を除いては、大体書いてある通りに読みればよいのです。一つの文字が二通り、或いは三通りに發音されることはありません。この点、英語等に較べると簡単であります。例えば〈ア〉の發音はどこまでも〈ア〉であります。一つの単語になった場合、稀に長短、高低がありますが、あまり気にしなくてもよいでしょう。そこで、一つの文字の正確な發音を会得しておくと、非常に楽に出来るわけです。よく朝鮮語の發音は、堅苦しく、ごつごつしているように言う人もいますが、それは朝鮮語に、強音が多く使われるため、そんなに聞えるのであって、決してそうではありません。会話の場合ごく自然で、なめらかなものです。特に、いかなる音でも發音できるし、また文字に表わすことが出来るのですから素晴らしいものです。聞く人によっては、フランス語に似ているという人もいるし、また中国語に似ているという人もいますが、それは子音の鼻音が多く使われるためでしょう。しかし、朝鮮語には、朝鮮語独特な美しさと力があります。

(注意) 振りガナについてことわっておきます。先にも言った通り、日本語のカナで朝鮮語を表わすことは出来ません。日本語と同じものもありますが、そうでないものがたくさんあります。振りガナは最初の部分で分りやすくするためにつけたものです。正確に朝鮮語と一致するものではありません。万国表音符号をもとにし、振りガナは参考程度にして下さい。そうしませんと折角習った朝鮮語が生きたものにならないでしょう。

1. 単母音

朝鮮語の単母音、10個について、おのおの舌の位置、口の開閉程度、唇の形状等について分類表を作ると次のようになります。この表を中心にして、舌、口、唇等の動き具合をよく意識しながら、なんべんも練習して下さい。()の中の音は円唇母音、つまり唇を丸くして出す音です。日本語の〈ウ〉〈オ〉と同じ音です。単母音は發音の時、口の恰好が最初と終りが同じものです。

唇	前	中	後
近 閉	ㅣ (ヰ)	ㅡ (ヱ)	ㅜ (ヰ)
半 闭	ㅔ (ヰ)	ㅓ (ヰ)	ㅗ (ヰ)
半 開	ㅐ	ㅓ	ㅏ
全 開			ㅗ

ト 全開音 [a] ロを大きく全部開いて、〈アー〉と発音します。日本語の〈ア〉と同じです。

アボジ [a-bo-dʒi] (お父さん), アイ [a-i] (子供)
アチム [a-tʃim] (朝), アヲダ [a-p'w̃-da] (痛い)

ㅓ 半開音 [ɛ] これは日本語の、アとオの中間の音で、
〈ト〉の時よりやや口を閉じ、舌は〈ト〉

の時より少し後方にひくようにして発音します。

おもに [o-mo-ni] (お母さん), **おそ** [o-so] (早く)
어머니 [o-mo-ni] (お母さん), 어서 [o-so] (早く)
어부 [o-bu] (漁夫), 머리 [mo-ri] (頭, 頭髪)

上 半開円唇音 [ø] 口を丸く閉じ, 唇をきゅっと丸くとがらせて, <オー>と発音します。日本語の <オ>と同じです。

오빠 [o-p'a] (兄さん), **오이** [o-i] (きゅうり)
보리 [po-ri] (麦), **오후** [o-hu] (午後)

T 近閉円唇音 [u] <エ>よりももっと口をすぼめて, 唇を小さく円形にとがらせ, <ウー>と発音します。日本語の <ウ>に似ています。

우리 [u-ri] (われわれ), **우유** [u-ju] (牛乳),
부모 [pu-mo] (父母), 구두 [ku-du] (靴)

一 近閉音 [ɯ] 口をぎゅっと閉じて横に平たく拡げ, 上下の歯と両唇とかすかに開け, 舌を口の中間にして発音します。

으뜸 [ɯ-t'ɯm] (頭目, かしら), **그림** [kɯ-rim] (絵)
온하수 [ɯn-ha-su] (銀河水), **금년** [kɯm-njan] (今年)

I 近閉音 [i] <一>と同じく口をうんと閉じ, 上下の歯の間を更に狭くして, <イー>と発音します。日本語の <イ>と同じです。

이마 [i-ma] (額, ひたい), **이야기** [i-ja-gi] (お話)
지리 [tʃi-ri] (地理), **기려기** [ki-ro-gi] (雁)

H 半開音 [æ] これは <ト> と <リ> の中間の音です
から口を <ア> よりやや閉じ, 舌を少し前に押し出して発音します。英語の cat <キャット> の場合の [æ] に当ります。

개미 [kæ-mi] (蟻), **애매하다** [æ-mæ-ha-da] (曖昧だ), **애기** [æ-gi] (幼児), **매미** [mæ-mi] (蝉)

ㅓ 半閉音 [ɛ] 口を上下に開けず, 横にあけ唇を平らにし, その両端を釣り上げるようにして, <エー>と発音します。日本語の <エ>と同じです。

네거리 [ne-go-ri] (十字路), **세수** [se-su] (洗面)
제비 [tʃe-bi] (燕), **게우다** [ke-u-da] (吐き出す)

ㅗ 半閉円唇音 [ø] <エ> の時と同じく, 口を丸くとがらしておいて, そのまま <エー>と発音します。これは少し難かしい音ですが, ドイツ語の [ø] と同じ音です。<オエ>と発音します。

외부 [ø-bu] (外部), **외치다** [ø-tʃ'i-da] (叫ぶ)
되다 [tø-da] (成る), **외국** [ø-guk] (外国)

T 近閉円唇音 [y] <T> の時と同じく、口をうんと丸く閉じて尖がらせ、そのままの恰好で<イ>と発音します。つまり<ヴィ>を口の形を変えずに発音するのです。

위하여 [y-ha-jo] (～の為に), 귀중 [ky-dʒuŋ] (貴重)
쉬다 [sy-da] (休む), 쥐다 [tʃy-da] (持つ)

2. 合成母音

朝鮮語の合成母音は10個ありますが、これは单母音二つを重ねたものです。しかし二重母音ではありません。この合成母音は長く発音して見ると、最初と終りの口の恰好も異り発音が同じでないものです。

ㅏ 全開音 [ja] 硬口蓋と舌の背とを附けるようにして、口を大きく開き、<ヤー>と発音します。

日本語の<ヤ>と同じ音です。
야구 [ja-gu] (野球), 야만 [ja-man] (野蕃)
야시 [ja-si] (夜市), 약속 [jak-sok] (約束)

ㅓ 半開音 [jo] 硬口蓋と舌の背とを附けるようにして口を半開に開き、<イオー>と発音します。<ㅓ>の前に<ㅣ>をくっつけたような音です。

여우 [jo-u] (狐), 여유 [jo-ju] (余裕)
겨우 [kjо-u] (やっと), 벼루 [pjо-ru] (硯)

ㅓ 半閉円唇音 [yo] 硬口蓋と舌の背とを附けるようにして、口を半閉に丸く閉じながら、<イオー>と発音します。日本語の<ヨ>と同じ音です。

요구 [yo-gu] (要求), 요리 [rjo-ri] (料理)
요망 [yo-maŋ] (要望), 요금 [rjo-gwm] (料金)

ㅜ 近閉円唇音 [ju] 硬口蓋と舌の背とを附けるようにして、口を丸くとがらせて、<イウー>と発音します。日本語の<ユ>と同じ音です。

유지 [ju-dʒi] (有志), 유무 [ju-mu] (有無)
규모 [kju-mo] (規模), 휴가 [hju-ga] (休暇)

ㅔ 半開音 [jae] 硬口蓋と舌の背とを附けるようにして、口を半開に開き両端を釣り上げるようにして [jae] と発音します。

얘기 [jae-gi] (お話), 얘 [kjae] (그아이の略)

ㅖ 半閉音 [je] 硬口蓋と舌の背とを附けるようにし、口を半閉にして、<イエ>と発音します。

예비 [je-bi] (予備), 세계 [se-gje] (世界)
예방 [je-baŋ] (予防), 예의 [rje-wi] (礼儀)

ㅗ 半全開音 [wa] これは<ㅏ>と<ㅓ>とが重なった音です。つまりオとアを重ねて発音すればよいのです。<オァー>と発音します。

日本語の<ワ>に似ています。

파자 [kwa-dʒa] (菓子), **와사** [wa-sa] (ガス)
좌우 [tʃwa-u] (左右), **평화** [p'jɔŋ-hwa] (平和)

₩ 半開音 ($w\ddot{o}$) これは<T>と<ㅓ>が重なった音です。口をうんと丸くとがらせて、<T>を発し最後に力を入れて<ㅓ>の音を発します。日本語では<ウオ>に近い音です。

원수 [wɔn-su] (元帥), **권고** [kwon-go] (勧告)
주 [tʃwo] (주어 <拾って> の略)

₩ 半開音 (wae) これは<ㅏ>と<ㅐ>の音が重なったものです。<ㅏ>と同じく口を丸くとがらせて<ㅐ>の恰好をしてから<æ>と発音します。

왜 [wae] (なぜ), **돼지** [twae-dʒi] (豚)

₩ 半閉音 (we) これは<T>と<ㅔ>の音が重なったものです。<T>と同じく口を丸くうんとがらせてから<ㅔ>と発音します。日本語の<ウェ>に似ている音です。

웨치다 [we-tʃi-da] (叫ぶ), **궤** [kwe] (箱)

これで合成母音を終ったのですが、これらは発音の時に最初と口の恰好が異なるように、二つの母音がいっしょになったものです。この点をよくのみこみますと、理解が一そう早いと思い

ます。

ㅑ は	ㅣ + ㅏ	ト	(ヤ)
ㅕ は	ㅣ + ㅓ	ト	(イョ)
ㅛ は	ㅣ + ㅗ	ト	(ヨ)
ㅕ は	ㅣ + ㅜ	ト	(ュ)
ㅘ は	ㅣ + ㅚ	ト	(オエ)
ㅙ は	ㅣ + ㅕ	ト	(イェ)
ㅚ は	ㅣ + ㅞ	ト	(ワ)
ㅚ は	ㅓ + ㅓ	ト	(ウョ)
ㅙ は	ㅓ + ㅏ	ト	(ウェ)
ㅙ は	ㅓ + ㅓ	ト	(ウェ)

3. 二重母音

朝鮮語の二重母音は一個しかありません。これは二個の母音の音がくっついて一つの音節をなしているのです。つまり二つの音が明瞭に発音されます。

ㅡ 近閉音 ($\dot{w}i$) これは<ㅡ>を発音して、すぐ<ㅣ>を発音するのです。これはやっかいな音ですが、根気よくやって下さい。日本語の<イ>にやや近い音です。

의사 [wi-sa] (医師, 意思), **의미** [wi-mi] (意味)
의무 [wi-mu] (義務), **의의** [wi-wi] (意義)

第六講

子音の発音

朝鮮語の子音 19 個を、その音の性質、発音する方法等によって、分類表を作ると次のようにになります。これは諸外国語も大体同じように分類します。これをよく練習しますと、その性質や発音する時の様式等が、充分理解できると思います。

なお、単語の最初に来る子音を〈語頭〉に来るといい、最後に来る子音を〈語末〉に来るといいます。以下これに準じて使っていきます。

方法	位置	両唇音	舌端音	軟口蓋音	喉頭音
破裂音	ㅂ, ㅃ, ㅍ	ㄷ, ㅌ, ㅋ	ㄱ, ㄲ, ㅋ		
摩擦音		ㅅ, ㅆ, ㅊ			ㅎ
破擦音		ㅈ, ㅉ, ㅊ			
鼻音	ㅁ	ㄴ	ㅇ		
顫動音		ㄹ			

1. 単子音

ㄱ [k, g] これは英語の k, g, と同じような音で、日本語の〈カ〉行に似たような音です。

[k] の場合（語頭、及び、語末に来たとき）

ㅋ [ka-da] (行く), **고기** [ko-gi] (魚, 肉)
거리 [ko-ri] (街), **구름** [ku-rwm] (雲)
속 [sok] (内, 中), **독** [tok] (毒, 魔)

[g] の場合（語中に来た時）
연구 [jŋn-gu] (研究), **바구니** [pa-gu-ni] (籠)

ㆁ [ŋ] の場合（母音と有声子音の間に来た時）
먹는다 [mŋ-nŋn-da] (食べる), **먹물** [mŋ-mul] (墨汁)

ㄴ [n] これは英語の n と同じく、日本語の
〈ナ〉行に似た音です。

나무 [na-mu] (木), **나라** [na-ra] (国)
논 [non] (田), **눈** [nun] (雪, 眼), **산** [san] (山)

ㄷ [t, d] これは英語の d に近く、日本語の〈タ〉
行に近い音です。

[t] の場合（語頭に来た時）
다리 [ta-ri] (橋, 脚), **도라지** [to-ra-dʒi] (桔梗),
도시 [to-si] (都市), **도미** [to-mi] (鯛)

[d] の場合（語中に来た時）
오다 [o-da] (来る), **바다** [pa-da] (海)
내다 [næ-da] (出す), **놀다** [nol-da] (遊ぶ)

[n] の場合（母音と有声子音の間）

받는다 [pan-nẅn-da] (受けとる)

(t) の場合 (語末或いは母音と無声子音の間に来た時)

꼿 [kot] (直ぐ), **닫다** [tak-ta] (閉める)



[r,l]

これは英語の r と l の二つの性質をもった音です。日本語の <ヲ> 行に似た音です。舌の先を上の前歯の根元につけ、息が舌の両脇から出るように、舌の先を平らにし、細かく震動させ気味で出します。

(r) の場合 (語頭、または母音と母音、子音と母音の間に来たとき)

라디오 [ra-di-o] (ラジオ), **리상** [ri-saŋ] (理想)
빨리 [p?al-ni] (早く), 흐르다 [h̄w-r̄w-da] (流れる)

(l) の場合 (語末、または子音の間に来た時)

갈다 [kal-da] (耕す、磨ぐ), 날다 [nal-da] (飛ぶ)
길 [kil] (道), 달 [tal] (月), 발 [pal] (足)



[m]

両唇を閉じて鼻から息を抜きます。これは英語の m、日本語の <マ> 行と同じ音です。

마차 [ma-tʃ'a] (馬車), **마당** [ma-daj] (庭、場)
모기 [mo-gi] (蛾), **맘** [mam] (心), **감** [kam] (柿)



[p, b]

両唇を閉じてから一挙に口を開けながら

息を破裂させます。英語の b、日本語の <ペ> 行に似ています。

(p) の場合 (語頭及び母音と無声子音、語末に来たとき)

보리 [po-ri] (麦), **부모** [pu-mo] (父母)
밥 [bab] (飯), 집 [t̄sip] (家), 굽다 [kup-ta] (曲る)

(b) の場合 (母音と母音、又は有声子音と母音の間に来たとき)

두부 [tu-bu] (豆腐), **남북** [nam-buk] (南北)
사방 [sa-baŋ] (四方), **남비** [nam-bi] (鍋)

(m) の場合 (母音と有声子音の間にきたとき)

갑니다 [kam-ni-da] (行きます), 옵니다 [om-ni-da] (来ます), 놀니다 [nom-ni-da] (遊びます)
춥니다 [sw̄m-ni-da] (~しました)



[s]

上下の歯の間を少しあけて、息を吐き出します。英語の s、日本語の <サ> 行と同じ音です。

(s) の場合 (語頭、母音と母音の間、有声子音と母音の間にきたとき)

사람 [sa-ram] (人間), **사자** [sa-dʒa] (獅子)
가수 [ka-su] (歌手), **군소리** [kun-so-ri] (たわ言)

(t) の場合 (語末、母音と無声子音の間にきたとき)

ナ [nat] (鎌), 챕다 [s'it-ta] (洗う)
カッ シッタ
갓 [kat] (冠), 빙 [pit] (櫛)
ピッ

 [ŋ] これは英語の king の <ング> に当たります。<ング> と鼻から息を抜きます。又この音が母音といっしょになった場合でも母音の音を変えずに出します。

(母音の前にきていっしょになった場合)

아 [a] 이 [i] 우 [u] 은 [e] 오 [o]

[ŋ] の場合 (どこの位置でも出る)

강 [kan] (江, 河), 공기 [kon-gi] (空気)
カンギ
당분 [tan-bun] (糖分, 当分), 労동 [ro-dong] (労働)
タンブン ロトン

 [tʃ, ʒ] これは <ㅅ>, s の音が濁って出る音です。日本語の <ザ> 行に似ています。

[tʃ] の場合 (語頭にきたとき)

자기 [tʃa-gi] (自分, 激氣), 자모 [tʃa-mo] (字母)
ザギ ザモ
지리 [tʃi-r] (地理), 조사 [tʃo-sa] (調査)
チリ ソサ

[ʒ] の場合 (母音と母音, 有声子音と母音の間にきたとき)

가지 [ka-dʒi] (茄子), 모자 [mo-dʒa] (帽子)
カジ モザ
감자 [kam-dʒa] (甘藷), 남자 [nam-dʒa] (男子)
カムザ ナムザ

[n] の場合 (母音と有声子音の場合)

찾는다 [tʃ'an-nwn-da] (探す), 갖는다 [kan-nwn-da]
チアヌヌダ カヌヌダ

(持つ)

[t] の場合 (語末, 母音と無声子音の間にきたとき)
澈다 [tʃ'ot-ta] (濡れる), 낮 [nat] (昼)
チオットタ ナッタ
낮다 [nat-ta] (低い), 갓다 [kat-ta] (備える, 持つ)

 [h] これは英語の h, 日本語の <ハ> 行に似ています。<ヘー>と息を出せばよいです。

[h] の場合 (語頭, 無声子音と母音, 母音と無声子音, 有声子音と無声子音の間に来るとき)

허리 [hɔ-ri] (腰), 각하 [ka-k'a] (閣下)
ホリ カカ
놓다 [no-t'a] (置く), 품다 [k'wn-t'a] (切る)
ノタ ツタ

(黙音 “零” になる場合) [母音と母音, 有声子音と母音, 母音と有声子音の間に来るとき]
나라 [na-ra] (多いから), 많으니 [ma-nw-ni]
ナラ マヌニ
낳다 [na-t'a] (産む)
ナタ

2. 濃 音

 [k?] これは <ㄱ> を非常に強く出す音です。<ㄱ> と同じく軟口蓋をつまらせてから、強く息を吐き出しながら破裂させます。

[k?] の場合 (語頭, 母音と母音, 有声子音と母音, 無声子音と母音の間に来るとき)

꼬리 [k'ɔ-ri] (尾っぽ), 꿈 [k'um] (夢)
コリ ツム

ㅌ [t[?]] (斧) [to-k[?]i] (斧), **눈알** [nun-k[?]al] (目玉)
[ナヌム] (眼)

(*ŋ*) の場合 (母音と有声子音の間に来たとき)
弄느라 [muj-no-ra] (束ねる), **닦는다** [taŋ-nẅn-da] (磨く), **깎는다** [k[?]aŋ-nẅn-da] (削っている)

(*k*) の場合 (母音と無声子音の間, 語末に来たとき)
낚 [pak] (外), **낚다** [nak-ta] (釣る)
倨다 [muk-ta] (束にする), **깎다** [k[?]ak-ta] (削る)

ㄷ [t[?]] これは <ㄷ> の音を非常に強く出すのです。舌の先を前歯の上にしっかりと附けてから、強く息を破裂させます。

탈 [t[?]al] (娘), **띠** [t[?]i] (帶), **땀** [t[?]am] (汗)
코뿌라미 [ky-t[?]u-ra-mi] (こおろぎ)

ㅃ [p[?]] これは <ㅂ> の音を極めて強く出す音です。両唇を固く結んで、息を口の中でしめつけて、唇を破裂させながら息を抜きます。

뿌리 [p[?]u-ri] (根), **빨리** [p[?]al-ni] (早く)
빠 [p[?]jam] (はお), **빠지다** [p[?]a-dʒi-da] (抜ける)

ㅆ [s[?]] これは <ㅅ> の音を非常に強く出す音です。上下の歯をつくつか付かない程度に開けて息を強く吐き出します。つまり摩擦

させます。

(*s[?]*) の場合 (語頭, 母音と母音, 有声子音と母音,

無声子音と母音の間に来たとき)
싸다 [s[?]a-da] (安い, 包む), **무씨** [mu-s[?]i] (大根の種子), **솜씨** [som-s[?]i] (腕前), **각씨** [kak-s[?]i] (新婦)

(*n*) の場合 (母音と有声子音の間に来たとき)
있느라 [in-no-ra] (有る), **갔느?** [kan-no] (行ったか)

(*t*) の場合 (母音と無声子音の間にきたとき)
잇다 [it-ta] (有る, いる), **잤다** [jot-ta] (過去助詞)

ㅉ [tʃ[?]] これは <ㅈ>, 即ち日本語の <ズ> を非常に強く出す音です。上下の歯を少し開き、濁らせて息を強く摩擦させながら出します。

չ [tʃ[?]a-da] (擦る, 塩辛い), **չ** [tʃ[?]ik-ta] (擦る), **이쪽** [i-tʃ[?]ok] (この方向), **쫓다** [tʃ[?]ot-ta] (逐う)

3. 激 音

ㅋ [k[?]] これは <ㄱ> と <ㅎ> が重なって出来た音です。ドイツ語の <カール> とか <カイゼル> の時の <カ> に似ています。軟

口蓋を強い息で押し出しながら破裂させます。日本語の〈カ〉行をきつく出しながら〈タ〉と発音します。

(k') の場合 (語頭, 母音と母音, 母音と子音の間に来るとき)

칼 [k'al] (刀), 코 [k'o] (鼻), 카 [k'i] (背丈)
기쁨 [ju-k'wae] (愉快)

(k) の場合 (語末に来たとき)

부엌 [pu-ek] (台所), 저녁 [tʃo-njok] (夕方)



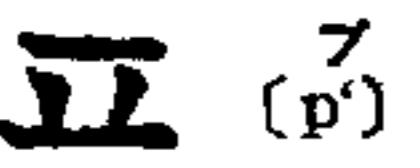
(t') これは英語やドイツ語の t の音と同じです。〈ㄷ〉の音をもっときつく出せばよいのです。舌の先を前歯の上に附けてから、きつく破裂させながら息を吐き出します。

(t') の場合 (語頭, 母音と母音, 母音と子音の間にきた時)

타다 [t'a-da] (乗る, 貰う), 토끼 [t'o-k'i] (兎)
토론 [t'o-ron] (討論), 투표 [t'u-p'jo] (投票)

(t) の場合 (語末, 母音と無声子音の間に来たとき)

날 [nat] (個), 말다 [mat-ta] (においをかぐ)



(p') これは英語の p, 日本語の〈パ〉行に似ています。両唇をしっかりと結んで、一拳

に息を吐き出すように破裂させます。

(p') の場合 (語頭母音と母音, 母音と子音の間にきたとき)

파도 [p'a-do] (波), 파리 [p'a-ri] (蝶, パリー)
파우 [p'i-da] (咲く), 표준 [p'jo-dʒun] (標準)

(p) の場合 (語末に来たとき)

앞 [ap] (前), 뒷 [jcp] (傍), 숲 [sup] (林)



(tʃ')

これは英語の〈チャーチル〉とか, ドイツ語の〈ドイッヂェ〉等の〈チャ〉, 〈チエ〉にあたるものです。舌の先を上歯の根元につけて、息をきつく破裂させます。

(tʃ') の場合 (語頭, 母音と母音, 母音と子音の間にきたとき)

차표 [tʃ'a-p'jo] (汽車の切符), 치마 [tʃ'i-ma] (スカート), 친구 [tʃ'in-gu] (親友, 友達), 공출 [koŋ-tʃ'ul] (供出)

(t) の場合 (語末, 母音と無声子音の間にきたとき)

꽃 [k'ot] (花), 웃다 [tʃot-ta] (従う)
몇 [mjt] (幾何), 낫 [nat] (顔)

以上の激音は次のように二つの子音が重なって出来たものです。文章の中でこの二つの音が重なると, おののおの, 音の変化が起ります。

ㄱ + ㆁ 又は ㆁ + ㄱ → ㅋ
 ㆁ + ㆁ 又は ㆁ + ㆁ → ㆁ
 ㆁ + ㆁ 又は ㆁ + ㆁ → ㆁ
 ㆁ + ㆁ 又は ㆁ + ㆁ → ㆁ

4. 子音の分類

今まであげてきました子音を、五つの部類にわけることが出来ます。この五つの部類をよくみると、それらが非常に順序よく、科学的に出来ていることに気づくと思います。これをよく理解すると、字母の構造や発音をもっと正確に学ぶことが出来ます。

牙 音 ㄱ, ㅋ, ㆁ

これは犬歯を利用して作られるものといわれます。これは、口の両わきに犬歯があっても出る音なのです。口の両わきに指をつっこんで発音して見て下さい。表記の順序も „ㄱ“ の字に横棒一つを加えて „ㅋ“ となし、その音も一層強くなっています。

舌 音 ㄴ, ㄷ, ㅌ, ㆁ, ㆁ

この音は、すべて舌を利用して発音される音です。口を動かさず、舌と息の抜き具合、力の入れ方によって、これらの音が発音できます。字母の作りも横を一つずつ加えています。音もそれによって強くなっています。

唇 音 ㅁ, ㅂ, ㅍ, ㆁ

これは、唇を利用して発声される音です。唇を閉じてから破裂させながら、息を吐き出すようにして、発音すると出来ます。これも音がだんだん強くなり、また激音になっています。

齒 音 ㅅ, ㅈ, ㅊ, ㆁ, ㆁ

これは、歯を利用して出される音です。上下の歯を少しあけて、その歯に摩擦するように息を吐き出します。⟨ㅅ⟩ の場合は濁音になっています。

喉 音 ㅇ, ㆁ

これは、のどを利用して出される音です。つまり、喉を丸くして嘘音を出します。これは、舌や唇、及び歯等を使わずに喉から息を出すだけです。

これで、子音の性質や、発する時の形や位置がよくお分かりだと思います。子音の発音を正確に覚えて下さい。

第 七 講

綴 字

前にも述べたように、朝鮮語の字母は、必ずしも子音と母音が組み合わされて、一つの文字、つまり一音節を構成します。諸

外国語の場合も、単語を構成する時は、母音と子音が結合されますが、それよりも少し複雑です。母音と子音が結合して、一音節（一文字）を作りますが、その一文字だけで一つの単語の場合もあります。大抵は文字が二つ三つ、或いは、それ以上結合されて、一つの単語を作ります。これは、日本語も同じ面があります。例えば

ヤマ、ツクエ、コシカケ、ガツコウ
(山) (机) (腰掛) (学校)

のように二つ、三つ、四つの文字が結合されて一つの単語を作ります。

조선 イルボス ナム
(朝鮮), 일본 (日本), 나무 (木)

のように組合わさります。綴字というのはこのように、字母の種々の結合によって、単語や文章を作っていくことです。これから綴字の学習に移ります。

次に書いてある字母を、並べてある順序に従って、読んで下さい。
レトヨト, ヨトヨト, ストスト
ヨトヨトロ, ストヨトロ, フト
ヨ一口, ヨナヒーレトロト

これを今一音節を一文字（束）にまとめて見ると

ナラ ボリ サザ バラム サラム
나라, 보리, 사자, 바람, 사람
클루 ぱと ナム
클름, 베드나무

のようになりますが、この組合せの場合は一定の規則があります。つまり上下、左右の位置がきまっています。

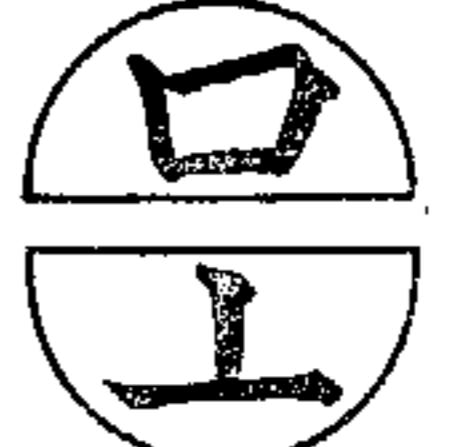
子音は 左, 上, 下, に

母音は 右, 中間, 下, に

今これを図解して見ると、次のようになります。



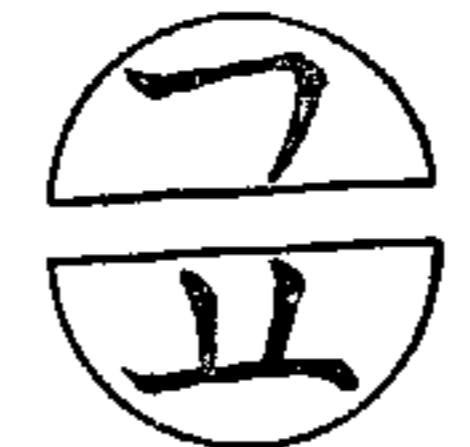
나 라
(国)



모 부
(父母)



름 자
(雪)



학교
(学校)

これを次のように組み合せても文字にはなりません。又そんな綴りはないわけです。

① ト ト ト ト
 ト ト ト ト
 ト ト ト ト
 ト ト ト ト

これは左に来るべきもの（①, ②, ④, ⑦）が右に来ており、上に来るべきもの（③ ⑤ ⑥ ⑧）が右或いは左に来ています。

次の字母を綴ってみて下さい。

트토트트 (单語), 트트트트 (靴), 트트트트 (朝)
 트트트 (晚), 트트트트 (机), 트트트트 (腰掛)
 스트레스트 (先生), 스트레스트 (生徒), 트트트 (道)
 트트트트트트 (歩いて行く), 르트트트트 (勉強している),
 르트트트트 (食う), 르트트트트 (勉強している),
 르트트트트 (勞働している人)

この綴りの場合、母音の中で右に来るものは（中間の場合もある）。

트, 트, 트, 트, 트, 트, 트
 であり、母音が下に来るものは（中間の場合もある）。

트, 트, 트, 트, 트, 트, 트
 であり、右と下に同時に来るものは（中間の場合もある）。

트, 트, 트, 트, 트, 트, 트
 であります。

第八講

字母二個の組み合せの綴り

これまで学んで来た綴りの組み立てを、総括して見ましょう。今ここに、子音と母音とがそれぞれ一つづつからなる綴りをローマ字五十音図式に示して見ますと、その綴りの組み合せ方がよく判かります。逆に綴りを分解してその合成要素の子音と母音を知ることも出来ます。ただローマ字と違うところは、左右の組み合せだけでなく上下の組み合せがあることです。

母音 子音	트	트	트	트	트	트	트	트	트	트
ㄱ k(g)	가	캬	거	겨	꼬	쿄	구	꺁	ㅋ	기
ㄴ n	나	ڽ	녀	ڽ	노	뇨	누	ڽ	՞	니
ㄷ t(d)	다	탸	텨	텨	도	툐	두	ڌ	ڌ	티
ㄹ r(l)	라	ರා	රු	රු	로	රෝ	루	ලු	ලු	리
ㅁ m	마	ມා	ມු	ມු	모	ມෝ	ሙ	ມු	ມු	미
ㅂ p(b)	바	ປා	ປු	ປු	보	ປෝ	පු	ປු	ປු	පි
ㅅ s	사	සා	සු	සු	소	ස්ං	සු	සු	සු	시
ㅇ o	아	යා	ㅓ	ㅓ	오	ㅗ	우	ਊ	ਊ	이

母音 子音	ㅏ a	ㅑ ja	ㅓ e	ㅕ jo	ㅗ o	ㅛ yo	ㅜ u	ㅜ ju	ㅡ w	ㅣ i
ㅈ tʃ (dʒ)	자 tʃa	쟈 tʃja	저 tʃɔ	저 tʃjo	조 tʃo	조 tʃjo	주 tʃu	쥬 tʃju	즈 tʃw	지 tʃi
ㅊ tʃ' (dʒ')	차 tʃ'a	챠 tʃ'ja	처 tʃ'ɔ	처 tʃ'jo	초 tʃ'o	초 tʃ'jo	추 tʃ'u	츄 tʃ'ju	쑤 tʃ'w	치 tʃ'i
ㅋ k'	카 k'a	캬 k'ja	캬 k'ɔ	캬 k'jo	쿄 k'o	쿄 k'jo	쿄 k'u	쿄 k'ju	쿄 k'w	키 k'i
ㅌ t'	탸 t'a	탸 t'ja	탸 t'ɔ	탸 t'jo	툐 t'o	툐 t'jo	툐 t'u	툐 t'ju	툐 t'w	탸 t'i
ㅍ p'	파 p'a	파 p'ja	파 p'ɔ	파 p'jo	ㅍ p'o	ㅍ p'jo	ㅍ p'u	ㅍ p'ju	ㅍ p'w	ㅍ p'i
ㅎ h	하 ha	하 hja	하 ho	하 hjɔ	하 ho	하 hjo	하 hu	하 hju	하 hw	하 hi

これは二つの場合の組み合わせを参考のためにあげましたが、このようにして母音と子音が種々に結合されます。ここにあげた以外にも子音5個と母音11個があるわけです。これも子音の右側に母音を組合せると一つの文字になります。各人この組合せの原理に従ってやってみましょう。

第九講

代表的な綴り

次に綴りの代表的な例をあげて、まとめて見ましょう。

- | | |
|-----------|--------------------|
| ㅇ → ㅗ = 아 | 아 ば ジ |
| ㅂ → ㅓ = 벼 | 아 벼 지 (お父さん) |
| ㅅ → ㅣ = 지 | (a-bo-dʒi) |
| ㅋ → ㅜ = 투 | トゥ ピョ |
| ㅌ → ㅡ = 표 | 투 표 (投票) |
| ㆁ → ㅑ = 야 | 야 グ |
| ㆁ → ㅜ = 우 | 야 우 (野球) |
| ㆁ → ㅓ = 여 | 여 ウ |
| ㆁ → ㅗ = 우 | 여 우 (狐) |
| ㆁ → ㅐ = 배 | 배 チュ |
| ㆁ → ㅓ = 추 | 배 추 (白菜) |
| ㆁ → ㅔ = 래 | タエ ド |
| ㆁ → ㅗ = 도 | 태 도 (t'ae-do) (態度) |
| ㆁ → ㅖ = 레 | 리エ ライ |
| ㆁ → ㅚ = 의 | 레 의 (禮儀) |
| ㆁ → ㅣ = 시 | シ ゲュ |
| ㆁ → ㅔ = 계 | 시 계 (時計) |
| ㆁ → ㅑ = 화 | 파 ロ |
| ㆁ → ㅗ = 로 | 화 로 (火鉢) |
| ㆁ → ㅕ = 과 | ク ゼ |
| ㆁ → ㅓ = 제 | 과 제 (課題) |
| ㆁ → ㅔ = 제 | (kwa-dʒe) |

◦ → ㅕ = 왜 ^와
 (wae) (何)

ㄷ → ㅕ = 왜 ^와
 ㅈ → ㅣ = 지 ^지
 (twae-dži) (豚)

ㅎ → ㅚ = 회 ^회
 (hø-wi) (회의) (会議)

ㅁ → ㅕ = မ ^마
 (mo) (何)

◦ → ㅖ = ㅖ ^ㅖ
 ㅈ → ㅣ = ㅖ ^ㅖ
 ㄷ → ㅗ = 댜 ^탸
 (we-tʃi-da) (叫ぶ) (呼ぶ)

ㅅ → ㅟ = ㅟ ^ㅟ
 (tʃy) (ねずみ)

ㅋ → ㅗ = 꺄 ^꺄
 ㅁ → ㅗ = 먀 ^먀
 ㄱ → ㅟ = �� ^{��}
 (kʰa-ma-gy) (島)

ㆁ → ㅗ = ㆁ ^ㆁ
 ㆁ → ㅓ = ㆁ ^ㆁ
 ㆁ → ㅏ = ㆁ ^ㆁ
 (ㆁo-kʰi-ri) (象)

ㅌ → ㅐ = ㅐ ^ㅐ
 (tʰae) (時, 堀)

ㄱ → ㅣ = ㅣ ^ㅣ
 ㆁ → ㅡ = ㆁ ^ㆁ
 ㄷ → ㅗ = ㅗ ^ㅗ
 (ki-pʰw-da) (嬉しい)

ㅆ → ㅡ = ㅆ ^ㅆ
 ㄷ → ㅗ = ㅗ ^ㅗ
 (sʰw-da) (使う, 書く)

ㅊ → ㅗ = ㅊ ^ㅊ
 ㆁ → ㅗ = ㆁ ^ㆁ
 (tʃʰa-da) (염からい, 織る, しぶる)

第十講

반침 (終声) (1)

母音や子音、及び綴字のところですでに出ているとおり、子音と母音が組み合わされて一つの文字を作りますが、その上にまた子音一つ或いは二つを加えて、一音節を作るのです。母音一つと子音一つだけを組み合わせただけでは不充分であるからです。多種多様な音を表わすのには、どうしてももっと多くの綴りが必要になります。ただ、注意すべきことは、子音と母音を組み合わせて、この上に一つ、または二つ加えるときは必ず子音でなければなりません。母音を加えることは出来ません。この子音を加えることを〈반침〉(終声)と、いいます。朝鮮語では、 반침のついている文字の場合、それを三つの段階に分けることが出来ます。

일 본 (日本) という場合

◦ + ㅣ + ㄹ = 일 ㅂ + ㅗ + ㄴ = 본
 ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓
 初声 中声 終声 初声 中声 終声

この ㄹ, ㄴ が〈일본〉の終声です。朝鮮語の場合は一文字は一音節ですから、子音と母音の結合が三つであっても四つであっても、一音節として発音しなければなりません。これは日本の場合もあることですから、容易に出来ます。例えば日本語に

がっこう (学校), ~しましょう

の場合, がっ, こう, しょう は二つ或いは三つの文字が結合されていますが, これをが, つ, こ, う, し, よ, う, とは読みますに, がっ, こう, しょう, と一音節として読む理屈と同じです。

일본 = (日本) [il-bon] イルボン

これは 일 (イル) と 본 (ボン) がおののおの一音節として発音されますから, <イル> とならないように注意して下さい。

<日本>という場合も, にっぽん, となるのであって, にっぽん, とならないことと同じです。

발침 として使用される子音は, 何個くらいあるか, それは子音 14 個, それから子音 2 個を合せたもの 11 個, それに子音の濁音 2 個です。

ㄱ, ㄴ, ㄷ, ㄹ, ㅁ, ㅂ, ㅅ, ㅈ, ㅋ, ㅌ,
ㅍ, ㅎ

の子音 14 個と

ㄲ, ㄸ, ㅃ, ㅉ, ㅆ, ㅉ, ㅆ, ㅆ, ㅆ, ㅆ
の異った子音が二つ結合したもの 11 個と,

ㄲ, ㄸ

の同子音が二つ重なった濁音二つです。

第十一講

발침 (2)

最初に, 발침 一つの場合を詳しく例を挙げて述べましょう。

ㄱ 발침

조국 [tʃo-guk] (祖国), 국기 [kuk-ki] (国旗)
곡식 [kok-sik] (穀物), 리익 [ri-ik] (利益)

[ㄱ] は無声音でありますから, 発音の際はっきりと出るのではなく, 口の恰好が主になります。初声としてきたときよりも, 発音として来た時はその現象が著しいです。日本語のキット, ケッシテの場合の, [ッ] に近い音で, 音が口蓋でつまり口外には音が出ません。

ㄴ 발침

인민 [in-min] (人民), 선진 [seon-dʒin] (先進)
자본 [tʃa-bon] (資本), 준비 [tʃun-bi] (準備)

[ㄴ] は [n] ですから, 簡単に出来ます。

ㄹ 발침

별 [pjɔ:l] (星), 별 [pul] (火)
발달 [Pal-t'al] (発達), 길 [kil] (道)

[ㄹ] は, r と l の二つの音を同時に包含している音ですが, 発音として使われる時は, いつでも <l> の音になります。

初声の場合は必ず <r> の音になります。

라 [ra], 리 [ri], 루 [ru], 레 [re], 로 [ro],
 톨 [tol] (石), 탈 [tal] (月), 날 [nal] (日)

ㅁ 받침

마음 [ma-ɯm] (心), 점심 [tʃom-sim] (昼食)
 봄 [pom] (春), 힘 [him] (力)

ㅂ 받침

압박 [ap-bak] (压迫), 밥 [pap] (饭)
 답 [tap] (答), 집 [tʃip] (家)

(ㅁ) も (ㅂ) 共に唇を結んでから破裂させる音で、もっともやさしい音です。(ㅁ)は鼻から息を抜き、(ㅂ)は口から息を出せばよいです。これが 받침ですから口を閉じればよいわけです。

ㆁ 받침

평화 [p'jɔŋ-hwa] (平和), 승리 [swŋ-ni] (勝利)
 정부 [tʃɔŋ-bu] (政府), 농민 [noŋ-min] (農民)
 この音は (ㆁ) ですから、鼻から息を抜けばよいのです。この音は、初学の人々は (ㄴ) (ㅁ) と混同しやすい音です。
 남반부 [nam-ban-bu], 남방부 [nam-baŋ-bu]

この場合

반 [ban] と 방 [baŋ, baŋ, þan, þaŋ]
 の区別がつきにくいです。よく練習して下さい。

これから述べる ㄷ, ㅅ, ㅈ, ㅊ が 받침となるときの共通点は、[そく音] つまり、日本語の [t] という音に近いことです。表音符号の [t] で表わします。

ㄷ 받침

굳다 [kut-t'a] (固い), 곧다 [kot-t'a] (真直ぐだ)
 믿다 [mit-t'a] (信する), 걷다 [kot-t'a] (歩く)

ㅅ 받침

젖 [tʃɔt] (乳), 喫 [pit] (借金)
 짓다 [tʃit-t'a] (吠える), 늦다 [nwt-t'a] (晩い)

ㅈ 받침

낫 [nat] (顔), 꽃 [kɔt] (花)

ㅊ 받침

발 [pat] (畠), 얇다 [jat-t'a] (浅い)
 팔 [p'at] (小豆), 같다 [kat-t'a] (同じだ)

ㅅ 받침

그것 [kw-got] (それ), 저것 [tʃo-got] (あれ)
 낫 [nat] (鎌), 웃 [kot] (処)

以上の子音が終声になったときはその音が全部[そく音]で、口の恰好が同じように [t] (t) となります。

ㅋ 받침

녁 [ŋok] (頃), 부엌 [pu-ek] (厨)

この場合は [ク] [k] の音につまって終ります。

立 반침

앞 [ap] (前), 肩 [jɔp] (傍)

この場合は [ブ] [p] の音につまって終ります。

古 반침

낳다 [na-t'a] (産む), 좋다 [tʃo-t'a] (善い)
쌓다 [s?a-t'a] (積む), 놓다 [no-t'a] (放す, 置く)

以上で、[반침] 一つの場合を全部終ったわけです。ここでもう一つ、必ずつけ加えなければならないものがあります。それはこれら [반침] がついている語の次に、母音 <아> 行が来たときには発音が異ってきます。つまり、<반침> としてついている子音が、その次の母音といっしょになって発音されます。<아> 行の <아> の字は <o> と <t> が結合したものですが、この <o> は何の音もありません。この場合は単に <아> と文字を構成する必要上のことです、発音は <아> も <t> も変わりません。このように母音と結合されて発音されるのを、連音といいます。

앞으로 나가자 この文章は

아파로 나카자 と發音されます。

높은 산 (高い山), 깊은 물 (深い水)
↑ (노른산) ↓ (기쁜물)
ノぶヌサヌ キブヌムル

練習

次の文章を読みなさい。

- 조선은 인민의 나라다。
(朝鮮は人民の国だ。)
- 내가 심은 이팝나무。
(私が植えた杉の木。)
- 우리들은 하늘을 쳐다보았다。
(われわれは空を見上げた。)
- 여름은 땀고 가을은 선선하다。
(夏は暑く、秋は涼しい。)
- 그는 굳은 결심을 하였다。
(彼は固い決心をした。)

第十二講

반침 (3)

今まででは、반침が一つの場合ですが、これからは반침が二つの場合を勉強しましょう。一つの場合も二つの場合も理屈は同じですが、発音の規則が、少し違っています。

刀 반침

깎다 [k?ak-ta] (削る), 낚다 [nak-ta] (釣る)
밖 [pak] (外, 他), 꺾다 [k?ok-ta] (折る)
묶는다 [muŋ-nẅn-da] (束ねる), 닦는다 [taŋ-nẅn-da] (磨く)

この音が、半濁になった場合はふた通りの音になります。語末では、[k]([ク])になるが、母音と有声子音の間では、[ŋ]([ング])になります。

人 받침

있다 [it-t'a] (有る、現在を表わす補助詞)

었다 [ot-t'a] (過去語尾)

겠다 [ket-t'a] (未来語尾)

있는다 [in-nwn-da] (居る)

この音は、母音と有声子音の間にきたときは[n]([ヌ])となり、母音と無声子音の間の場合は[t]([ツ])の音になります。〔人〕の使われるのは〔有る〕という形容詞と、過去、未来の場合にのみ限られ、その他の場合には使いません。

例えば

엇(鉈), 끗(釘)のような名詞の場合〔𠂊〕, 〔景〕とは書くことは出来ません。

이 받침

앉다 [an-t'a] (坐る) 앉다 [on-t'a] (載せる)

例 결상에 앉고 앉다。(腰掛に坐っている。)

이 받침

많다 [man-t'a] (多い), 많다 [an-t'a] (しない)

例 많은 사람이 놀지 않고 일한다。

(多くの人が遊ばずに仕事をする。)

이 받침

읽다 [ikt'a] (読む), 맑다 [mak-t'a] (清い)
 밝다 [pak-t'a] (明るい) 늙다 [nwk-t'a] (年とる)

例 読은 달밤(明るい月夜)

이 받침

젊은이 [tjol-mw-ni] (若者), 굽다 [kum-t'a] (飢える)
 옮다 [om-t'a] (移る), 틸다 [tam-t'a] (似る)

例 미래는 젊은이 것 (未来は青年のもの)

이 받침

넓다 [nop-t'a] (広い), 踏다 [pap-t'a] (踏む)
 짧다 [tʃap-t'a] (短い), 여덟 [jo-dcp] (八つ)

例 넓은 바다, 짧은 옛길 (広い海, 短い道)

이 받침

퇴 [tol] (週年), 퇴 [ol] (代價)
例 복순의 퇴은 내일 (ボクスンの誕生日は明日)

이 받침

훑다 [hal-t'a] (舐める) 훑다 [hui-t'a] (挿取る)
例 개가 손을 훑는다。 (犬が手を舐める。)

이 받침

읊다 [wp-ta] (詠む, 詩などを詠じる)

例 こねヌ シるル ラフぬヌタ
그는 시를 읊는다。 (彼は詩を詠む。)

의 받침

잃다 [il-t'a] (失う), 옮다 [ol-t'a] (良い, 正しい)
オルタ

쉽다 [sil-t'a] (嫌い), 많다 [tal-t'a] (すりへる)
シルタ タルタ

例 옷은 일은 짙어도 하자。
オルヌ イルヌ シルト ハザ

(正しいことは、嫌でもやろう。)

았 받침

값 없다 [kap-ɒp-ta] (値うちがない)
카프오타

시름없다 [si-rwm-ɒp-ta] (心配がない)
시르음오타

없다 [ɒp-ta] (ない)
오타

例 물값은 비싸고 돈은 없다。
물가스스 빠싸고 돈은 없다。

(米価は高く、金はない。)

느 받침

넋 [nök] (魂), 액 [sak] (賃金)
느

몫 [mok] (配分)
모

例 품삯은 언제 주나。 (賃金はいつくれる。)
품상은 언제 주나。

以上で二つの 받침の場合を終りますが、二つの 받침は発音するとき次の三通りの規則によって支配されます。

① 잃다 [nop-t'a], 잡다 [tʃop-t'a],
느느

② 앉다 [an-t'a], 앓다 [ɒp-t'a], 많다 [man-t'a],
느느느

③ 넓으니 [nɔl-bw-ni], 없으니 [ɒp-sw-ni],
느느느

これは厳密にいえば多少異論もあるかと思いますが、一般的

に現代の朝鮮人民が發音するのを基礎にしたものです。

① の場合

[잃다] は ㄴ→ㅌ→ㅂ→ㄷ→ㅌ

[잡다] は 스→ㅓ→ㅁ→ㄷ→ㅌ

となり、二つの 받침 の ㅌ, ㄸ の左方の子音が無視されて発音されます。このように左方の子音が無視されるものは次の通りです。

西瓜, 韭, 豆腐, 韭

② の場合

[앉다] は ㅇ→ㄴ→ㅌ→ㄷ→ㅌ

[없다] は ㅇ→ㅓ→ㅂ→ㄷ→ㅌ

となり、今度は右の方の子音が無視されて発音されます。このように右の方の子音が無視されるものは次の通りです。

梨, 马, 豆, (肺)

③ の場合

これは先にも述べた通り、 받침の次に母音が来たとき、 받침が次に来る母音と結合して発音されるために起る現象です。この場合は一つの時と同じく二つの 받침の場合も母音と結合されます。しかし、二つの 받침が二つとも母音と結合することは出来ませんから、右方の子音が、

느→느, 느→느, 느→느

のように分離して、느, 느,느 が次の母音と結合して発音されます。

綴り	発音	綴り	発音
	のルブニ		トルシ
넓으니 →	널브니	돌이 →	돌시
	ゼルモソ		ハルヒ
젊어서 →	절머서	핥어 →	할허
	ぬおクスヌ		うルブニ
넋은 →	넉슨	읊으니 →	읊프니
	アンザソ		おフスル
앉아서 →	안자서	없을 →	업슬
	タルクル		
닭을 →	달글		

[ჩ] [ჩ] の場合は次に フ, ハ, ス, ジの子音が来ると同化しますが(後に出る), 母音が来るとときは, 殆んど無視された形になります。

옳으니	→	실으니	→	シルニ 시르니
않아서	→	안아서	→	アナソ 아나서

これで 받침（終声）のすべてを終りました。ここまで来るとどんな文章でも一応読むことが出来るし、書くことが出来ます。

練習

次の文章除んで下さい。

- 그는 별안간 밖으로 뛰여 나갔다。
(彼は突然外に飛び出した。)
 - 그는 일년 전에 학교에 입학하였다。
(彼は一年前に学校に入学していた。)
 - 책상에 얹은 것은 소설 책이다。
(机の上に載せたのは小説の本だ。)
 - 짐이 많아서 혼자 들 수 없다.
(荷物が多くて一人で持てない。)

5. 늙은이가 신문을 읽고 있다.
(老人が新聞を読んでいる。)
 6. 그 아이는 아버지를 놀리고 있다.
(その子供はお父さんにそっくりだ。)
 7. 농군이 보리밭을 밟고 있다.
(農夫が麦畑を踏んでいる。)
 8. 그는 국어책을 잃었다.
(彼は国語の本を失くした。)
 9. 그런 것은 아무 소용도 없다.
(そんなものは何の役にも立たない。)
 10. 나도 한 풍 들자.
(僕も仲間入りしよう。)

第十三講

語 音 同 化

われわが話をするとき、一つ一つの語音を別別に発音するのではなく、おおくの語音をつらねて発音します。この場合、前または後にある語音が影響を与えるか、または影響をうけて、発音の上で変化をおこす場合があります。これは日本語の場合も起る現象です。例えば、

感應（かんのう）を（かんおう）とはいわない。

觀音（かんのん）を（かんおん）とはいわない。

のようなものです。これは前にある語音が、後の語音に、後にある語音が前の語音に影響を与えて、互いに似かよった音、または同じ音に変化させことがあるからです。これを語音同化

といいます。

語音同化は、ある語音が他の語音に影響を及ぼすとき、その方向に従つて【順行同化】、【逆行同化】、【相互同化】の三つにわけられます。

1. 順 行 同 化

前にある子音、すなわち（終声）がその後にくる子音に影響を与えて、後にある音が前にある音と似かようか、または同じ音に変化するものを【順行同化】といいます。

本文 発音

동리 (村)	동니 [tɒg-ni] (トンニ)
명령 (命令)	명녕 [mjeŋ-nŋeŋ] (ミョングニョング)
승리 (勝利)	승니 [swŋ-ni] (スンニ)
용광로 (溶鉱炉)	용광노 [joŋgwano] (ヨンガグワノ)

これは、前にある [o, ň] が後にある [n] に影響を与えて [n] にし、同じ種類の鼻音に同化されたものです。

2. 逆 行 同 化

後にある子音が、前にある子音、すなわち、【받침】に影響を与えて、前にある音が後にある音と似かようか、同じ音に変化するものを【逆行同化】といいます。

本文 発音

먹는다 (食べる)	멍는다 [məŋ-nwn-da] (もングヌダ)
찾는다 (探す)	찬는다 [tʃhan-nwn-da] チアヌヌダ
앞문 (前門)	암문 [am-mun] (アムムス)

【逆行同化】には、つぎのように五種類のものがあります。

(その一)

後にある [ㄴ, ㅁ] の音が前にある [ㄱ, ㅋ, ㄲ, ㆁ] 音を [ㅇ] に同化させます。

本文 発音

혁명 (革命)	형명 [hjeŋmjəŋ] (ヒョングミヨンダ)
밝는다 (明るくなる)	방는다 [paŋ-nwn-da] (パングヌダ)
학문 (学問)	학문 [haŋ-mun] (ハングムヌ)

(その二)

後にある [ㄴ, ㅁ] の音が前にある [ㅂ, ㅍ, ㅃ, ㆁ] 音を [ㅁ] に同化させます。

本文 発音

업는다 (背負う)	엄는다 [əm-nwn-da] (おムヌダ)
옆문 (横の門)	염문 [jəm-mun] (ヨムムヌ)
밥풀 (飯たきの水)	암풀 [pam-mul] (バムムル)
밟는다 (踏む)	암는다 [pam-nwn-da] (バムヌダ)

(その三)

後にある [ㄴ, ㅁ] の音が前にある [ㄷ, ㅌ, ㅆ, ㅊ, ㆁ] 音を [ㄴ] に同化させます。

本文 発音

받는다 (受ける)	반는다 [pan-nwn-da] (バヌヌダ)
벗는다 (脱ぐ)	번는다 [pən-nwn-da] (ボヌヌダ)
있느니 (あるのか)	인느니 [in-nw-nja] (イヌヌニヤ)
찾느니 (探すのか)	찬느니 [tʃan-nw-nja] (チアヌヌニヤ)
擾느니 (逐うのか)	온느니 [tson-nw-nja] (チオヌヌニヤ)
낮마다 (昼ごとに)	난마다 [nan-ma-da] (ナヌマダ)
발마다 (烟ごとに)	반마다 [pan-ma-da] (バヌマダ)

(その四)

後にある [ㄹ] の音が前にある [ㄴ] 音を [ㄹ] に同化させます。

本文	発音
근로 (勤労)	글로 [kwl-ro] (kul-ro)
훈련 (訓練)	훈련 [hul-rjən] (フルリョヌ)
진리 (真理)	진리 [tʃil-ri] (チルリ)
인류 (人類)	인류 [il-rju] (イルリュ)
권력 (権力)	권력 [kwel-rek] (クエルリョク)

(その五)

後にある [이] の音が前にある子音 [ㄷ, ㅌ] の音に影響を与えて、[ㅈ, ㅊ] に変化させます。これを [口蓋音化] ともいいます。(口蓋音化の項参照)

本文	発音
굳이 (固さ)	구지 [ku-dʒi] (クジ)
미닫이 (ひき戸)	미다지 [mi-da-dʒi] (ミダジ)
같이 (同じ、一緒に)	가치 [ka-tʃhi] (カチ)
밭이 (畠が)	바치 [pa-tʃhi] (バチ)

3. 相互同化

前にある子音、すなわち、발침の音と後に来る音が互いに影響を与えたり、影響されたりして、互いに似かよっているか、あるいは同じ音に変化するものを、[相互同化] といいます。

本文	発音
속력 (速力)	송녁 [soŋ-njək] (ソングニョク)
백리 (百里)	백리 [pæŋ-ni] (パエンギニ)
합력 (合力)	합력 [ham-njək] (ハムニョク)

십리 (十里) 십리 [sim-ni] (シムニ)

これらは、[ㄱ] と [ㄹ] , [ㅂ] と [ㄹ] が、同時に影響を与えて、[ㄱ] は [ㆁ] 、[ㄹ] は [ㄴ] の音に、[ㅂ] は、[ㅁ] 、[ㄹ] は [ㄴ] の音に同化されています。

しかし、これらの同化現象は、発音上のことであって、表記する場合(書く場合)は、原形のまま書くことに充分注意して下さい。

第十四講

[ㅊ] と混成される子音

[ㄱ], [ㄷ], [ㅂ], [ㅈ] が [ㅊ] に出逢うと、おのおのの発音が [ㅋ] [ㅌ] [ㅍ] [ㅊ] に変わります。これについては激音のところで簡単に説明した通り、ㅋ, ㅌ, ㅍ, ㅊは字母としては一個のものですが、音としては二つの異った子音が重なって出来た音です。

(その一)

[ㄱ] の前、又は後に [ㅊ] が来たとき、この二つの音が重なって [ㅋ] 音に変わります。

例 락하산 [ra-k'a-san] (落下山)

리토 ㅋ 토스토 — 리토 ㅋ 토스토

トキ [t'w-k'i] (特に)

モー^フ古】=モー^ヲ】

ゾケッタ
 좋겠다 [tʃo-k'et-ta] (良いだろう)

ス上古ノムニト=ス上ヲノムニト

フ×古=ヲ または 古×フ=ヲ

(その二)

〔ニ〕の前、または後に〔古〕が来たとき、この二つの音が重なって〔云〕音になります。

例 シルタ
 肩다 [sil-t'a] (嫌だ)

ハ]ニ古ト=ハ]ニ云ト

マンタ
 많다 [man-t'a] (多い)

ロトレ古ト=ロトレ云ト

口×古=云 または 古×口=云

(その三)

〔日〕の前、又は後に〔古〕が来たとき、この二つの音が重なって〔立〕音になります。

ザビダ
 잡히다 [tʃa-p'i-da] (捕えられる)

スト日ト=スト立ト

日×古=立 または 古×日=立

(その四)

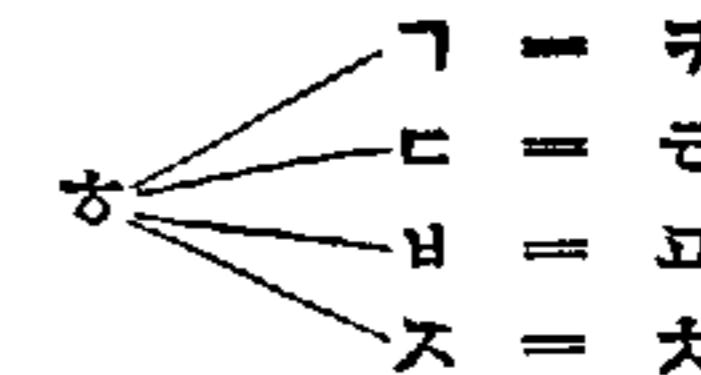
〔ス〕の前、または後に〔古〕が来たとき、この二つの音が重なって〔大〕音になります。

例 オルチマぬン
 韶지마는 [ol-tʃ'i-ma-nwn] (良いけれども)

○上古ス】ロトレーレ=○上古大】ロトレーレ

こちゅそ
 쫓혀서 [k'ot-tʃ'jø-sø] (さされて)

ワ上ス古ス=ワ上大ス=大



練習

次の文章を読んでみましょう。

- 얼었던 땅도 녹아 새 물은 파랗고 괴꼬리 맑은 소리, 어느덧 봄이 왔다.
(凍った土も解け、新しい草は青々としており、鶯の清らかな鳴き声、いつのまにか春が来た。)
- 겨울이 왔다, 눈 내린다, 좋지 좋지, 눈 내리면 아주 좋지。
(冬が來た、雪が降る、良い良い、雪が降れば非常に良い。)
- 가을은 산천에 올긋불긋 옷을 입혔다.
(秋は野や山に様々に色に衣を着せた。)

4. 배는 벌써 여름이다. 벌완에 가득 모가 푸르고, 금년은 특히나 풍년이 들겠다.

(時はもはや夏である。野原に一杯の稻(苗)が青く、今年は特に豊年になろう。)

第十五講

口蓋音化

口蓋音は、舌面と口蓋との間が、ぴったりとくっつくか、または狭められて出る音のことです。口蓋音化というのは、本来口蓋音でない音が、他の音の影響によって口蓋音に変化することです。朝鮮語の場合 [ㄷ] 音が [ㅌ] 音に、[ㅌ] 音が [ㅊ] 音に変わる場合の二つがあり、これに影響を与える音は、母音の [ㅏ] が [ㅓ] 前について交わったと見られる [ㅑ, ㅕ, ㅛ, ㅞ] であります。

ㅑ → ㅑ	자
ㅓ → ㅓ	저
ㅗ → ㅗ	조
ㅜ → ㅜ	주
ㅡ → ㅡ	지
ㅑ → ㅑ	차
ㅓ → ㅓ	처
ㅗ → ㅗ	초
ㅜ → ㅜ	추
ㅡ → ㅡ	치

このように [ㄷ] [ㅌ] 音が 口蓋音化して 変化して発音され

ます。このような現象は朝鮮語だけでなく、日本語にも、ヨーロッパ諸言語の場合にもあります。日本語の例を挙げますと、

タ, チ, ツ, テ, ト, を
ダ, デ, ド, オ, ド

とは読まないのと同じ理屈です。また英語にもこのような現象があります。

Education

の場合 [에듀케이숀] と発音すべきを [에쥬케이숀] とするし、また

do you

を早く発音するとき [두유] とはいわずに [ヂー] というのと同じです。朝鮮語の場合次のような現象があります。

云, ㄷ で終った語の後に、従属的な関係をもつ [이]
[히] の字が来る場合、これらの ㄷ, ㅌ 音が口蓋音に
変わる。

例

綴り	発音
굳이 (固き)	구지[ku-dʒi](クジ)
해돋이(日の出)	해도지[hæ-dʒi](ハドジ)
같이 (同じ)	가치[ka-tʃi](カチ)
풀이다(付ける)	부치다[pu-tʃi-da](ブチダ)
핥이다(舐めさせる)	할치다[hal-tʃi-da](ハルチダ)
걷히다(捲かれる)	거치다[ko-tʃi-da](コチダ)
닫히다(閉められる)	다치다[ta-tʃi-da](タチダ)

묻히다(埋められる) 무치다(mu-tʃ'i-da)(ムチダ)

このように綴字と発音が一致せずに口蓋音に変化します。

上記の口蓋音化の規則に従って、次のような場合があります
から気をつけて下さい。

묻혀.....묻히어 → 무쳐 (ムチダ)

닫혀.....닫히어 → 달쳐 (タチダ)

견혀.....견히어 → 거쳐 (コチダ)

불여.....불이어 → 부쳐 (ブチダ)

これは、ややもすると

묻혀.....(무쳐)

닫혀.....(달쳐)

견혀.....(거쳐)

불여.....(부쳐)

のように発音されるものと誤って考える人があります。それは
前章で [口×古=云] という形があったから、それにあてはめて、
[云] 音に発音するからです。ところがよく注意して見ま
すと、次のような規則があることを忘れているからです。即ち

ヨー I + イ

でありますから、[묻혀] の場合は [묻히어] となり、その発
音は当然口蓋化して [무쳐어] になり、それがまた [쳐어]
[체] となって [무쳐] になります。これはややこしいよう
ですが、因数分解の場合、因数に分解して、もう一度もとの数に
もどしたようなものです。

練習

次の文章を正しく読んで下さい。

1. 저분하고 같이 가는 사람은 누구요?

(彼と一緒に行く人は誰ですか。)

2. 선조의 뼈골이 묻혀 있는 고향 땅。

(祖先の白骨が埋められている故郷の土。)

3. 그는 아버지에게 편지를 부쳤다.

(彼は父に手紙を送った。)

この場合 [부쳤다] というのは (送った) という意味
です。

4. 저 산 넘어 능금 밭이 있다.

(あの山を越すと林檎の畠がある。)

5. 그는 오형제의 맏이다.

(彼は五人兄弟の長男である。)

第十六講

띄여 쓰기 (離し書き)

朝鮮語を書く場合は単語一つ一つを離して書かなければなら
ないという次のような規則があります。これはヨーロッパ諸言
語の場合、単語一つ一つの綴りをきり離して書くのと同じ理屈
です。

文章において各單語は、原則的に離して書く

もしこの規則に違反してくっつけて書いてしまうと文章の意
味が通せず各人にによって異った解釈をしやすくなるし、また読

むことが出来ません。次のような場合の例を見て下さい。

언니가 방에 들어간다。

おヌニガ パンヶエ とろカヌダ
언니가 방에 들어간다。
(姉が部屋に入る。)

おヌニ カパンヶエ とろカヌダ
언니 가방에 들어간다。
(姉のカバンに入る。)

오늘밤 나무를 벤다.

オヌル バムナムるル ベスダ
오늘 밤나무를 벤다。
(今日栗の木を切る。)

오늘밤 나무를 벤다.
(今夜木を切る。)

このように文章の意味が異ってきます。必ずしも単語一つ一つをきり離して書くという鉄則があります。今までの文章も全部きり離して書いてあることに気づくことと思います。ところで単語一つ一つを切り離して書くと同時に

根本になる単語の助詞はその前の単語にくっつけて書く

のです。

ゼビぬ ザカト カンクナムル カヌダ
제비는 작아도 강남을 간다。(燕は小さくでも江南に行く。)
名詞 助詞 名詞 助詞

第十七講

音の高低と長短

ヨーロッパ諸言語の場合は、特にアクセントが問題になり、アクセントのつけ方によって、意味が異り、相手側に話が通じない場合があります。朝鮮語の場合も音の高低と長短によって同じ言葉でも意味の異なる場合があります。諸外国語のように難かしいものではないけれども、この区別を知らなければ本当の朝鮮語にはなりません。高低関係はそれほど甚しくはありませんが、長短によって異った意味になる例が多数あります。

例 一갈다—

高 舍—(여을을 갈다) [pjɔ-sw-rwl-gal-da] (地位をかえる)
中 舍—(갈을 갈다) [k'a-rwl-gal-da] (刃を磨ぐ)

低 舍—(발을 갈다) [pa-t'wl-gal-da] (畠を耕す)

一달다—

高 月—(맛이 달다) [ma-si-dal-da] (味が甘い)

中 月—(기름 달다) [ki-rwl-dal-da] (旗を掲げる)

低 月—(몸이 달다) [mo-mi-dal-da] (体が熱い)

一 말—

高 馬—(말을 타다) [ma-rwl-t'a-da] (馬に乗る)

中 馬—(말로 되다) [mal-ro-dø-da] (升で計る)

低 馬—(말을 잘하다) [ma-rwl-tʃal-ha-da] (話がうまい)

これらの現象は、各地方によって多少の差はありますが、特

に特定の地方には強くなる場合があります。この現象は各単語にのみあるのではなく、文章の場合もあります。これを語調といいます。

例えば

おトイ カオ
어디 가오? (o-di-ga-o) (どこへ行くのか。)

この疑問の場合 “가오” または “어디” のいずれを強くするかによって意味が異ってきます。即ち

어디 가오?

のように “어디” を強く言うと、相手が行こうとしている方向、場所を知りたいという希望であり、

어디 가오?

と “가오” を強く言うと、相手の行動自体、即ち、行くのかどうするかを知りたいという希望を表わすものです。

また次の場合のように、一つの同じ文章がその語調によって敍述文、疑問文、命令文というふうに異って来る場合もあります。つまり文のメロディの構造が文の語法的構造によって、変化することが出来ます。

イコッ ボアヨ
“이것 보아요” (i-got-bo-a-yo) (これを見なさい)

この文章を敍述文として平坦に読みますと

자기가 이것을 본다。
(自分がこれを見ている。)

となり

이것 보아요!

“보아요” の語調を強めると命令文になって

이것을 보아야 된다。

(これを見なければならない。)

となり

이것 보아요?

“이것” の語調を強めると疑問文になって

이것을 보아야 하겠느냐?

(これを見なければならぬのか。)

となります。

次に音の長短について述べます。音の長短は主に母音に表われされます。

長 短

벌 (蜂) ————— (pal) ————— 벌 (罰)	벌 (蜂) ————— (pal) ————— 벌 (罰)
ぼり ナヌダ (벌이 난다)	ぱるル バヌヌダ (벌을 받는다)
(蜂が飛ぶ)	(罰を受ける)

발 (簾) ————— (pal) ————— 발 (足)	발 (簾) ————— (pal) ————— 발 (足)
ぱるル チヌダ (발을 친다)	ぱるル シヌヌダ (발을 씻는다)
(簾を垂らす)	(足を洗う)

말(言葉) ————— (ma) ————— 말 (升)	말(言葉) ————— (ma) ————— 말 (升)
マルル ハヌダ (말을 한다)	マルノ トエヌダ (말로 된다)
(話をする)	(升で計る)

밤 (栗) ————— (pam) ————— 밤 (夜)	밤 (栗) ————— (pam) ————— 밤 (夜)
バモル クムヌヌダ (밤을 먹는다)	バミ キルダ (밤이 길다)
(栗を焼く)	(夜が長い)

파리 (蝶) ————— (pa-ri) ————— 파리 (ベリ)	파리 (蝶) ————— (pa-ri) ————— 파리 (ベリ)
パリガ マヌタ (파리가 많다)	パリエ カヌダ (파리에 많다)
(蝶が多い)	(蝶が多い)

(蠅が多い)	(ペリヘ行く)
산수(算数)——(san-su)——산수(山水)	산수(山水)
サヌスル ハヌグ (산수를 한다)	サヌスカ ソタ (산수가 좋다)
(算数をする)	(山水が良い)
솔(ブラシ)——[sol]——솔(松)	솔(松)
ソルジルハヌダ (솔질한다)	ソルナム (솔나무)
(ブラシをかける)	(松の木)
불(吹)——[pul]——불(火)	불(火)
バラミ ブルコ (바람이 불고)	ブル ソシュ (불 조심)
(風が吹き)	(火の用心)

次に、音の高低と長短との関係を見ると、大体において高い音は短く、低い音は長いということが出来ます。

발(簾)	長, 低	발(足)	短, 高
말(言葉)	長, 低	말(升)	短, 高
밤(栗)	長, 低	밤(夜)	短, 高
벌(蜂)	長, 低	벌(罰)	短, 高

第十八講

사이 玄(中間符号)について

朝鮮語の横書きの新聞、雑誌または学術書で最近のものを御覧になった方は、或る単語にはその中間に〔〕のようなコンマのついていることにお気づきのことと思います。この符号は以前にはなかったのですが、1954年に新しく出来たものです。

この符号は合成語の中で合成されたために本来濃音でないものが、濃音になって発音されるものと、それがまた口蓋音化されたものの中間に付ける符号なのです。それは次のような規則に従って付けるのです。

合成語の中間で最初の語根の終りの音が、母音であるか又は〈ㄴ〉、〈ㄹ〉、〈ㅁ〉、〈ㅇ〉の時と二番目の語根の最初の音が〈ㅑ〉、〈ㅕ〉、〈ㅛ〉、〈ㅕ〉、〈ㅕ〉の時、再度口蓋音化して〈ㄴ〉、〈ㄹ〉、〈ㅁ〉になるものはその中間に〈사이 玄〉(中間符号)(.)をつける。

1. 낙시'매 [nak-sit-t?æ] (釣竿)
보리'짚 [po-rit-t?ip] (麥藁)
- タムバエ'たエ [tam-bæt-t?æ] (きせる)
나루'배 [na-rut-b?æ] (渡し船)
- 킬'침승 [kil-t?im-s?w?] (はい歩く獸)
ки'파 [kit-p?al] (旗)
- 나엠'물 [næm-mul] (河の水)
- イル'군 [il-k?un] (働き手)
- 손'톱 [son-t?w?] (手の甲)
- 초'불 [t?ot-p?ul] (ろうそくの火)
- 코'날 [k'on-nal] (鼻線)

2. 탑'요 [tam-njo] (毛布)
 노'일 [non-nil] (田ぼの仕事)
 태'닙 [tæn-nip] (竹の葉)
 물'약 [mul-njak] (水薬)
 콩'妖怪 [k'oŋ-njøt] (豆で作った飴)
 베'개'니 [pe-gæn-ni] (枕のカバー)
 아'래'니 [a-ræn-ni] (下歯)
 콩'일 [kɔŋ-nil] (徒勞)
 부'역'일 [pu-oŋ-nil] (台所の仕事)
 밤'이'슬 [pam-ni-swł] (夜の露)
 리'파 [rit-k?wa] (理科)
 수'자 [sut-tʃ?a] (数字)
 호'수' [hot-s?u] (号数) (戸数)
 대'가 [tæt-k?a] (代価)
 톱'적' [tot-tʃ?ok] (道的)

これは少し厄介なのですが、そんなに沢山あるものではありません。前述の規則の意味さえのみこめれば簡単に出来ます。

第十九講

連音と絶音

単語を発音する時に、語音のあいだで発音がされる場合と、されない場合とがあります。語音を中間で中断しないで、つづける現象を連音といい、中間で中断してから発音する現象を絶音といいます。

語音の綴りが同じであっても、連音と絶音の場合は発音が異ります。例をあげると

남비 (なべ) [nam·bi] 春'비 (春雨) pom·p'i]
 の場合<ロード>がつらなっていますが、連音の場合は<비> (bi) となり、絶音の場合は<卑> (p'i) と発音されます。

連音の場合の例をあげると

불이 [부리] (pu-ri)	불을 [부를] (pu-rwl)
옷이 [오시] (o-si)	옷을 [오슬] (o-swl)
꽃이 [꽃치] (k'o-tʃhi)	꽃을 [꽃쳤] (k'o-tʃhwł)
술이 [술기] (hwl-gi)	술을 [술글] (hwl-gwł)
손잡이 [손자비] (sondabi)	걸음 [거름] (gə-rwm)

これとは違って、前の발침とつぎの母音がいったん中断してから出るときは、前の〔발침〕の音がつぎの音に移されません。これが絶音です。例をあげますと

부역간 [부어간] (pu-e-dgan)	台所
웃어른 [우더른] (u-de-rwn)	目上の人
꽃아래 [꽃다래] (k'o-da-ræ)	花の下
넋없다 [넉겁다] (ne-gep-t'a)	魂がない

젖어미 [저여미] (tʃə-də-ə-mi) 乳母

무릎아래 [무르바래] (mu-rw-ba-ræ) 膝の下

次にくる母音が [ㅑ, ㅕ, ㅛ, ㅣ] であり、その中間で
絶音される場合は [ㄹ, ㄴ] の音が加わります。

물'약 [물약] (mul-rjak) 水薬

담'요 [담뇨] (tam-njo) 毛布

꽃'잎 [꼰닙] (k'on-njp) 花びら

콩'엿 [콩엿] (khoD-njæt) 大豆のあめ

낫'일 [낫닐] (nan-nil) 昼の仕事

앞'이마 [암니마] (am-ni-ma) 前のひたい

音が途中で絶音になってから発音される場合、別の音が加わ
るのは、つぎのような場合もあります。

その一

前の音が母音で、その次に [ㄴ, ㅁ] がくるの場合、

배'노래 [밴노래] (pæn-no-ræ) 船唄

새'노랗다 [샌노라타] (sæn-no-ra-tha) 真黄色だ

이'임 [임몸] (im-mom) 齒くぎ

쇠'물 [笞물] (sɸm-mul) 鐵の流れ

その二

前の音が母音で、次の音が [ㅣ, ㅕ] の場合 (ㄴが二つ加わる)

뒤'일 [튄닐] (tyn-nil) 後の仕事

나무'잎 [나문닙] (na-mun-nip) 木の葉

뒤'이여 [튄니여] (tyn-ni-e) ひきつづいて

前後の音を連ねないで絶音して出すために、後の音が濃音に
なる場合もあります。

물'고기 [물꼬기] (mul-k'o-gi) 魚

기'대 [기매] (ki-t'æ) 旗干

해'빛 [해隱私權] (hæ-p'it) 陽光

第二部

基礎篇

第二十講

名詞の格について

朝鮮語の格は、主格、属格、対格、与格、位格、造格、及び呼格の七つの格に区別されます。これらの格は、いうまでもなく、主語（数詞、代名詞）が文章の中で他の語に対する各種の関係を示すもので、体言（名詞、代名詞、数詞）と用言（動詞、形容詞）を区別する最も大きな標識になるものです。

기차가 달린다.

汽車が走る。

나의 책이다.

僕の本だ。

조국을 사랑한다.

祖国を愛する。

동무에게 연필을 주었다.

友だちに鉛筆をやった。

이번에는 김동무 집에서 공부를 합시다。

今度は金君の家で勉強をしましょう。

오늘은 병으로 못 갔습니다.

今日は病氣で行けませんでした。

존경하는 선생님 ·이시여!

尊敬する先生よ。

ここで、～が（が）、～의（の）、～을（を）、～에게（に）、～에서（で）、～으로（にて）、～이시여（よ！）、等のように名詞の次に格助詞がついています。これは厄介なように見えますが、そうではなく日本語の場合と殆んど同じです。この格の区

別をしっかり身につけると朝鮮語を正確に理解できます。
次に各格について学びましょう。

[主 格]

1. 자동차가 달린다.
2. 달이 떠 오른다.
3. 형님께서 그렇게 말씀하시셨습니다.
4. 원자 폭탄이란 무서운 것이다.
5. 자전차란 편리한 기구다.
6. 학교로서 원조 하였다.
7. 선생으로서 도와 주었다.

(註) 자동차 (自動車), 달린다 (走る), 달 (月), 그렇게(そんなに), 말씀 (お話), 원자 폭탄 (原子爆弾), 무서운 (恐ろしい), 자전차 (自転車), 편리 (便利), 기구 (機具), 학교 (学校), 원조 (援助), 선생 (先生), 도와주다 (助けてくれる)

1. 自動車が走る。
2. 月が昇る。
3. 兄さんがそんなに話しました。
4. 原子爆弾というものは恐ろしいものだ。
5. 自転車というものは便利な機具だ。
6. 学校として援助した。
7. 先生として助けてやった (援助した)。

これらの文章で分る通り主格の助詞は七つあります。

1. ~가 (開音節の次に来る)
2. ~이 (閉音節の次に来る)
3. ~께서 (尊敬を表わす時) > 説明する場合
4. ~이란 (閉音節の次に)
5. ~란 (開音節の次に)

6. ~로서 (開音節の次に) > 何らかの資格を認める時
7. ~으로서 (閉音節の次に) > める時

[属 格]

1. 우리들은 승리의 주인공이다.
2. 우리들은 승리에의 길을 간다.
3. 조선사람으로서의 자랑을 가지자.

(註) 우리들(われわれ)この場合〈들〉は複数を表わすもの、
승리(勝利), 주인공 (主人公), 길 (道), 자랑 (誇り)

- 1.われわれは勝利の主人公だ。
- 2.われわれは勝利への道を行く。
- 3.朝鮮人としての誇りをもとう。

このように〈의〉は他の助詞と合成されることが多いです。

1. ~의 (~の)
2. ~에의 (~への)
3. ~으로서의 (~としての)
4. ~에 있어서의 (~においての)
5. ~에 관하여서의 (~に関しての)
6. ~에 비하여서의 (~に較べての)

[対 格]

1. 우리들은 래일 연극을 본다.
2. 우리들은 어제 영화를 보았다.

(註) 래일(明日), 연극(演劇), 어제 (昨日), 영화(映画)

- 1.われわれは明日演劇を見る。
- 2.われわれは昨日映画を見た。

このように対格には二つの助詞があります。

1. ~을 (閉音節の次に)
2. ~를 (開音節の次に)

〈를〉は次のように動詞と結合されることがあります。

1. ~를(을) 위하여 (~のために)
2. ~를(을) 향하여 (~に向って)
3. ~를(을) 시키여 (~をさせて)

[与 格]

1. 목 마른 동무에게 물을 주었다.
2. 선생님께 말씀하여 보자.
3. 그것은 어머니한테 드립니까?
4. 저 사람더러 물어 보자.

(註) 목 (喉, 首), 물 (水), 선생님 (先生), 사람 (人, 人間)

1. 喉の渴いた友だちに水をやった。
2. 先生に話して見よう。
3. それはお母さんに上げるんですか?
4. あの人に聞いて見よう。

与格には四つの助詞があります。

1. ~에게 (~に)
2. ~께 (~に) 敬意を表わす場合
3. ~한테 (~に)
4. ~며려 (~に) > これは生物に限ります。

[位 格]

A — 固定された位置を表わす場合

1. 래일 열 두시에 만나기로 합시다.
2. 이번에는 평양에서 대회가 있다.

B — 出発の位置を表わす場合

3. 중국에서 사절단이 돌아 왔습니다.
4. 그는 자기 부친에게서 돈을 받았다.
5. 나는 그 사람한테 들었다.

C — 方向と位置を表わす場合

6. 지금 집으로 가는 길이다.
7. 그는 학교로 갔습니다.
8. 그 일은 나에게로 돌아 왔습니다.
9. 선생님한테로 가보십시오.
10. 그것은 어머님께로 넘기여 버리시오.

(註) 래일 (明日), 만나다 (逢う), 대회 (大会), 사절단 (使節団), 부친 (父親), 지금 (今), 학교 (学校), 갔다 (行った), 왔다 (来た), 넘기여 버리다 (任せてしまう)。

1. 明日十二時に逢うことにしましょう。
2. 今度は、ピョンヤンで大会がある。
3. 中国から使節団が帰ってきました。
4. 彼は自分の父親からお金をもらった。
5. 私はその人から聞いた。
6. 今家に帰るところだ。(길이라는を直訳すると“道だ。”となるけれども意訳にした)
7. 彼は学校へ行きました。
8. その仕事は私のところにまわってきました。
9. 先生のところに行ってみなさい。
10. それはお母さんに任せなさい。

位格には十の助詞があります。

1. ~에 (~に)
2. ~에서 (~で, ~にて)
3. ~에서 (~から)
4. ~한해서 (~から)
5. ~에게서 (~から) > 生物に限る
6. ~으로 (~に, ~~) (開音節の次に)
7. ~로 (~に, ~~) (閉音節の次に)
8. ~에게로 (~に) 生物に限る
9. ~한대로 (~に) 生物に限る
10. ~께로 (~に) 尊敬する場合

[造 格]

1. 돌로 집을 짍시다。
2. 오늘은 병으로 못 가겠습니다.
3. 어떠한 원인으로써 그렇게 되었소。

(註) 돌(石), 짍시다(建てましょう), 병(病氣), ~못한
나(~出来ない), 원인(原因), 어떠한(如何なる)

1. 石で家を建てましょう。
2. 今日は病気で行かれません。
3. どんな原因でそんなになったの。

造格には三つの助詞があります。

1. ~로 (~で)(開音節の次に)
2. ~으로 (~で, ~でもって)(閉音節の次に)
3. ~으로써 (~でもって)

[呼 格]

1. 새야 새야 와랑 새야。
2. 옥순아 정남아 여기 오너라。
3. 귀여운 딸이여!
4. 참다운 전우여!
5. 존경하는 수령이시여!

(註) 새(鳥), 귀여운(可愛い), 참다운(眞の, 真実の)

1. 鳥よ 鳥よ 青い鳥よ。
2. 玉順よ, 正男よ, こちらにおいで。
3. 可愛い娘よ!
4. 真の戰友よ!
5. 尊敬する首領よ!

呼格には五つの助詞があります。

1. ~야 (~よ)(開音節の次に)
2. ~아 (~よ)(閉音節の次に)

3. ~이여 (~よ)(閉音節の次に)
4. ~ 여 (~よ)(開音節の次に)
5. ~이시여 (~よ) 敬意を表する時

同じ助詞が二つの格に属する場合もありますが、これは前後関係からそれが何格であるかを知ることができます。

練 習

1. 나는 조선 사람이다.
2. 동무는 일본 사람이다.
3. 비가 오고 바람이 분다.
4. 그는 불란서에서 돌아 왔다.
5. 사회의 공용물을 애호하자.
6. 김준을 불러라.
7. 중국에서 평화 사절단이 온다.
8. 독립에의 길은 험하기도 하다.
9. 나는 조국애에 불타는 그를 존경한다.
10. 가면 걸음을 멈추고 금 속에 몸을 숨겼다.

(註) 1. 私は朝鮮人だ(である)。

2. 君は日本人だ(である)。

3. 雨が降り、風が吹く。

4. 彼はフランスから帰ってきた。

5. 社会の公共物を愛護しよう。

6. 金君を呼べ。

7. 中国から平和使節団がやってくる。

8. 独立への道は険しくもある(険しい)。

9. 私は祖国愛に燃える彼を尊敬する。

10. 歩みをとめて林の中に身を隠した。

第二十一講

人称代名詞

1. 나는 학생이다.
2. 너는 청년이다.
3. 채는 그날 꽃다발을 들고 갔었다.
4. 우리들은 참으로 기뻤다.
5. 그분을 모시고 오십시오.
6. 당신이 박 선생님입니까?
7. 저의 아버지는 로동자입니다.
8. 그이에게 만년필을 주었다.
9. 저이께서 쌀을 가져 왔습니다.
10. 이분이 농촌 지도원 김 동지입니다.

〔註〕 나 (僕, 私), 학생 (学生), 너 (君, お前), 청년 (青年), 꽃다발 (花束), 참으로 (ほんとうに), 기뻤다 (嬉しかった), 선생님 (先生), 로동자 (労働者), 만년필 (万年筆), 쌀 (米), 농촌 지도원 (農村指導員), 동지 (同志)

- 〔訳〕 1. 僕は学生だ(である)。
 2. 君は青年だ(である)。
 3. あの子はその日花束をもっていった。
 4. 僕たち (我々) はほんとうに嬉しかった。
 5. その人をお連れして来なさい。
 6. あなたが朴先生ですか。
 7. 私のお父さんは労働者です。
 8. 彼に万年筆を上げなさい。
 9. あの方が米をもってきました。
 10. この方が農村指導員同志です。

ここでは人称代名詞の學習です。朝鮮語の人称代名詞は少し複雑で、上記の文章を見ると〈나〉, 〈너〉, 〈채〉, 〈우리〉, 〈그분〉, 〈당신〉, 〈저〉, 〈저이〉, 〈그이〉, 〈이분〉と沢山あります。今これを整理して見ると次のようになります。

なお、この表の他に相手方に対して、

로형 (老兄)
대형 (大兄)
선생 (先生)
동무 (友人)
동지 (同志)

等の語を使用することがあるけれども、これは代名詞ではなく、名詞であることに注意して下さい。

人称代名詞表

相手 人 称 数		目上の人に	対等な人に	目下の人に
一 人 称	单	제, 저 (私)	나, 네, (僕)	나, 네 (僕)
	複	저희들(私たち)	우리들(われわれ)	우리들(われわれ)
二 人 称	单	당신 (あなた)	자네, 그대(君) 당신 (あなた)	너, 네 (君, お前)
	複	당신들(あなた方)	자네, 그대들(君 たち)당신들(あ なたたち)	너희들 (君, お 前たち)
三 人 称	单	이, 그, 저분 (この, その, あ の方)	이, 그, 저이 (この, その, あ の)人)	애, 개, 채 (この, その, あ の子)
	複	이, 그, 저분들 (この, その, あ の方たち)	이, 그, 저이들 (この, その, あ の人たち)	애, 개, 채들 (この, その, あ の子たち)

練習

1. 당신은 누구입니까?
2. 자네는 언제 왔소?
3. 너는 이름이 무엇이야?
4. 저의 이름은 리 달입니다.
5. 우리들은 자기 고향을 사랑한다.
6. 당신의 지도를 바랍니다.
7. 나는 철도 노동자다.
8. 이이는 아침 일찍부터 일한다.
9. 너희들은 몇 시에 일어나니?
10. 저희들은 아침 일곱시에 일어납니다.

(註) 누구 (誰), 언제 (いつ), 고향 (故郷), 사랑 (愛), 지도 (指導), 철도 (鐵道), 일찍 (早く), 일한다 (仕事をする), 일어나다 (起きる), 아침 (朝), 일곱시 (七時)

- (訳)
1. あなたは、誰ですか。
 2. 君はいつ来たか。
 3. お前は名前はなんというか。
 4. 私の名前は李達です。
 5. われわれは自分の故郷を愛します。
 6. あなたの指導をお願いします。
 7. 僕は鉄道労働者だ。
 8. この方は朝早くから働く(仕事をする)。
 9. 君たちは何時に起きるか。
 10. 私たちは朝七時に起きます。

第二十二講

指示代名詞

1. 이 사람은 발전소 기사이다.
2. 그것은 우리 학교이다.
3. 저곳에 있는 것은 베드나무인가요?
4. 그때에 당신은 안계셨습니까?

(註) 발전소 (発電所), 기사 (技師), 베드나무 (柳)

1. この人は発電所の技師である。
2. それはわれわれの学校である。
3. あそこにあるのは柳の木ですか？
4. その時あなたはおりませんでしたか？

上記の文章で分ると思いますが、ここでは指示代名詞の学習です。指示代名詞は遠近の距離、又は指示する対象によって該当の名詞と結合されて使用されます。例えば、

人物	—이 사람, 그 사람, 저 사람
事物	—이것, 그것, 저것
場所	—이곳, 그곳, 저곳
方向	—이쪽, 그쪽, 저쪽
時間	—이때, 그때, 저때

指示代名詞のうち、事物、場所、方向については、これらの代名詞が次の表のように、別に決っています。

種類 位置	事 物	場 所	方 向
近い距離	이것 (これ)	여기 (ここ)	이리 (こちら)
中間距離	그것 (それ)	거기 (そこ)	그리 (そちら)
遠い距離	저것 (あれ)	저기 (あそこ)	저리 (あちら)

指示代名詞のうち〈이〉と〈그〉は次に名詞なしに単独でも、使用されることがあります。例えば、

이는 가장 중대한 일이다。
(これは最も重大なことだ。)

그는 무엇을 나에게는 것인가?
(それは何を表わすものであるか。)

この他〈이〉、〈그〉、〈저〉に愛情、または軽蔑の意味が加わると〈쟤〉、〈그녀〉、〈조〉になる場合があります。この場合愛情というのは幼児の場合が主で、少し年とった人に対しては軽蔑の意味になります。

요즘 (こいつ), 요것, 요리

고즈 (そいつ), 고것, 고리

조즈 (あいつ), 조것, 조리

第二十三講

不定・疑問代名詞

1. 누가 와서 무엇을 물어 보지 않더냐.
2. 옥희가 와서 아버지께서 계시냐고 물었어요.
3. 그리고서 언제 어디로 가려나?
4. 약 30 분 전에 집으로 돌아 갔습니다.
5. 달리 무슨 말하는 것이 없더냐.
6. 아무 것도 다른 말은 없었어요.

(註) 누 (誰), 무엇 (何), 언제 (いつ), 어디 (どこ), 달리 (別に), 무슨 (何), 아무것도 (何も), 다른 (他)

1. 誰か来て、何か聞いてなかったか？
2. 玉姫君が来て、父さんがいらっしゃるかと聞いてました。
3. それからいつどこへ行ったか？
4. 約 30 分前に家に帰りました。
5. 他に何か言ってなかったか？
6. 別に何も言ってませんでした。

上記の文章の中で不定疑問代名詞をとり出して、その指向する対象別に分けると次のようになります。

人物——누, 누구, 아무, 웬 (사람) (誰)

事物——무엇, 어느 (것), 아무 (것), 무슨, 뭐 (何)

場所——어디 (どこ)

数量——얼마, 몇 (いくら)

時間——언제 (いつ)

この不定・疑問代名詞は、不定の意味を表わすときは文の終りでアクセントが弱くなり、疑問の意味を表わす場合は代名詞の上でアクセントが強くなります。

여기 무엇이 있습니까? (疑問)
(ここに何がありますか。)

여기 무엇이 있습니다. (不定)
(ここに何かあります。)

저기 누가 옵니까? (疑問)
(あそこに誰が来ますか。)

저기 누가 옵니다. (不定)
(あそこに誰かが来ます。)

어디 가오? (疑問)
(どこへ行くの。)

어디 좀 가오. (不定)
(どこかへ行くよ。)

사람이 얼마나 있습니까? (疑問)
(人がどれほどいますか。)

사람이 얼마 있습니다. (不定)
(人がいくらいます。)

第二十四講

再歸代名詞

再帰代名詞とは、主体を再度かえして指す場合の代名詞であります。つぎのようなものがこれに属します。

例

저 (僕)	자신 (自身)
저희 (僕たち)	자체 (自体)
자기 (自分)	

순희는 저의 아저씨에게 인사를 했다.

(順喜は、自分のおじさんにおいさつをした。)

ここであいさつをした主体は順喜であります。ところが<저>は、この主体を再びかえして指しています。

우리는 우선 기계 자체를 잘 이해해야 한다.

(われわれは、まず機械 자체をよく了解しなければならない。)

[저, 저희] は人称代名詞もあり、また、<저>には指示代名詞もあります。しかし再帰代名詞<자>で主体が人物の場合には主として

[저, 저희, 자신]などが

使われますが、また [자체] も使うことができます。

동무들 자체가 우선 모범을 봐여야 한다.

(君たち自身(自身)がまず模範を示さねばならない。)

主体が物であるか、ある事実である場合は、おもに〔 자체〕が使われますが〔 제〕も使われます。

공부하는 일이 제 궤도에 올랐다

(勉強することが自分(その)の軌道にのった。)

第二十五講

數

- A. 여보세요, 여보세요, 319 번입니까?
B. 아! 여보세요, 여기는 319 번입니다.

A. 지금 몇 시입니까?
B. 열 한시 입니다.

A. 춘남이는 몇 호실에 입원하고 있습니까?
B. 내'파 25 호실입니다.

A. 시험은 오후 두시에 마칩니다?
B. 아니 오후 세시에 마칩니다

A. 동무는 몇 시경에 일어 납니다?
B. 아침 여섯시에는 일어 납니다.

ここでは沢山の数字が出ています。この会話の中に出てくる数詞の使い方（数詞）について学習しましょう。上記の会話を訳してみると、

- A. もしもし、319番ですか？
B. もしもし、こちらは319番です。

A. 今何時ですか？
B. 十一時です。

A. 順南さんは何号室に入院していますか？
B. 内科の25号室です。

A. 試験は午後二時に終りますか？
B. いいえ、午後三時に終ります。

A. 君は何時ごろに起きますか？
B. 朝六時には起きます。

日本語で数を数える時にふた通りの方法があるように、朝鮮

語でも数の数え方にふた通りの数え方があります。

1, 2, 3, 4, (いち, に, さん, シ) と
一つ, 二つ, 三つ (ひとつ, ふたつ, みっつ) と
同じように

1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10
일, 이, 삼, 사, 오, 율, 칠, 팔, 구, 십
一つ, 二つ, 三つ, 四つ, 五つ, 六つ, 七つ, 八つ,
하나, 둘, 셋, 넷, 다섯, 여섯, 일곱, 여덟,
구つ, 十
아홉, 열

となります。このようにして、1~10までの数え方と100以上の各桁を覚えててしまうと、日本語と同じ方法で誰でも数えることが出来ます。10から上の数字を数えてみると、

11	십일,	열 하나	12	십이,	열 둘
13	십삼,	열 셋	14	십사,	열 넷
15	십오,	열 다섯	16	십육,	열 여섯
17	십칠,	열 일곱	18	십팔,	열 여덟
19	십구,	열 아홉	20	이십,	스물
21	이십 일,	스물 하나	22	이십 이,	스물 둘
23	이십 삼,	스물 셋	30	삼십,	서른
40	사십,	마흔	50	오십,	쉰
60	륙십,	예순	70	칠십,	일흔
80	팔십,	여든	90	구십,	아흔
100	백,	백			

となりますが、日本語と違うのは、10以上の場合の数え方です。日本語の一つ, 二つ, 三つ……という数え方は〈10〉までですが、朝鮮語の場合は99まであるということです。この二つの使い方を混同するとおかしなものになります。例えば

11 십일 或いは 열 하나 を 십하나 或いは 열일

することは出来ません。漢数(일, 이...)は漢数同士で、口語数(하나, 둘...)は口語数同士で使わなければなりません。ところが、時間を数える場合は少し違います。つまり、時間の数え方と、分と秒の数え方の場合だけは、口語数と漢数が混って使われます。

2時35分	두시 삼십 오분
3時05分	세시 오분
6時40分	여섯시 사십분
7時20分	일곱시 이십분
9時50分	아홉시 오십분
11時30分	열한시 삼십분
12時45分	열두시 사십 오분

このように時間を数える時は特別な習慣になっていますから充分注意して下さい。ここでこの口語数と漢数を使う場合を大まかにまとめて見ると次のようになります。

I. 時間を表わす場合(口語数, 漢数混用)

時を口語数で、分秒を漢数で表わす。
7時45分 → 일곱시 사십 오분
4時10分 → 네시 십분
10時25分 → 열시 이십 오분
1時19分 → 한시 십구분

(ひとつという場合は〈하나〉ですが、後に単位がつくと〈한〉となります)。

2時57分 → 두시 오십 칠분
(ふたつという場合は〈둘〉ですが、後に単位がつくと〈두〉となります)。

I. 1から99までの数をいう場合は普通(口語数)を使います。

II. 100 以上の千, 万, 億等につける数は漢数を使います。

24700 → 이만 사천 칠백

986531 → 구십 팔만 육천 오백 삼십일

III. 学年, 級, 年月日を表わす場合は漢数を使います。

中学校一年二組 → 중학교 일년 이조

1955年 → 천 구백 오십 오년

8月15日 → 팔월 십오일

3週日 → 삼주일

IV. 年数, 人数, 物体等の場合は両方を混用します。

一年 → 일년, 한 해

三名 → 삼명, 세 명

五枚 → 오매, 다섯 장

六〇個 → 둑십개, 예순 개

V. 何カ月, 何カ年といふ場合は両方を混用します。

一ヶ月 → 일개월, 한 달

二ヶ月 → 이개월, 두 달

十カ年 → 십개년, 열 해

練 習

A. 次の文章を訳して下さい。

1. 일천 구백 오십 오년 팔월 십오일。

2. 오후 여덟시 이십 칠분 삼십 구초。

3. 일년은 열 두 달이고 한 달은 삼십일이다。

4. 하루는 스물 네 시간이고 한 시간은 둑십분이다.

5. 오늘 대회에 일만 사천 삼백명이 모였다.

B. 次の数字を朝鮮語でよんで下さい。

1. 182765

2. 98342 円

3. 132 個

4. 欠席 3名, 日直 2名, 現在員 50名

5. 4278 番

〔解答〕 A. 1. 1955年8月15日

2. 午後8時27分39秒

3. 一年は十二月で、一ヶ月は30日だ。

4. 一日は24時間で、一時間は60分だ。

5. 今日の大会に14300名集った。

B. 1. 십 팔만 이천 칠백 둑십 오

2. 구만 팔천 삼백 사십 이원

3. 백 살흔 두 개

4. 결석 삼명, 일직 두명, 현재원 오십명

5. 사천 이백 칠십 팔번

第二十六講

名詞における時称(過去, 現在, 未来)

時称は名詞, 形容詞, 動詞で表現される状態または行動と, 話の進行される瞬間との関係を表わすものです。ここでは名詞の時称についてのべます。名詞の時称は名詞が述語になる場合と規定語になる場合とによって, おのおの異ります。この二つの場合の時称を見ると次のようになります。

1. 述語になる場合の時称

現 在 개다。(犬だ) 말이다。(馬だ)

過 去 개였다. 말이었다.

過去完了 개였었다. 말이었었다.

未 来 개겠다. 말이겠다.

未来完了 개겠었다. 말이겠었다.

この例文を公式にすると、

現 在	語幹 + 0 (이)
過 去	語幹 + ㅆ (이ㅆ)
過去完了	語幹 + ㅆㅆ (이ㅆㅆ)
未 来	語幹 + 겠 (이겠)
未来完了	語幹 + 겠ㅆ (이겠ㅆ)

しかしこの場合の“겠”は未来の意味以外に推測の意味を表わす場合もあります。

그 사람은 아마 학생이겠다。
(その人は多分学生であるだろう。)

그 동무는 과거에 노동자였겠다。
(あの同志は過去には労働者であっただろう。)

2 規定語になる場合の時称

現 在 —— 그가 생도인 줄 누가 모르랴?
(彼が生徒であることを誰が知らないだろうか。)

過去継続 —— 과거에는 학자 (이)던 그가 오늘은 범인으로 되여 버리였다。
(過去には学者であった彼が、今日は犯人になってしまった。)

未 来 —— 내일 청일 경우에는 원족을 실시합니다。
(明日快晴の場合には遠足を実施します。)

これを公式化すると、

現 在	語幹 + ㄴ (인)
過去継続	語幹 + 던 (이던)
未 来	語幹 + ㄹ (일)

以上のですが、今少し若干の例を上げて学習して見ましょう。

現在	過去	過去完了	未来	未来完了
소다 (牛)	소였다	소였었다	소겠다	소였겠다
책이다(本)	책이였다	책이였었다	책이겠다	책이겠었다
동무 (友達)	동무였다	동무였었다	동무겠다	동무겠었다
범이다(虎)	범이였다	범이였었다	범이겠다	범이겠었다
금이다(金)	금이였다	금이였었다	금이겠다	금이겠었다
돌이다(石)	돌이였다	돌이였었다	돌이겠다	돌이겠었다
꽃이다(花)	꽃이였다	꽃이였었다	꽃이겠다	꽃이겠었다
눈이다(雪)	눈이였다	눈이였었다	눈이겠다	눈이겠었다

第二十七講

名詞における階称

階称〔호〕とは、話をする人が話を聞く相手を高めて話をするのか、または低めて話をするかを表わす社会的な関係をいうものです。階称には話をする人と、話を聞く人との関係によって 높인 말, 보통 말, 낮은 말の三つに分けます。

階称〔호〕は終結述語にのみ使われ名詞、数詞、代名詞、形容詞及び動詞につく法の意味を表わす助詞として使われます。

1. 높인 말

これは話を聞く人が話をする人より目上の人、あるいは相手に丁重な態度をあらわすときに使用します。

名詞、代名詞、数詞の場合の〔호〕は、つぎのようないります。

—ㅂ니다, —읍니다, —여요, —지요, —을시다.
—ㅂ니까? —읍니까? —여요? —지요? —ㄹ까요?

例 저기 보이는 데가 어디입니까?

(あそこに見えるところは何処ですか。)

저기는 평양입니다.

(あそこは平壤であります。)

얼마나 우리는 생산과 결부하여 학습을 하였습니까?

(どれ程われわれは生産と結合して学習をしたのですか。)

동무가 이 기계를 만들었소?

(あなた(トンム)がこの機械をつくったのですか。)

2. 보통 말

これは話をする人が、話を聞く人と同等の関係にあるか、または、その関係をあきらかにしない場合に使用します。

この場合使われる [토] は

—네, —주세요, —요, —주세요, —야, —여, —지, —아,
—개

—ㄹ까? —ㄴ가? —요? —여? —야? —지?

例 저기 달려 가는 것이 무엇인가?

(あそこを走ってゆくのは何であるか。)

저기 달려 가는 것은 말일세?

(あそこを走ってゆくのは馬だ。)

아까 찾아 온 사람이 누구요?

(さっき訪ねてきた人は誰か。)

공장에 다니는 나의 형이요。

(工場にいっている私の兄さんだ。)

여기가 협동 농장이야?

(ここが農業協同組合なの。)

그럼, 여기가 조합원들이 즐기는 일터지.

(うん、ここが組合員が楽しむ職場だ。)

이것이 우리들이 다니는 학교네。

(これがわれわれの通う学校だ。)

그게 정말일까?

(それがほんとだろうか。)

3. 낮춘 말

これは話を聞く人が話をする人より目下の場合に使われます。

この場合使われる [토] は

—다, —구나, —군, —豆구나,
—냐? —니? —랴? (—이랴?)

例 너의 고향은 어디냐?

(君の故郷は何処か)

나의 고향은 민주 수도 평양이다.

(僕の故郷は民主主都平壌だ)

이것은 참 대단한 일이다.

(これは実に大変なことだ。)

너는 또 도망칠 작정이냐?

(君はまた逃げるつもりか。)

저 고층 건물이 우리 주택이로구나.

(あの高層建物がわれわれの住宅なのだ。)

尊敬を表わす場合は [시] をつければよいのです。

저 분이 선생님이시면 말씀 드립시다。(名詞の場合)

(あの方が先生ならば話しましょう。)

그 동안 안녕하십니까? (形容詞の場合)

(その後お元気ですか。)

선생님이 성적표를 보시고 격려의 말씀을 주신셨다. (動詞の場合)

(先生が成績表をごらんになって激励してくださった)

第二十八講

名詞における階称と時称の関係

今までならつたことを、ひとまとめにして表にしますと、
つぎのようになります。

これは代名詞も数詞も同じです。

階 語 称 韓	直 説 法			疑 問 法		
	現 在	過 去	未 来	現 在	過 去	未 来
높 인 나무 말 (牛)	소—여요	—였어요	—겠어요	여요?	—였어요	—겠어요
	—지요	—였지요	—겠지요	지요?	—였지요	—겠지요
	—ㅂ니다	—였습니 다	—겠습니 다	—ㅂ니까	—였습니 까?	—겠습니 까?
	—을시다					
보 종 나무 말 소	—네	—였네	—겠네	—ㄴ가?	—였는가	—겠는가
	—요	—였오	—겠소	—요?	?	?
	—구려	—였구려	—겠구려	—여?	—였소?	—겠소?
	—여	—였어	—겠어	—야?	—였어?	—겠어?
	—지	—였지	—겠지	—지?	—였지?	—겠지?
	—근세					
빛 춘 나무 말	소—다	—였다	—겠다	—냐?	—웠나?	—겠나?
	—구나	—였구나	—겠구나	—니?	—였니?	—겠니?
	—군	—였군	—겠군	—랴?		
	—로구나					

第二十九講

動 詞 [한다] (～する)

- 우리들은 열심히 공부한다.
- 동생은 운동장에서 운동한다.
- 그는 경제학을 연구한다.
- 동무에게 종종 편지한다.
- 세계는 차차로 변화한다.
- 이 보고를 본부에 전략한다.
- 마음으로부터 감사한다.
- 지금부터 영화를 시작한다.
- 로동자는 단결한다.
- 선생님은 언제나 조국을 사랑하라고 말씀한다.

〔註〕 동생(弟), 운동장(運動場), 경제학(經濟學), 종종(時々), 세계(世界), 차차로(だんだんに), 변화(變化), 보고(報告), 전략(連絡), 본부(本部), 감사(感謝), 영화(映画), 단결(團結), 조국(祖國), 사랑하다(愛する)

- われわれは熱心に勉強する。
- 弟は運動場で運動する。
- 彼は経済学を研究する。
- 友達に時々手紙を出す。
- 世界はだんだんに変化する。
- この報告を本部に連絡する。
- 心から感謝する。
- 今から映画を始める。
- 労働者は団結する。
- 先生はいつも祖国を愛するようにと話をする。

さて、上記の文章を見ますと(～한다)という言葉がどの文

章にも終りの方についていますね、文章の中で(～한다)となっている場合は必ず動詞の現在形だと思って下さい。この動詞形は次のような形式で進められています。

감사(感謝) + 한다(する) = 감사한다

これを公式化すると

名詞語根 + 接尾辞(하) + 다。

このように、これは〔現在形〕ですが、〔原形〕は〈하다〉であります。つまりこれらを原形で表わすと〈하다〉をつけねばよいわけです。

原形	現在形
발표 [発表] 하다	발표한다
출발 [出発] 하다	출발한다
참석 [参席] 하다	참석한다
투표 [投票] 하다	투표한다
내답 [対答] 하다	내답한다
투쟁 [斗争] 하다	투쟁한다

この〈하다〉がいつも動詞の〔原形〕ばかりを表わしているとは限らず、ずっと後で説明する〔形容詞〕では現在形も原形も〈하다〉で表わすのです。(つまり形容詞の場合には現在形、原形の区別がないということです)。もし辞書等で〈～하다〉をつけた場合は、その下に(形)(動)の品詞の区別が書いてありますから注意して下さい。

第三十講

動詞(～한다)以外の場合

例によってまず例文をあげて研究しましょう。

1. 나는 점심을 먹는다。

2. 산에도 들에도 꽃이 핀다.
3. 까마귀가 하늘을 날아 간다.
4. 고양이가 쥐를 잡는다.
5. 형님하고 언니는 사무소에 다닌다.
6. 오늘도 아침부터 비가 온다.
7. 물 속에서 많은 고기가 노오.
8. 여자도 남자도 노래를 부르오.
9. 김 동무가 우등상을 받으오.

(註) 점심(昼食), 먹다(食う), 산(山), ~에도(～にも), 까마귀(鳥), 고양이(猫), 쥐(ねずみ), 형님(兄さん), 언니(姉さん), 사무소(事務所), 물속(水の中), 노래(歌), 부르다(歌う), 우등상(優等賞), 받다(受ける)

1. 僕は昼飯を食べる。
2. 山にも野にも花が咲く。
3. 鳥が空を飛んで行く。
4. 猫がねずみを捕える。
5. 兄さんと姉さんは事務所に通う。
6. 今日も朝から雨が降る。
7. 水の中で沢山の魚が泳いでいる(遊ぶ)。
8. 女も男も歌を歌う。
9. 金君が優等賞を受けている。

上記の文章のうち、動詞に三つの型が出ていることに気がつくと思います。しかもこの三つの型とも〔現在形〕であります。

その三つの型をとり出してみると

- 第一の型 (～다) [～ルダ]
- 第二の型 (～는다)
- 第三の型 (～오) 或いは (～ウ)

説明は一応後廻しにして、それぞれの形にわけて沢山の動詞を配列して見ましょう。

第一の型	跣た(咲く)	나간다(出て行く)	산다(買う)
	간다(行く)	담근다(漬ける)	천다(殴る)
	논다(遊ぶ)	먹인다(食べさせる)	찬다(ける)
	탄다(燃える)	헤염친다(泳ぐ)	온다(来る)
第二の型	먹는다(食べる)	벗는다(脱ぐ)	듣는다(聞く)
	잡는다(捕える)	받는다(受ける)	넘는다(溢れる)
	앉는다(坐る)	얻는다(得る)	잃는다(失う)
	입는다(着る)	믿는다(信する)	읽는다(読む)
第三の型	가오(行く)	노오(遊ぶ)	먹으오(食べる)
	오오(来る)	외오(咲く)	찾으오(探す)
	남으오(余る)	타오(燃える)	차오(ける)

これらの型をよく見て下さい。第一の型においては〈だ〉(語尾)の前にある文字(語幹)には必ずしも〈ㄴ〉(받침)がついており、第二の型には〈는〉がつき、しかも語幹はどれも「 받침」をもっています。そしてここに記した型は皆〔現在形〕ですが、その原形は

現在形から〈ㄴ〉又は〈는〉をとると原形になる

ですから、第一の型の〔原形〕は

펴다, 나가다, 사다, 가다, 담그다, 치다,
노다, 먹다, 차다, 타다, 헤엄친다, 오다

となり、第二の型の〔原形〕は

먹다, 벗다, 듣다, 잡다, 받다, 넘다, 앓다,
얻다, 읽다, 입다, 믿다, 읽다,

となります。第三の型はそのままです。第三の型にはふた通りあります。

語幹に 받침のない動詞(原形)+오.
語幹に 받침のある動詞(原形)+으오.

になります。

動詞の現在形には、このように、三つの種類があるけれども、普通の場合は、文語体では第一、第二の型が多く使用され、会話体(口語体)の場合に第三の型が多く使われます。しかし、これは厳密な区別でなく一般的なものに過ぎません。

練習

次の文章を訳しなさい。

- 우리들은 누구라도 조국을 사랑한다
- 나는 매일 한 시간씩 낚장을 잡다
- 언제나 고향에 잔 꿈을 꾼다
- 백두산에 아침부터 눈이 오오
- 대동강변에서 늙은이가 낚시질 한다
- 조선에는 많은 꾸식이 난다
- 일본 사람은 일본말을 조선 사람은 조선말을 배운다
- 경관이 도적을 잡으오
- 아침이면 아버지는 공장에 나간다
- 수업을 마친 학생들이 집으로 돌아 간다

(註) 누구라도(誰でも), 매일(毎日), 한 시간씩(一時間ずつ), 꿈(夢), 꾸다(夢みる), 고향(故郷), 백두산(白頭山), 대동강(大同江), 강변(川辺), 늙은이(老人, 老いた人), 낚시(釣), 낚시질(釣の仕事という意), 꾸식(穀物), 경관(警官), 도적(盜賊, 泥棒), 공장(工場), 수업(授業), 마치다(終える), 학생(学生), 집으로(家に)

今度は訳をつけませんから、註釈を参照しながら、自分で訳して見て下さい。(解答巻末附録参照)

第三十一講

形容詞

어느 나라보다도 높고 높은 하늘
 어느 나라보다도 깊으고 큰 산
 어느 나라보다도 맑고 고운 물
 이 나라에는
 어느 나라보다도 백옥같은 흰 쌀이 많이 난다。
 이 나라에는
 어느 나라보다도 아름다운 전설이 많이 있다.
 그리고 이 나라에는 힘센 농군들이 재일
 많이 산다.
 이 나라를 우리는 조국 조선이라고 부른다。

〔註〕 어느 (どの), 어느 사람 (どの人), 어느 것 (どれ),
 보다 (よりも, これは比較を表わすもの), 보다 좋은
 (よりよい), 높은 (高い), 깊으고 (深くて), 맑은 (清い,
 すき通る), 고운 (きれいな), 백옥 (白玉), 같은
 (~のような), 흰 (白い), 쌀 (米), 아름다운(美しい),
 전설 (伝説), 힘센 (力強い) 농군 (農夫), 조국(祖国),
 부른다 (呼ぶ)

〔訳〕どの国よりも、丸くて高い空。
 どの国よりも、深くて大きな山。
 どの国よりも、清らかできれいな水。
 この国には
 どの国よりも、白玉のような真白い米が、沢山出来る。
 この国には
 どの国よりも、美しい伝説が、沢山ある。

そして、この国には力強い農民たちが最も沢山住んでいる。
 この国をわれわれは、祖国朝鮮という(呼ぶ)。

さて、上記の文章の中で「・印」のついているのは皆形容詞です。

동그고 높은 하늘……まるくて高い空
 깊으고 큰 산…………深くて大きい山
 맑고 고운 물…………清らかできれいな水
 아름다운 전설…………美しい伝説

これは別にむずかしいものではありません。しかし、日本語の形容詞を調べると分るように、形容詞は後に来る言葉によって形がいろいろ変わって使われています。日本語の例を見ますと、

まるい→まるく、まるくて、まるい、まるい、まるければ
 大きい→大きく、大きくて、大きい、大きい、大きければ
 となる理屈と同じように、朝鮮語の形容詞も後に来る言葉によって変わってきます。日本語の文法では、この五つの形を「未然形」「連用形」「終止形」「連体形」「已然形」〔仮定形〕とよんでいますが、朝鮮語の場合も同様に考えられます(ただし、終止形は現在形となっている)。

このように調べて來ると、この詩の中に出で来る形容詞の形が、どれも (~て), (~い)+名詞…… の形になっていることに気づくことと思います。

動詞に原形があるように、形容詞にも原形があり一定の規則に従って使われます。では次の例文によって検討しましょう。

原形(現在形も同じ)

- ① { 높다 → 높으고, 높은,
깊다 → 깊으고, 깊은,
맑다 → 맑고, 맑은,
동그다 → 동그고, 동근,
② { 희다 → 희고, 희,
③ { 농다 → 농고, 고농,
아름답다 → 아름답고, 아름다운,

このように三つの形があり、おののおの特有の変化をします。とにかく動詞や形容詞で一番重要なことは、その動詞や形容詞の後に来る言葉によって、さまざまな形に変わることです。例えば次のような文章を訳すとどうなるでしょうか?

1. 白頭山は朝鮮で一番高い。
2. 朝鮮で一番高い山は白頭山だ。

どちらも意味は殆んど同じで、その中に使われている形容詞(高い)も日本語では全く同じです。しかし朝鮮語で訳すと

1. 백두산은 조선에서 제일 높다
2. 조선에서 제일 높은 산은 백두산이다。

のようになります。ですから

原形は原則として文章の末尾に来る

ということが言えます。(もっとも<～다>という形は終止形にもなります。従って形容詞の後に何かつく場合には、例外なく変化するのです(後に来るものが何んでも構わずに)。

しかし日本語の文法を習った方はお分りと思いますが、日本語の形容詞では、形容詞の終止形が違えば、他の活用形もみんな、違ってきます(シク活用、ク活用)。

さきに ①~③ という形でまとめたように、朝鮮語でも「原形」の形が違うために、やはりその活用形にも特有な形が使われるのです。

- ① のグループに入っている形容詞の特徴は、どれも例外なしに「반침」がついており、
- ② のグループの特徴は「반침」がなく、
- ③ のグループでは、どれも原形の中に(다の前の文字)「반침」をもっているけれども、その「반침」はみな「日」半침一つに限られています。

今これらの各グループに入る形容詞の例を挙げると

①のグループに入る形容詞

짧다 (短い)	넓다 (広い)	작다 (小さい)
적다 (少い)	많다 (多い)	깊다 (深い)
얕다 (浅い)	좋다 (よい)	밝다 (明るい)
맑다 (清い)	낯다 (ひくい)	늦다 (おそい)
낡다 (古い)	싫다 (いやだ)	옳다 (正しい)

②のグループに入る形容詞

크다 (大きい)	모질다 (酷い)	짜다 (塩辛い)
희다 (白い)	푸르다 (青い)	누르다 (黄色い)
싸다 (安い)	아프다 (痛い)	귀하다 (貴い)
쓰다 (にがい)	바쁘다 (忙しい)	강하다 (強い)
시다 (すっぱい)	나쁘다 (悪い)	약하다 (弱い)

③のグループに入る形容詞

덥다 (暑い)	춥다 (寒い)	찰다 (冷い)
맵다 (辛い)	우습다 (おかしい)	가볍다 (軽い)
어둡다 (暗い)	무겁다 (重い)	더럽다 (汚ない)
그립다 (恋しい)	위롭다 (危い)	새롭다 (新しい)

次にこれらの形容詞の変化の仕方を見ますと

原形	中止連用形 (～て)	連用形 (～い, な)	仮定形 (～ければ)
1	짧다 (短い)	짧고	짧은
	넓다 (広い)	넓고	넓은
	작다 (小さい)	작고	작은
	적다 (少い)	적고	적은
	많다 (多い)	많고	많은
	깊다 (深い)	깊고	깊은
	얕다 (浅い)	얕고	얕은
	좋다 (善い)	좋고	좋은
	밝다 (明るい)	밝고	밝은
	맑다 (清い)	맑고	맑은
2	낮다 (低い)	낮고	낮은
	늦다 (遅い)	늦고	늦은
	낡다 (古い)	낡고	낡은
	싫다 (嫌いだ)	싫고	싫은
	옳다 (正しい)	옳고	옳은
	크다 (大きい)	크고	큰
	모질다 (酷い)	모질고	모진
	짜다 (からい)	짜고	짠
	희다 (白い)	희고	흰
	푸르다 (青い)	푸르고	푸른
3	누르다 (黄色い)	누르고	누른
	싸다 (安い)	싸고	싼
	아프다 (痛い)	아프고	아픈
	귀하다 (貴い)	귀하고	귀한
	강하다 (強い)	강하고	강한

약하다 (弱い)	약하고	약한	약하연
바쁘다 (忙しい)	바쁘고	바쁜	바쁘면
쓰다 (にがい)	쓰고	쓴	쓰면
시다 (すい)	시고	신	시면
나쁘다 (悪い)	나쁘고	나쁜	나쁘면
덥다 (覆う)	덥고	더운	더우면
춥다 (寒い)	춥고	추운	추우면
차다 (冷い)	차고	찬	차면
맵다 (からい)	맵고	매운	매우면
우습다 (おかしい)	우습고	우수운	우수우면
가볍다 (軽い)	가볍고	가벼운	가벼우면
어둡다 (暗い)	어둡고	어두운	어두우면
무겁다 (重い)	무겁고	무거운	무거우면
더럽다 (汚ない)	더럽고	더러운	더러우면
그립다 (懐しい)	그립고	그리운	그리우면
위험다 (危とくだ)	위험고	위해운	위해우면
새롭다 (新しい)	새롭고	새로운	새로우면

これで一応の整理がついたのですが、三つのグループについてだけはもう少し説明が必要です。

1 のグループでは ~고, ~은, ~으면を規則的につけていればよいし、

2 のグループでは ~고, ~ㄴ, ~면をつけるのですが、「連体形」の場合は語幹に「ㄴ」 받침をつけることだけが変わっています。

3 のグループの場合は ~고, ~운, ~면となっていますが、「連体形」「仮定形」の場合には「原形」から「日」「 받침」がつかなくなることです。これは 半母音「우」の上では「日」

がなくなるという規則によって起る現象です。これはもっと朝鮮語の文法に深入りしないと分りません（朝鮮語綴字法参考）。

第三十二講

形容詞につく助詞について

形容詞における時称、階称は名詞と同一です。これから次の文章について、破究してみましょう。

꽃이 곱습니다。(花がきれいです。)

꽃이 곰소。

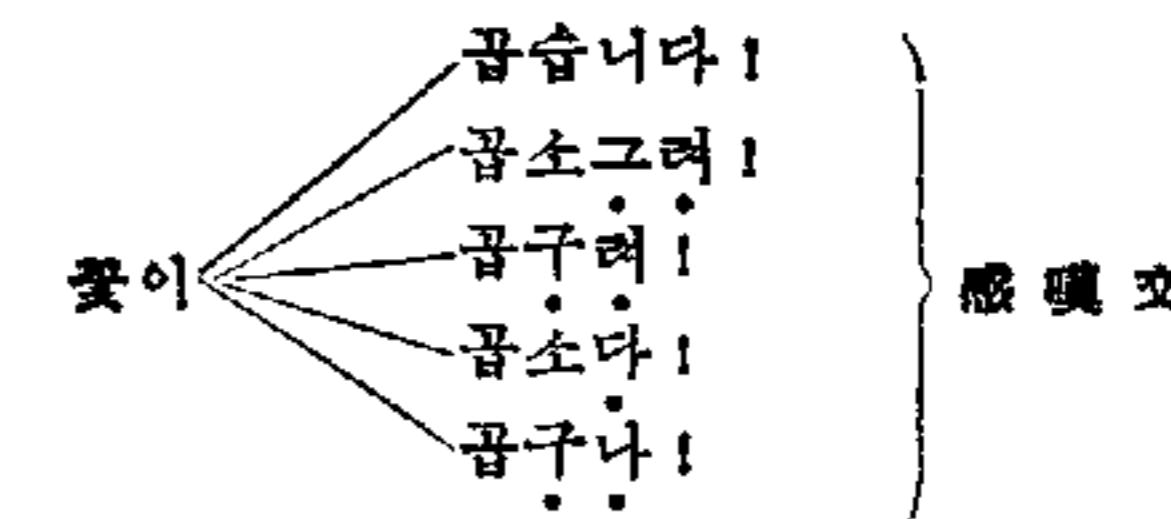
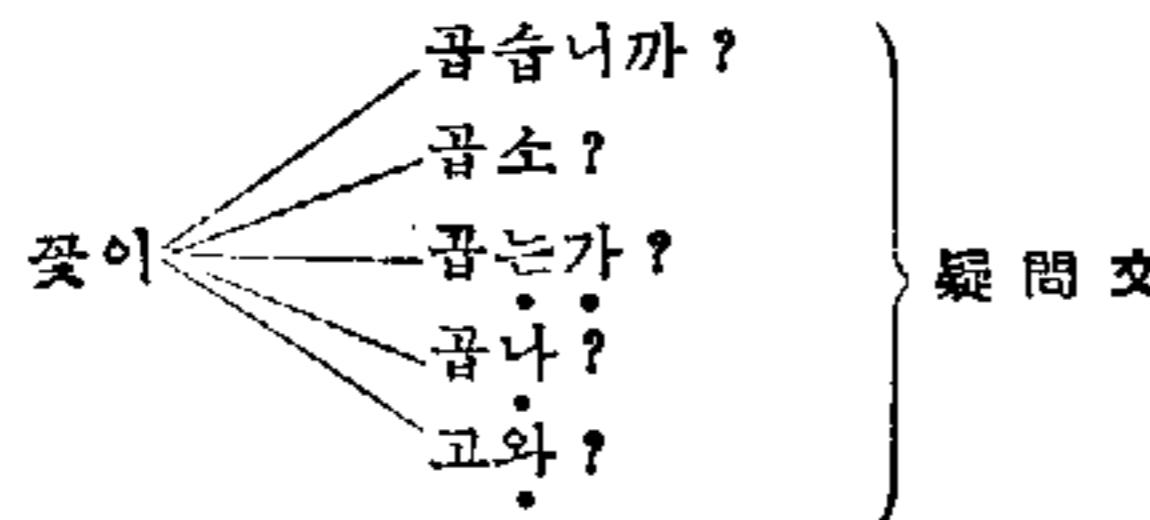
꽃이 곰네。

꽃이 곰다。

꽃이 고와。

上記の五つの文章は、共に 紋述形の現在を表わす文章です。現在を表わす文章ですが、名詞の時に見たように、話を聞く人と話をする人の社会的な関係を表わす階称別に並べたものです。

このように階称が形容詞の場合も適用されます。日本語でも、これは同じですね。この文章を疑問形にすると、疑問符号がつき、感嘆形にすると感嘆符号がつきます。



「・印」のところだけは形が変わっていますが、その他のものは符号をつけただけです。

次に形容詞につく終結助詞を図表に示すことにしましょう。

階語 称幹	直 説 法			疑 問 法		
	現 在	過 去	未 来	現 在	過 去	未 来
높 인 말	밝아요 (어 요여요) 지요 님니다	았어요 았지요 았습니다	겠어요 겠지요 겠습니다	아요? 여요? 지요? 님니까?	았어요? 았지요? 았습니까? ?	겠어요? 겠지요? 겠습니까? ?
보 통 말	네 오 (소) 구려 아 (어, 여) 지	았네 았소 았구려 았어 았지	겠네 겠오 겠구려 겠어 겠지	나? 가? 오? (소 ?) 아? 지	였는가? 였소? 였어? 였지?	겠는가? 겠소? 겠어? 겠지?
낮 춘 말	다 구다 군 아라	았다 았구나 았군 였이라	겠다 겠구나 겠군 겠어	나? 냐? 니? 랴? ?	였나? 였니? ?	겠나? 겠니?

次に、形容詞につく接続助詞をみましょう。

잎은 푸르고 꽃은 빨다。

(葉は青く、花は赤い。)

꽃은 고우나 열매는 나쁘다。

(花はきれいだけれど、実は悪い。)

날씨가 따뜻하면 눈이 녹겠다。

(天気が暖かであれば、雪が溶けるだろう。)

근원이 머니 흐름도 많다。

(源が遠いから、流れも多い。)

この文章の中の ~고, ~나, ~면, ~니 は形容詞について
次の文章との接続を表わすものです。

形容詞の規定語助詞の例をみると

흰 눈이 내린다.

(白い雪が降っている。)

검은 구름이 날아 간다.

(黒い雲が飛んで行く。)

검던 머리가 쌔鹖리가 되었다.

(黒かった髪が真白になった。)

「㈔鹖리」は直訳すると「ねぎの根っこ」ということで「真
白い」ということを表わします。

この文章の ~ㄴ, ~은, ~던 は、形容詞の規定語助詞です。

꽃이 꽉개 끼쳤다.

(花がきれいに咲いた。)

물이 맑지 못하다.

(水が清らかでない。)

래일은 아마 날이 춥기 쉽다.

(明日は多分天気が寒かろう。)

この文章の ~게, ~지, ~기 は形容詞の補語助詞です。

練習

次の文章を読んで、形容詞の助詞の種類を区別して下さい。

사람이 많다. 불이 밝습니까?

지금 가면 너무 늦어.

오늘은 바람이 고추 같이 맵구나!

줄기가 붉은면 꽃도 붉을 수가 많다.

산은 높고 물은 깊다.

푸른 벼들에 누른 페꼬리가 날아든다.

젊어서는 파란 치마, 늙어서는 빨간 치마
입는 것이 무엇이냐?

(註) 불(火), 고추(トウガラシ), 너무(あまり), 줄기(茎),
벼들(柳の木), 누르다(黄色い), 페꼬리(鶯), 파란
(青い), 치마(スカート), 입다(着る), 늙다(老いて
いる, 年寄のこと)。

(訳) 人間が多い。火が明るいですか？

今行ってもあまり遅い。

今日は風が、トウガラシのように辛いな！

茎が赤ければ、花も赤くなることが多い。

山は高く、水は深い。

青い柳に、黄色い鶯が飛んで来る。

若くて青いスカート、年とって真赤なスカートを着るとは何
事だ！

第三十三講 短 文

次の文章を声を出して読み、訳して下さい。なお形容詞がどれであるか、アンダーラインをつけて見ましょう。

따뜻한 봄이 왔다. 흉악한 원쑤들이 불질렀던 전쟁이 끝난 후 처음 맞는 봄이다. 강'기슭으로는 훈훈한 바람이 불어 온다. 해'빛이 부드럽고 산'기슭엔 아지랑이가 자욱하다. 언덕에는 쑥과 민들레와 창포, 기타의 푸르스름한 새 움들이 검고 축축한 땅을 뚫고 솟아 오르고 있다. 넓은 한길에는 복구 건설을 위한 재목들을 싣고 화물차가 흥겹게 달린다.

[註釈] 따뜻하다(温かだ), 봄(春), 흉악하다(凶悪だ), 원 악한(凶惡な), 원쑤(怨讐, 敵, かたき), 불지르다(火をつける)→불질렀던(火をつけたという過去形), 전쟁(戰爭), 처음(最初), 맞이하다(迎える), 강'기슭(川辺, 川岸), 훈훈한(ぬくぬくとした), 해'빛(太陽の光, 日光, 陽光), 부드럽다(やわらかい, はださわりがよい), 산'기슭(山の麓), 엔(에는의略“には”的こと), 아지랑이(かすみ), 자욱하다(霧とかかすみが一ぱいたちこめているときに使う), 언덕(岡), 꿩(よもぎ<蓬>), 민들레(たんぽぼ), 창포(菖蒲), 푸르스름한(うす緑の色のかかっている様子で“うす緑の”), 움(芽), 축축하다(湿っていること), 땅(土, 大地), 뚫고(穿って, あけて), 솟다(聳える), 넓은(広い), 한길

(大通り), 복구 건설(復旧建設), ~을 위한(~のための), 재목(材木), 실다(車等に積むこと, 積載すること), 화물차(貨物車), 흥겹다(うれしい, 興するという意)

(解答卷末附錄参照)

第三十四講

動詞の時称について

- 그는 공로상을 받는다。
(彼は功労賞をもらう。)
- 그는 공로상을 받았다。
(~もらった。)
- 그는 공로상을 받았었다.
(~もらってしまった。)
- 그는 공로상을 받겠다。
(~もうらうであろう。)
- 그는 공로상을 받겠었다.
(~もうらつてしまふであろう。)
- 공로상을 받는 김동무。
(功労賞をもらう金君。)
- 공로상을 받은 김동무。
(~もらった金君。)

8. 공로상을 받면 김동우。
(~もらっていた金君。)

9. 공로상을 받을 김동우。
(~もらうべき金君。)

上記の文章で ①～⑤ までは述語、 ⑥～⑨ は規定語の時称です。

- | | |
|--------|-----------------------|
| 述
語 | ① は現在………語幹+0 または ㄴ(는) |
| | ② は過去………語幹+았(았, 았) |
| | ③ は過去完了……語幹+았(았, 았)+었 |
| | ④ は未来………語幹+겠 |
| | ⑤ は未来完了……語幹+겠+었 |
-
- | |
|-----------------|
| ⑥ は現在………語幹+는 |
| ⑦ は過去………語幹+ㄴ(은) |
| ⑧ は過去継続……語幹+던 |
| ⑨ は未来………語幹+던(을) |

時称	基本形	完了形	接続形
現在	주—ㄴ다 받—는다		주—고 있다 받—고 있다
過去	주—었다 받—았다	주—어 버리었다 받—아 버리었다	주—고 있었다 받—고 있었다
過去完了	주—있었다 받—았었다	주—어 버리웠었다 받—아 버리웠�다	주—고 있었었다 받—고 있었었다
未来	주—겠다 받—겠다 주—리다 받—으리다	주—어 버리겠다 받—아 버리겠다 주—어 버리리다 받—아 버리리다	주—고 있겠다 받—고 있겠다 주—고 있으리다 받—고 있으리다

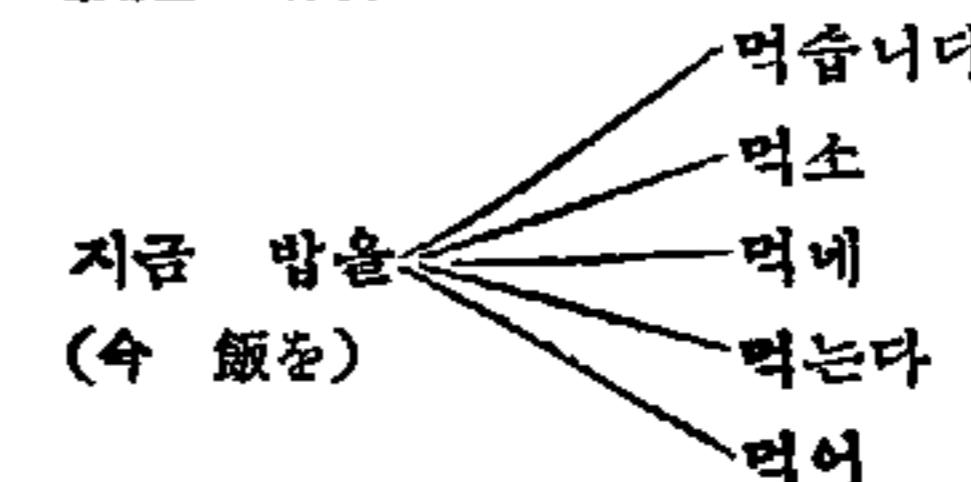
第三十五講

動詞につく助詞

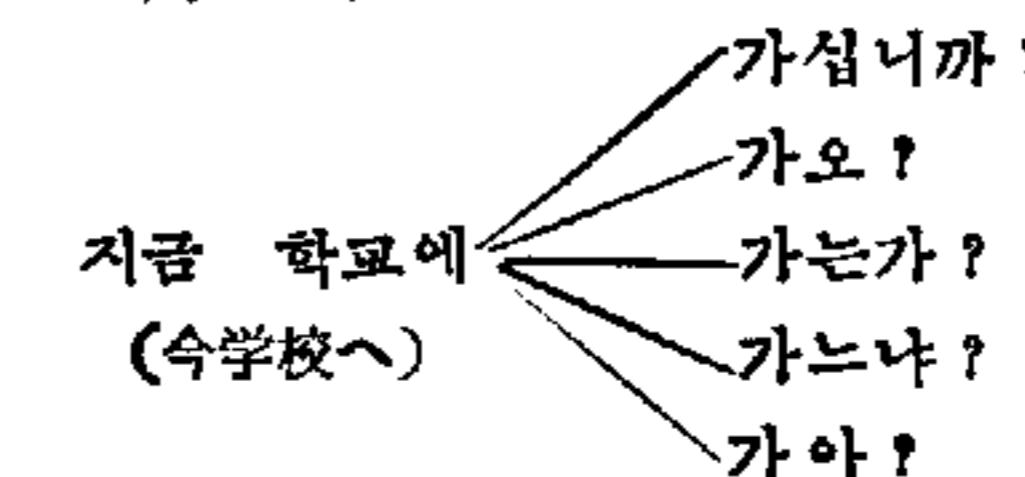
今度は動詞につく助詞について学習しましょう。動詞の終結助詞は、前講で学んだ形容詞のそれと大体同じですが、動詞の場合はその他に、命令と勧誘に使う助詞があります。例によって例文を挙げてみましょう。これも現在形を五つの階称の順にならべて説明することにしましょう。

A. 終結の助詞

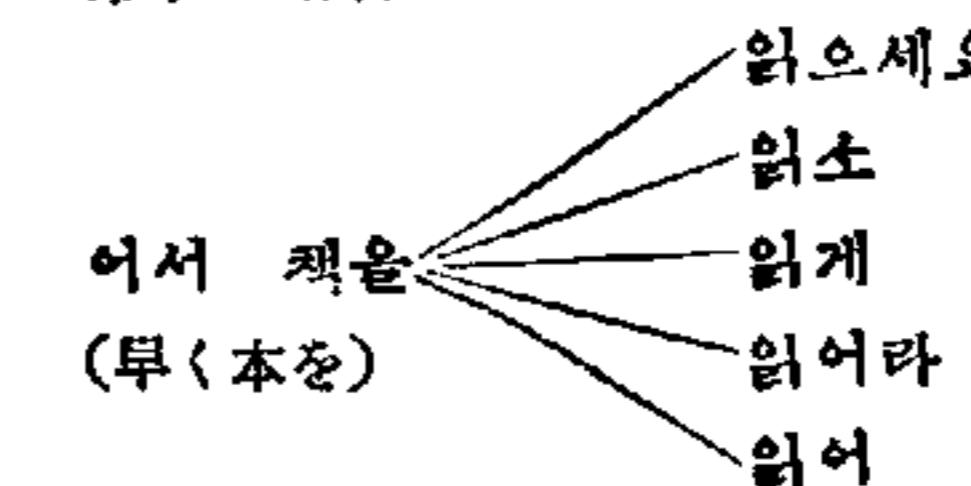
1. 敘述の場合



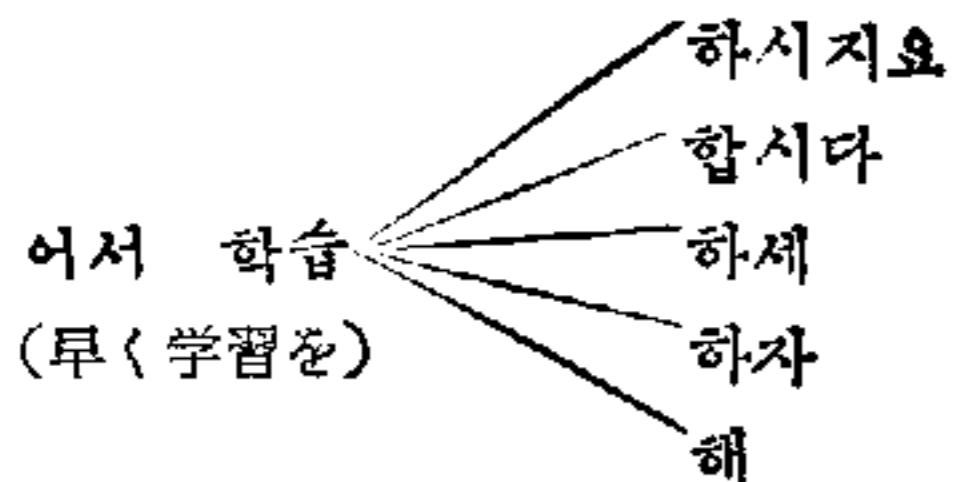
2. 疑問の場合



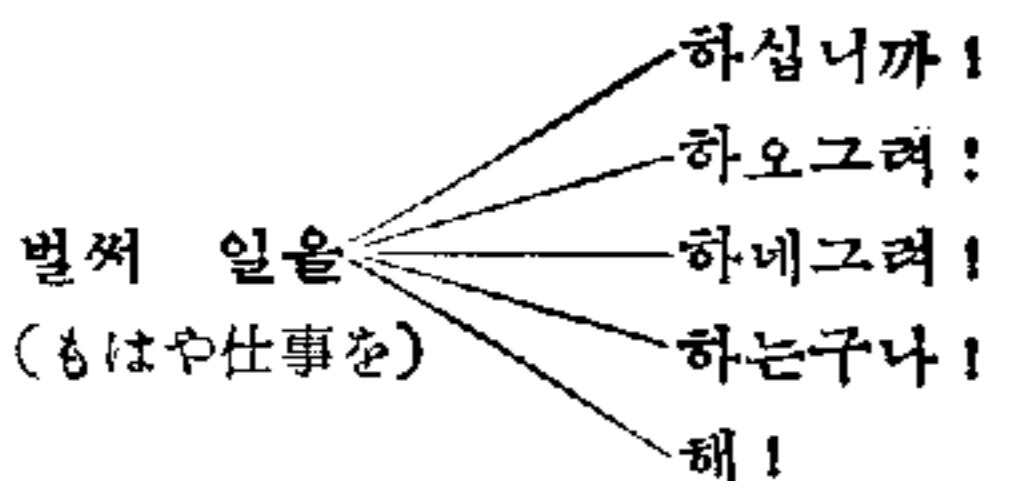
3. 命令の場合



4. 勧誘の場合



5. 感嘆の場合



次にこれらを図表に示しましょう。

階 級 稱 稱	語 幹	直接法			疑問法			命令法	勧誘法
		現在	過去	未來	現在	過去	未來		
高 い 말	발	-아요 -어요, 어 -요	-았어요 -았지요 -았습니다 -았나이다 -나이다	-겠어요 -겠지요 -겠습니다 -겠나이다	-아요? (-어요? -여요?)	-았어요? -았지요? -았습니까? -았니까? -니까?	-겠어요? -겠지요? -겠습니까? -겠니까? ?	-아요 -지요 -사요 -조사	-아요 -지요 -십시오
		-지요	-았지요	-겠지요					
		-님마다	-았나이다	-겠나이다					
		-나이다							
普通 말	발	-네 -오(-소) -아(-어) -여	-았네 -았소 -았어 -았지	-겠네 -겠소 -겠어 -겠지	-는가 -오? -소? -아? -여? -	-았는가? -았소? -았어? -았지? -	-겠는가? -겠소? -겠어? -겠지? -	-게 -오 -소 -구려 -아 -지	-세 -아 -지
		-지							
		-ㅁ세							
低 い 말	발	-느다, -는다 -다구나 -는군 -(으) 마	-았다 -았구나 -았군 -았	-겠다 -겠구나 -겠군 -았	-나? -나? -니? -라?	-았나? -았니? -겠나? -	-겠나? -겠니? -	-파 -아파 -여우나	-자

B. 接続の助詞

1. 바람이 불며 비가 온다。
2. 비 오고 바람이 분다。
3. 바람이 불되 비는 아니 온다。
4. 바람은 부나 비는 아니 온다。
5. 바람이 불다가 비가 온다。
6. 바람이 불더니 비가 온다
7. 바람이 불면 비가 온다。
8. 바람이 부너 비가 올 것이다。
9. 바람이 불거든 오지 말아라。
10. 바람이 불자 비가 온다。

[訳] 1. 風が吹くと共に雨が降る。

2. 雨が降り風が吹く。
3. 風が吹くけれども雨は降らない。
4. 風は吹くが雨は降らない。
5. 風が吹いてから雨が降る。
6. 風が吹いていたが雨が降る。
7. 風が吹けば雨が降る。
8. 風が吹くから雨が降るだろう。
9. 風が吹いたら、来るな。
10. 風が吹くや否や、雨が降る。

この文章の中の ~면, ~나, ~다가, ~더니, ~면, ~니,
~거든, ~자は接続の助詞です。

C. 規定語の助詞

1. 가는 시간을 뒷하지 말고 부지런히 일을
할 것이다.
2. 지나간 자동차를 바라보고 있다.
3. 나갈 구멍을 찾고 있던 적놈 병사들을
모조리 사로 잡았다.
4. 하던 일을 끌마치자.

[訳] 1. 過ぎゆく時間を惜しまずに、熱心に仕事をすべきである。
2. 通り過ぎた自動車をながめている。
3. 出て行く穴を探していた敵の兵士たちを、全部生捕りにした。
4. やっていた仕事を終えよう。

この文章で ~는, ~간, ~갈, ~던は規定語の助詞です。

D. 補語の助詞

1. 글을 배우려 학교에 간다.
2. 글을 배우려고 학교에 간다.
3. 글을 배우게 되었다.
4. 글을 배워 훌륭히 되었다.

[訳] 1. 字(学問)を習うために学校へ行く。
2. 字を習うべく学校へ行く。
3. 字を習うようになった。
4. 字を習って立派になった。

このうち ~려, ~려고, ~게, ~위 は、補語の助詞です。
これで動詞につく助詞の主なものは、全部終ったわけです。これらの助詞の使い方をしっかりのみこんでおくと、文章を理解するのに役立ち、朝鮮語上達の第一歩です。頑張って下さい。

練習

次の文章を読み、正確に訳して下さい。

1. 하필 눈 오는 아침에 오느냐?
2. 눈이 올 시절이 되었다.
3. 눈 오던 아침에 아버지는 먼길 떠났다.
4. 선생님께서는 저 넓은 길로 오시더라.
5. 아버지께서 모레는 오시겠지.
6. 봄날의 첫 명절인 5·1절을 우리들은 즐겁게 맞이하였다.
7. 바람이 불거든 바로 떠나시오.
8. 행동을 금지하는데 어떻게 가겠습니까?
9. 아저씨 가십시오.
10. 뿐만 강물이 흐른다. 강 우에는 배가 있다.
 배'사공은 로를 젓는다.

[註] 하필 (なんで、どうしてとかの意), 올 (来るべきとか
~すべきという意), 먼길 (遠い道、長い旅), 모레 (明
後日), 첫 (初め), 명절 (名節), 행동 (行動), 금지
(禁止), 아저씨 (叔父さん), 강물 (川の水), 배 (帆
かけ舟), 배'사공 (船乗り), 로 (櫓), 젓다 (漕ぐ)

[訳] 1. どうして雪の降る朝に来るのか?
2. 雪の降る時節になった。
3. 雪の降っていた朝に父さんは遠い旅に出かけた。

4. 先生はあの広い道をいらっしゃった。
5. お父さんは明後日は来るだろう。
6. 春の最初の名節である 5・1 節を、我々は、楽しく迎えた。
7. 風が吹いたらすぐたちなさい。
8. 行動を禁止するのには、どうして行かれますか？
9. 叔父さん、行きましょう。
10. 青い川の水が流れる。川の上には帆かけ舟が浮んでいる。
船乗りは櫓を漕いでいる。

第三十六講

動詞につく助詞の変化

前講で習った動詞の助詞について、その変化に従って文章を作ってみましょう。

- | | |
|------|--|
| 終結述語 | 나는 지금 글을 썼다.
(私は今字を書く。) |
| | 나는 아까 글을 썼다.
(私はさっき字を書いた。) |
| | 나는 있다가 글을 쓰겠다.
(私は少したって字を書くだろう。) |
| | 그는 아까 글을 쓰더라.
(彼はさっき字を書いていた。) |
| | 비 <u>오고</u> 바람 불 때렸다.
(雨が降り風が吹く時だった。) |
| | 비 <u>오며</u> 바람 불 때렸다.
(雨が降りながら、風の吹く時だった。) |
- 기차는 오되 자동차는 아니 온다.

接続述語

- | |
|---|
| 기차는 왔었으나 자동차는 아니 왔다.
(汽車は來たけれど、自動車は來なかつた。) |
| 사람이 <u>오니</u> 개가 올 것이다.
(人が来るから、犬が来るであろう。) |
| 그가 <u>가면</u> 나도 간다.
(彼が行けば僕も行く。) |
| 아버지 <u>오더니</u> 아들이 온다.
(父さんが来ていたが、息子が来る。) |
| 그는 <u>말하다가</u> 그만 끊다.
(彼は話していたが、やめてしまった。) |

現在述語

- | |
|--|
| 가는 사람을 잡지 말라.
(行く人を捕えるなれ。) |
| 잡은 손을 푸리쳤다.
(握った手を振りきった。) |
| 간 사람이니 찾지 말아.
(行った人だから探すな。) |
| 둑은 허물을 들키어 냈다.
(古い傷を探し出す。) |
| 갈 사람은 가게 하여라.
(行くべき人は、行くようにしろ。) (しなさい。) |
| 남을 사람은 남게 하여라.
(残る人は残るようにしろ。) (しなさい。) |
| 가면 사람이 도로 온다.
(行っていた人が、もどって来る。) |
| 해곡식이 먹게 되었다.
(新穀が食べられるようになった。) |
| 밤 새도록 놀다 간다.
(夜明けまで遊んで行く。) |

補語	잘 <u>되려고</u> 애를 쓴다。
	(よくなるべく努力をする。)
	글 <u>배우려</u> 간다
	(字を習いに行く。)
	물이 점점 <u>줄어</u> 간다
	(水がだんだん減って行く。)
	글 공부를 <u>하지</u> 아니한다.
	(字の勉強をしない。)
	어서 <u>가고</u> 싶다。
	(早く行きたい。)
	장차 <u>가고자</u> 한다.
	(将来行こうとしている。)

練習

次の詩を訳して下さい。

해들이
(日の出)

붉은 해 돌아 오는 동쪽 바다에
(赤い)

금빛 같은 해살이 쏘아 비치니
(金の色)

물결은 그물그물 금조각 뛴다.
(波)

(解答卷末附錄参照)

第三部

構文篇

第三十七講

仮定形 ~면, ~라면, ~거든

1. 어떻게 하면 좋은가?
(どうすればよいか?)
2. 만일 돈이 있으면 빌려 주시오。
(もしお金があったら、借して下さい。)
3. 노래를 부르면 사람들이 모인다。
(歌を歌えば、人々が集まる。)
4. 단결하면 반드시 승리한다。
(団結すれば、必ず勝利をうる。)
5. 그것이 사실이라면 이것은 진실이요。
(それが事実ならば、これは真実です。)
6. 그가 태양계라면 그의 수많은 부하들은
정녕 이를 둘러싼 위성인 것이다。
(彼が太陽系であるならば、彼の数多くの部下たちは、当然これをとりまく衛星なのだ。)
7. 그가 정말 일^군이거든 한번 사업을 맡기여
봅시다.
(彼がほんとうに働き手ならば、一度事業を任せて見ましょう。)
8. 많거든 좀 주면 어때。
(多ければ少しやったらどうか。)
9. 저것이 짐승일전대 웬시 꼼일것이요。
(あれが獣ならば、必ず熊でしょう。)
10. 마음이 그럴전대 말해 무엇하오?
(気持がそうならば、話してもどうにもなりませんね?)

11. 만일 돈이 있으면 천원만 빌려 주시오。
(もしお金があったら、千円だけ貸して下さい。)
12. 호랑이가 죽으면 껍질을 남기며 사람이 죽으면 이름을 남진다。
(虎が死ねば(ぬと)皮を残し、人が死ぬと(ねば)名を残す。)

以上の文章の中にあるように、朝鮮語で仮定形をつくろうと思えば ~면, ~라면, ~근전대, ~거든を使います。それから「~면」と「~으면」の区別は、 받침のある単語の次に来るときは「~으면」がつき、 받침のない単語の次には「~면」がつきます。また「れば」「ば」「ならば」等を使うときにも、やはり「時称」の問題があります。その場合には基本的な形が次のようにになります。若干の例を挙げて説明しましょう。

	基	現在	過去	未来
「하다」の つく動詞, 形容詞	하다	하면	하였으면	면겠으면
	일하다	일하면	일하였으면	일하겠으면
	말하다	말하면	말하였으면	말하겠으면
	공부하다	공부하면	공부하였으면	공부하겠으면
	노래하다	노래하면	노래하였으면	노래하겠으면
「받침」の ない動詞, 形容詞	가다	가면	갔으면	가겠으면
	오다	오면	왔으면	오겠으면
	쓰다	쓰면	썼으면	쓰겠으면
	가지다	가지면	가졌으면	가지겠으면
	심그다	심그면	심었으면	심그겠으면
받침のあ る動詞, 形容詞	웃다	웃으면	웃었으면	웃겠으면
	읽다	읽으면	읽었으면	읽겠으면
	읊다	읊으면	읊었으면	읊겠으면
	남다	남으면	남았으면	남겠으면

練習

次の動詞は、それぞれの時称によって、仮定形がどう変化するか、書いて見ましょう。

現在	過去	未来
가하다		
놀라다		
부르다		
막다		
닦다		
느끼다		
믿다		
노하다		
싸우다		
갚다		

(解答卷末附錄参照)

第三十八講

～란, ～라고, ～란 것,
(～と, ～というもの)

- 물이란 것은 수소와 산소가 화합한 것이라고 선생님이 리'과시간에 설명하였다。
(水というものは、水素と酸素が化合したものであると、先生が理科の時間に、説明した。)
- 이렇게 하면 반드시 성공할 것이라고 생각한다。
(このようにすれば、必ず成功するものと考える。)
- 아까 김 정기란(라고하는) 사람이 찾아 왔습니다。

(さっき김 정기という人が訪ねてきました。)

4. 진정한 독립이란 외국의 조종하에 있지 않고
그나라 인민들의 의사에 따른 정치를 하는 것이다。

(ほんとうの(眞の)独立とは(といふものは),他国の操縦の下
になく,その國の人民の意志に従つた,政治をすることだ。)

5. 배운다는 것은 다만 기억하는 것 뿐만 아니라
훌륭한 인간이 되는 일이다。

(学ぶということは,単に記憶することのみでなく,立
派な人間になることだ。)

6. 지구란 것은 해양의 주위를 돌고 있는 천체의
하나이다。

(地球というものは,太陽の周囲を廻っている,天体の一
つである。)

7. 가르친다는 것이 교사의 역할의 전부라고는 말
할 수 없다.

(教えるということが,教師の役割の全部だとはいえない
(いい得ない。))

8. 전쟁은 인류가 만들어 낸 모든 문화를 파괴한
다는 것을 알아야 할 것이다.

(戦争は,人類が創り出したすべての文化を破壊するもの
であるということを,知らねばならない。)

9. 그 동무는 매일 아침에 집에 돌아 가라고 말
하였다.

(その友だちは明日の朝,家へ帰るようにといいました。)

10. 백두산보다 금강산이 아름답다는 것은 누구나
다 아는 바이다.

(白頭山より金剛山が,美しいということは,誰でも皆知
っているところだ。)

(～と,～ということ)の形は,私たちの日常使っている言葉の
中に沢山出でます。上の文章によってどういう規則があるか

まず調べて見ましょう。

まず「～란」という形が使われている部分を,抜き出してみ
ますと

<u>지구란</u> 것은..... 地球というものは
<u>물이란</u> 것은..... 水というものは
<u>김 정기</u> 란 사람...김 정기という人が	
<u>독립이란</u> 独立というものは

のようになりますが,アンダーラインのあるところ,つまり「～
といふ」の「～」に当る部分の場合は,皆名詞であることに気
づくでしょう。この場合 받침のある名詞の時は

받침のある名詞+이란, 이라는

となり, 받침のない名詞の時は

받침のない名詞+란, 라는

という形になっています。

次に動詞, 及び形容詞の場合には

<u>배운다는</u> 것은..... 学ぶということは
<u>가르친다는</u> 것은..... 教えるということは
<u>파괴한다는</u> 것을..... 破壊するということを
<u>아름답다는</u> 것은..... 美しいということは

のようになりますが,アンダーラインのある部分をみると,
どの場合でも,必ず「用言」の現在形の後に「는 것」という
形がついていることが分るでしょう。ですから「用言」+～と
いう……の場合には

用言の現在形+는+(것)

となることが分ると思います。

例えば

動詞	먹는다는 것은.....食べるということは
	읽는다는 것이.....読むということは
	산다는 것을.....生きるということを
	간다는 것에.....行くということに
	공부한다는 것으로.....勉強するということで
形容詞	춥다는 것은.....寒いということは
	바쁘다는 것이.....忙がしいということは
	밝다는 것을.....明るいということを
	맑다는 것은.....清らかであるということは
	짜르다는 것이.....短かいということは
	길다는 것을.....長いということを

1. 먹는다는 것은 즉 산다는 것이다。
(食べるということは、即ち生きるということだ。)
2. 산다는 것은 労働한다는 것이다。
(生きるということは、労働する(働く)ということだ。)
3. 눈이 온다는 것은 물체가 변화 한다는 것을 의미 한다。
(雪が降るということは、物体が変化するということを意味する。)

次には「～고」という形について調べてみましょう。例えば
次のような日本語の文章を朝鮮語に訳してみると、

1. 私は、あの~~人~~をとても美しいと思う。
2. 彼は、確かにそうだといった。

- 3.あの人が早く來いといっている。
- 4.私はもう寝たと伝えて下さい。
- 5.朝鮮に虎がすんでいるということは、本当だろうか?

[訳] 1. 나는 그 사람을 아주 꿈다고 생각한다.

2. 그는 확실히 그렇다고 말했다.
3. 저분이 빨리 오라고 말하고 있다.
4. 저는 별씨 잤다고 여쭈어 주시오.
5. 조선에 범이 살고 있다는 것은 정말일까?

上記の文章で「～と」は「～고」という形になっていることが分ると思います。この形を整理すると、

- (a) 「未然形」+고 = 未来を表わす
- (b) 「現在形」+고 = 現在の表現
- (c) 「命令形」+고 = 命令の伝達を表わす

のようになります。つまり

(a) の場合では

1. 내일은 학교에 가겠다고.....
明日は、学校へ行くって.....
2. 그는 그것을 먹겠다고 한다.
彼は、それを食べると言っている。
3. 조선은 반드시 통일되겠다고.....
朝鮮は、必ず統一されると(だろうと)

(b) の場合は

1. 오늘 아침에 간다고.....
今朝行くと.....
2. 그는 그곳에 산다고.....
彼は、そこに住むと.....

3. 운동을 한다고 말하였다。
運動すると言った。

(c) の場合は

1. 선생님께서 빨리 오시라고 한다。
先生が、早く来なさいと言っている。
2. 한 끔도 놓지지 말라고 하신다。
一人も逃がすな、と言っている。
3. 뛰여가라고 명령이 내렸다。
走って行け、と命令が出た。

次には自分の意志を表わす場合に「～려고」「～しようと」を使うことが多いです。

1. 내일大阪에 갈려고 생각한다。
明日、大阪に行こうと思っている。
2. 공부할려고 했지만 신부름 때문에 못했다.
勉強しようとしたけれども、お使いのために、出来なかった。
3. 그 때 그것을 먹을려고 했지만 못먹었다.
その時、それを食べようとしたが、食べられなかった。

練 習

次の日本文を朝鮮語に訳しなさい。

1. 明日は、必ず雨が降ると思う。
2. これが、文法の教科書だって……。
3. 彼は、奴隸の解放ということを、熱心に考えた。
4. 資本主義と社会主義とは、共存できる。
5. 哲学とは何か？ 説明せよ。
6. 金日成という人は、偉大な指導者である。
7. 労働するということが、即ち、幸福ということではない。なぜなら、最低生活が、保障されないから。

8. 為政者は、國民に向って何も言うなと言った。
9. 私と一緒に平壤へ行こう。
10. 全部間違いだとは言えない。

(註) 必らず=꼭, 반드시, 文法=문법, 教科書=교과서, 奴隸=노예, 解放=해방, 热心に=열심히, 資本主義=자본주의, 社会主義=사회주의, 共存できる=공존할 수 있다, 哲学=철학, 説明=설명, 偉大な指導者=위대한 지도자, 労働する=로동한다, 幸福=행복, 最低生活=최저 생활, なぜなら=왜냐하면, 保障=보장, 為政者=위정자, 一緒に=같이, 間違い=잘못, 言えない=말 못한다。

(解答卷末附錄参照)

第三十九講

短 文

조선에는 어디든지 아름다운 산과 강이 있습니다。
산 중에 제일 높은 산은 백두산이고 가장 아름다운 산은 금강산입니다。

강 중에 제일 진 강은 압록강이고 섬중에 제일 큰 섬은 제주도입니다。

들에는 곡식이 잘 자라고 바다에서는 고기가 흔히 잡히며 산에는 금, 철, 석탄과 아름드리 나무가 많이 납니다.

우리 조선은 참 살기 좋은 나라입니다.
이와 같이 아름답고 살기 좋은 나라에 려여난 것을 나는 자랑으로 생각하고 더욱 빛나는 조선을

세울려고 생각합니다。

(註) 어디든지=어디는「どこ」の意味ですから「どこでも」となります。아름다운=「아름답다」の変化形で「美しい」(ただし、この形は後に名詞、代名詞、数詞等のような体言が来る場合に使います。)섬=島、제일=一番、제주도=濟州島、백두산=白頭山、중에=中(～の中でも、～のうちでも) 금강산=金剛山、진=「걸다」の変化形です。압록강=鴨綠江、잡히며=「잡히다」の変化形で「魚が沢山とれ」の「とれ」にあたります。금=金、철=鉄、석탄=石炭、납니다=「나다」(出る、産出する、とれる)の丁寧な形。살기 좋은=住みよい、生活しよい。이와 같이=このように、태여 난=生れ出た。자랑=誇り、으로=この場合の「으로」は副詞を表わす「に」という助詞の役目をします。앞으로=前に、前途に、冀나는=輝やく、세울려고=「세우다」が原形で「たてようと」の意味、はっきりした意志を表わしています。

これは特別にむずかしい点はないのですが、一応一緒に訳してみましょう。

朝鮮にはどこにでも(どこでも)美しい山と川(江)があります。山の中で一番高い山は白頭山で、最も美しい山は金剛山です。

川(江)の中で一番長い川(江)は、鴨綠江であり、島の中で一番大きい島は濟州島です。

野では(には)穀物がよく育ち、海では魚がいっぱいとれ、山には金、鉄、石炭といくつかえもある木が沢山とれます。

わが朝鮮は、ほんとうに(真に)住みよい国です。

このように、美しく住みよい国に生まれたことを、僕は誇りに思い、これから先、もっと輝かしい朝鮮をたてようと(建設しようと)思っています(考えています)。

第四十講

疑問文～日니까？(～ですか)

아저씨, 오늘 뭐 기쁘지요?

무어가?

오늘이 바로 5·1절이 아니세요?

기쁘고 말고, 넌 한 기쁘냐?

자도 물론 기쁘지요.

おじさん、今日とても嬉しいでしょう？

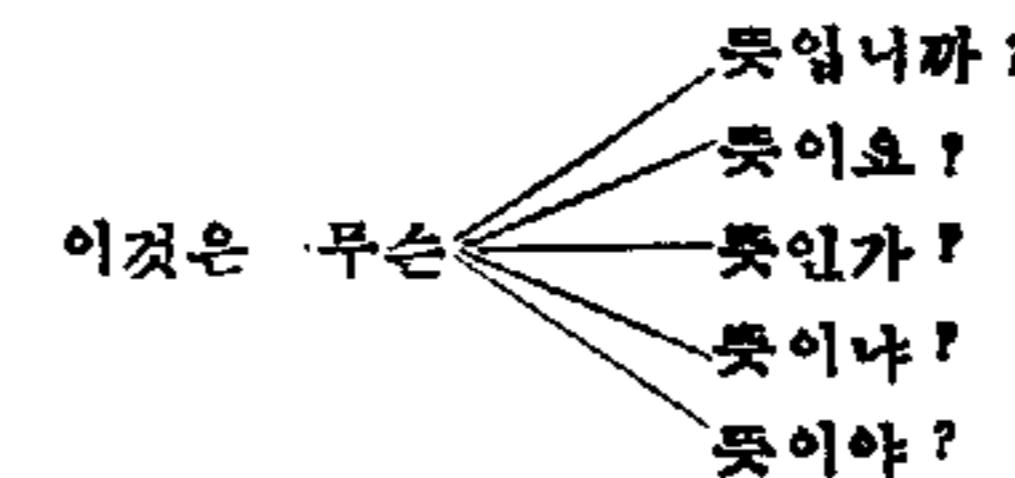
何が？

今日はちょうど5・1節ではありませんか？

それは嬉しい、君は嬉しいのか？

僕も、もちろん嬉しいんです。

この文章にあるように、疑問文だからといって、特別な形があるわけではなく、疑問形の終結助詞をつけて、疑問符号をつけるとよいのです。これも例の通り階称があります。これを注意すれば、日本語と殆んど同じですから簡単です。



(これは何の意味か)という文の疑問形の階称です。次に、この階称別の例文をあげてみましょう。

어머니 어디 가십니까？

(お母さん、どこへ行かれますか。)

형님 이것은 언제 것이오?
(兄さん、これはいつのものですか。)

동무 저것은 무엇인가?
(君、あれは何ですか。)

저기서 떠드는것은 누구이야?
(あそこで、騒いでいるのは誰か。)

너 그 주제가 무엇이야?
(君、そのざまは何だ。)

このようになります。日本語に訳すとぴんとこないですが、朝鮮語の場合は整然と区別され、ニュアンスも全然別なものです。

練 習

次の言葉を<높임 말>, <보통 말>, <낮춘 말>の階称によって疑問文をつくって下さい。

먹는다 (食べる)

잔다 (寝る)

간다 (行く)

말한다 (話す)

놀다 (遊ぶ)

(解答卷末附錄参照)

第四十一講

命令文 ~시오 (~しなさい)

1. 동무는 저 놈들의 동정을 잘 관찰하시오。

(君は、あいつらの動静をよく観察しなさい。)

2. 자네는 평양에 가시오。

(君(あなた)は、平壤に行きなさい。)

3. 아버지 어서 집으로 돌아 오십시오。
(お父さん、早く家にかえって下さい。(おかえりなさい。))

4. 김동무 너는 저까지 뛰어 가거라.
(金君、君はあそこまで走って行け。)

5. 빨리 해. (早くしろ。)

この文章にあるように、命令文も特別な形があるわけではなく、命令形の終結助詞をつけるとよいのです。これも階称があります。

능금을 먹는다 (りんごを食べる)

という文章を疑問形にして、階称別にして見ると



次に階称別の例文をあげてみましょう。

아버지 진지 잡수십시오。

(お父さん、御飯をお上り下さい。) 진지=御飯

형님 밥 자시오。

(兄さん、御飯を食べなさい。)

자네 밥 먹게. (君、御飯を食べたまえ。)

동수 밥 먹어라. (동수 御飯を食べろ。)

너 밥 먹어. (君、飯を食え。)

練 習

次の言葉を使って<높임 말>, <보통 말>, <낮춘 말>の階称に区別して命令文を作って下さい。

있다	(有る)	간다	(行く)
말한다	(話す)	찾다	(探す)
온다	(来る)	읽다	(読む)
놓다	(置く)		(解答卷末附錄参照)

第四十二講

勧誘形 ~십시오 (~しましょう)

동무들아, 모여라, 저 언덕 위에 모여라,
노래를 부르자, 5·1절의 노래를。
봄'바람에 쑥겨서 머나먼 저쪽까지 들리게
우렁찬 노래를 부르자。
友よ、集れ、あの土手の上に集れ、
歌を歌ねう、5・1 節の歌を、
春風に乗って、はるかの彼方まで聞えるように
声高く（かんだかい）歌を歌ねう。

1. 자! 학교에 빨리 가자。
(さあ、学校へ早く行こう。)
2. 저쪽에서 같이 일합시다。
(あそこで、一緒に仕事をしましょう。)
3. 우리 손으로 우리 힘으로 평화로운 세계를
만들자。
(われわれの手で、われわれの力で、平和な世界をつくろう。)
4. 큰 소리로 승리의 노래를 부릅시다。
(大きな声で、勝利の歌を、歌いましょう。)
5. 평화를 위하여 싸우자。
(平和のために斗おう。)

6. 열심히 공부하여 실력을 높이자
(熱心に勉強して実力を高めよう。)

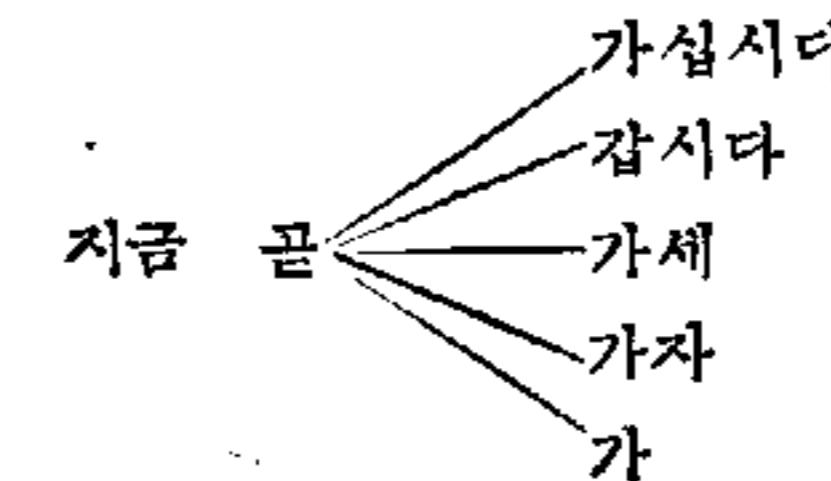
「～しょう」「～しましょう」を勧誘形と呼んでいますが、朝鮮語では「～자」「～십시오」「～시다」等を語尾につければよいのです。次に語幹に 받침のある場合とない場合と少し形が異りますから、その例を若干あげてみましょう。

原 形	勧誘形	
가다 (行く)	→ 갑시다	받침のない場合。
자다 (ねる)	→ 잡시다	
치다 (飼う)	→ 칡시다	
하다 (する)	→ 합시다	
부르다 (呼ぶ)	→ 부릅시다	
먹다 (食べる)	→ 먹읍시다	받침のある場合。
잡다 (捕る)	→ 잡읍시다	
받다 (受ける)	→ 받읍시다	
놓다 (置く)	→ 놓읍시다	
넣다 (入れる)	→ 넣읍시다	

これも階級があります。階級別の例文をあげましょう。

지금 곧 간다 (今すぐ行く。)

この文章を勧誘形の階級別にすると、



練 習

次の言葉で階級別の勧誘文を作りなさい。

먹다。
잔다。
간다。
논다。

(解答卷末附錄参照)

第四十三講

否定形 ~아니다 (~でない)

1. 오늘은 일하러 가지 않습니다。
(今日は仕事しに行きません。)
2. 어느 쪽이 옳은지 아직 결정하지 않았다。
(どちらが正しいか、まだ決定していない。)
3. 저 사람은 절대로 웃지 않는다。
(あの人は絶対に笑わない。)
4. 평화에의 길은 결코 멀지 않다。
(平和への道は決して遠くない。)
5. 결국 그는 전쟁 려에 가지 않았다。
(結局彼は戦場へ行かなかった。)
6. 이 분은 공장 직공은 아니다。
(この方は工場の職工ではない。)
7. 자유란 것은 언제든지 옳은 것은 아니다。
(自由ということはいつでも正しいことではない。)
8. 봉건 제도 하에 있어서는 농민들은 자유를 얻지 못했다.

(封建制度の下においては農民たちは自由を得ることが出来なかつた。)

9. 비가 너무 많이 왔기에 오지 못했소。
(雨があまり多く降ったので、行かれなかつたんです。)
10. 빈곤한 농민이나 노동자들은 아무리 일하여도 점점 불어가는 부채를 갚을 수가 없었다。
(貧乏な農民や労働者は、いくら働いても、だんだん増えて行く借金(負債)を返えす(払う)ことが出来なかつた。)
11. 나는 그것을 절대로 믿을 수 없다.
(僕はそれを絶対に信ずることが出来ない。)
12. 총 소리를 듣고 새들이 도망쳤기 때문에 잡을 수 없었다.
(銃声(鉄砲の音)を聞いて小鳥が逃げたために、捕えることが出来なかつた。)

以上の否定の形には四つの種類があります。つまり

- 第一型 ~지+않다
- 第二型 ~이(은)+아니다
- 第三型 ~지+못한다
- 第四型 ~수+없다

のようになりますが、これを時称にして使っています。

「않다」という語は「아니하다」の略であることに注意して下さい。

次に「~することができる」という場合には「없다」を「있나」と置きかえればよいのです。また「하지 않다」を「한다」に「아니다」を「이다」にするのです。

1. 먹을 수 없다. を 먹을 수 있다.
(食べることが出来ない) (~出来る)
2. 쉬고 싶어도 쉴 수 없다. を
(休もうと思っても休むことが出来なかつた。)

쉬고 싶으면 쉴 수 있었다。
(休もうと思えば休むことが出来た。)

3. 부사산은 보이지 않았다。を
(富士山は見えなかった。)
부사산은 보이였다。
(富士山は見えた。)

4. 루네싼쓰는 혁명이 아니다。を
(ルネッサンスは革命でない。)
루네싼쓰는 혁명이다。
(ルネッサンスは革命である。)

またこのような形からいろいろと変化する場合には、動詞や形容詞の変化に準じて作ればよいのです。

例えば、

- 공부하다 (原形)
공부할 수 없다………勉強することが出来ない。
공부할 수 없으면………勉強することが出来なければ
공부할 수 없겠다………未来
공부할 수 없었다………過去
공부할 수 없고………勉強することが出来なくて
공부할 수 없어서………同

さて上記の文章に「～수～」という形が沢山使われていますが、これは、手、手段、方法という意味です。ですから、「공부할 수 없다」を直訳すれば「勉強する方法がない」「勉強する手段がない」ということになりますが、「勉強することが出来ない」という文章に訳しています。

第四十四講

使役形 ~시키다 (~させる)

使役形は日本語でいえば「～をして～させる」といったような形であります。朝鮮語の使役形には次のような三つの形があります。

- (a) 1. 그 동무는 어머님께 걱정시키다。
(その友達は母に心配させる。)
2. 그들은 자기 자신을 해방시키기 위하여 군
계 단결하였다。
(彼らは自分自身を解放させるために固く団結した。)
3. 그는 아들에게 과학 공부를 시켰다。
(彼は息子に科学の勉強をさせた。)
4. 나는 그것을 생도들끼리 결정하게 하였다。
(私はそれを生徒同士で決定させた。)(決定するよう
にした。)
5. 아들이 아버지를 결상에 앉게 하였다。
(息子が父を椅子に坐るようにした。)(坐らせた。)

このように「～시키다」「～게 하다」の形ですが、これは

他動詞 (…하—) 語根+(시키—)

の形と、使役動詞の代りに

…게 하다

という使い方で使役を表わしたものです。

- (b) 1. 그는 우수운 이야기를 하여 전원을 웃겼다。
 (彼はおかしい話をして全員を笑わせた。)
2. 춘향전의 슬픈 이야기는 많은 독자를 울렸다。
 (春香伝の悲しい物語りは多くの読者を泣かせた。)
3. 어제 중로동을 한 그를 오늘은 즐겼다。
 (昨日重労働をした彼を今日は休ませた。)
4. 절약한 그는 많은 돈을 남겼다。
 (節約した彼は多くの金を残した。)
5. 우리는 얘기를 자장가로써 재웠다。
 (泣く子供を子守歌で寝かせた。)

このように

自動詞語幹+接尾辞 (이, 리, 히, 우, 기)

の公式によって使役動詞となっています。

自動詞	使役動詞
웃다 (笑う)	웃기다 (笑わせる)
울다 (泣く)	울리다 (泣かせる)
앉다 (坐る)	앉히다 (坐らせる)
자다 (寝る)	재우다 (寝かせる)
녹다 (溶ける)	녹이다 (溶かす)

- (c) 1. 어머니가 애기에게 젖을 먹이다。
 (母が子供に乳を飲ませる。)
2. 선생은 생도에게 책을 읽히다.
 (先生は生徒に本を読ませる。)
3. 평양 방송을 녹음하여 마을 사람들에게 들렸다.
 (平壌放送を録音して、村の人たちに聞かせた。)
4. 물'득에 물을 채웠다.

- (水壺に水を満たした。) (一杯にした。)
5. 더럽힌 애기 옷을 어머니가 벗겼다.
 (よごした子供の服を母が脱がせた。)

これは

他動詞語幹+接尾辞 (이, 히, 기, 우, 리)

の公式によって使役動詞となっています。

他動詞	使役動詞
먹다 (食べる)	먹이다 (食わせる)
보다 (見る)	보이다 (見させる)
읽다 (読む)	읽히다 (読ませる)
갈다 (耕す)	갈리다 (耕させる)
벗다 (脱ぐ)	벗기다 (脱がせる)
타다 (燃える)	태우다 (燃えさせる)
입다 (着る)	입히다 (着させる)

大体以上のような三つの公式によって使役形が造られます。では練習問題をやってみましょう。

練習

次の文章を訳して下さい。

- 공기 중에 있는 많은 수분이 칼의 철분을 산화시키는 역할을 한다.
- 그 때 발표시킨 것은 어음론이란 토론이다.
- 그 회극은 많은 관중을 웃겼다.
- 이글이글한 태양은 동굴의 얼음을 녹혔다.
- 설날 새옷을 그의 딸에게 입혔다.

[註] 공기 (空氣) 중에 (中に), 수분 (水分) 칼 (刃), 철분

(鉄分), 산화 (酸化), 역할 (役割), 발표 (発表), 어음론 (語音論), 논문 (論文), 희극 (喜劇), 관중 (觀衆), 이글이글한 (ぎらぎらした), 동굴 (洞窟), 얼음 (氷) 설날 (正月の日, 一月一日), 새옷 (新しい服)
(解答卷末附錄参照)

第四十五講

被動形 (受身) ~하다 (~される)

被動形というのは「～される」「～れる」という日本語の受動態と同じものです。朝鮮語の被動形の場合は次の二つの形があります。

(a) 動詞の語幹に接尾辞 (히, 리, 기, 이) をつけて被動形を作る場合。

【히】が接続するもの

묻다 (埋める)	묻히다 (埋められる)
닫다 (閉める)	닫히다 (閉められる)
먹다 (食べる)	먹히다 (食べられる)
잡다 (捕える)	잡히다 (捕われる)

【리】が接続するもの

갈다 (磨く)	갈리다 (磨かれる)
부르다 (呼ぶ)	불리다 (呼ばれる)
짜르다 (切る)	짤리다 (切られる)

【기】が接続するもの

쫓다 (遂う)	쫓기다 (遂われる)
안다 (抱く)	안기다 (抱かれる)
감다 (捲く)	감기다 (捲かれる)

빼앗다 (奪う) 빼앗기다 (奪われる)

【이】が接続するもの

덮다 (覆う)	덮이다 (覆われる)
쌓다 (積む)	쌓히다 (積まれる)
낚다 (釣る)	낚이다 (釣られる)
핥다 (なめる)	핥이다 (なめられる)

(b) 他動詞の語幹に「하—」がついて被動になる場合。

この時の他動詞語幹というのは「하—」がついて他動詞になったものです。

구축하다 (驅逐する)	구축되다 (驅逐される)
주목하다 (注目する)	주목되다 (注目される)
연구하다 (研究する)	연구되다 (研究される)
성공하다 (成功する)	성공되다 (成功される)
발표하다 (発表する)	발표되다 (発表される)

この他に「～받다」「～입다」「～당하다」等の形で被動になる場合があります。

해하다 (害する)	해 받다 (害される)
해 입다 (害される)	
해 당하다()	

今まで出て来た疑問文, 命令文, 励誘形, 否定形, 使役形, 被動形は, それぞれ階級があると共に時称があることは言うまでもありません。時称はつけませんが, 動詞の時称と殆んど同じ変化をします。

第四十六講

副 詞

朝鮮語の副詞はその数もかなり多く、そしてその形も豊富だといわれています。この副詞の使い方まで身につけますと、朝鮮語の基礎的なものはマスターしたといってよいのです。では、副詞の学習を始めましょう。まず朝鮮語の副詞の種類から述べますと、次の四種類にわけられます。

(a) 場所を表わす副詞 (어디서? 어디로?)

1. 조선의 산천은 곳곳이 아름답다。
(朝鮮の山川は到るところ美しい。)
2. 명절에는 집집이 기쁘게 지냅니다。
(各節には家家(どの家も)が楽しくすぎします。)
3. 아름다운 꽃이 여기 저기 피었다.
(美しい花があちらこちらに咲いた。)

(b) 時間を表わす副詞 (언제?)

1. 운동회는 일찍 끝났다.
(運動会は早く終った。)
2. 그 일은 차차 잘 되여 간다.
(その仕事はだんだんよくなつて行く。)
3. 우리는 항상 평화를 사랑해야 합니다.
(われわれは常に平和を愛さなければなりません。)

(c) 様態を表わす副詞 (어떻게?)

1. 그 비루딩그는 튼튼히 건설되었다.
(そのビルディングは丈夫に建設された。)
2. 그 일은 잘 되었습니다.
(その仕事はよく出来ました。)

3. 오늘날의 조선은 정말 행복하다。

(今日の朝鮮はほんとうに幸福だ。)

(d) 程度を表わす副詞 (얼마나?)

1. 하도 기뻐서 말씀 드리려 했습니다.
(あまりにも嬉しいので、話に来ました。)
2. 조선에서 가장 높은 산은 백두산이다.
(朝鮮で最も高い山は白頭山だ。)
3. 그 일은 매우 재미 난다.
(その仕事は非常に面白味がある。)

(e) 接続の副詞

1. 붓 또는 연필이 있어야 한다.
(筆または鉛筆がなければならぬ。)
2. 너 혹은 너 동생 중에서 한 사람 오너라.
(君あるいは君の弟の中で一人来なさい。)
3. 연필, 종이, 고무, 그리고 펜이 있다.
(鉛筆、紙、ゴムそしてペンがある。)

これらの副詞がどのようにして造られるか、代表的なものについていくつか研究して見ましょう。

1. 形容詞の語幹に「히」をつけるもの

용감히	(勇敢に)	조용히	(静かに)
충실히	(忠実に)	명백히	(明白に)
똑똑히	(はっきりと)	심히	(甚だ)
분명히	(分明に)	착히	(よく)
고요히	(静かに)	공손히	(謙きょに)

2. 形容詞の語幹に「이」をつけるもの

굳이	(固く)	가까이	(近く)
많이	(多く)	깊이	(浅く)

늦이 (おそく)	멀리 (遠く)
같이 (一しょに)	새로이 (新らしく)
3. 名詞語幹に「로」(으로)をつけるもの	
진정으로(眞情に)	별로 (別に)
정말로 (ほんとうに)	세로 (あらたに)
실로 (実に)	홀로 (孤独に)
4. 名詞語幹に「에」をつけるもの	
나중에 (終りに)	애초에 (最初に)
이쁘게 (愛らしく)	아름답게(美しく)
회개 (白く)	무겁게 (重く)

このように副詞にはいろいろな形をしたものがあり、ここにあげたような規則的な形をしたもの以外に、全く不規則な形をするものが沢山あります。次に副詞の中で最も多く使われるもの的一部をあげます。

각각……それぞれ、各自、各各	별써……もう、すぐに、も
같이……同じく、共に	하나……はや、すでに
고이……注意して、麗わしく、	가장……最も、いちばん
誠をこめて	겨우……やっと
그다지…そのように、こっそり	너무……余り、余りに
꼭……きっと(必らず)	곧……すぐ、直ちに
다만……ただ	따라서…従って
그대로…そのまま	대체……いったい
아울러…共に、一緒に、合わせて	만일……もしも、万一
매우……とても、非常に	몸소……自ら、親しく
몹시……とても、甚だ	언주시…秘密に、こっそり
모처럼…せっかく、わざわざ	무릇……およそ
마리……あらかじめ	빨리……早く、速やかに

소위……いわゆる	설마……まさか
스스로…おのづから	아마……多分、大方
아까……さきほど、先刻	어서……さあ、どうぞ
야 말로…こそは	얼마나…幾ら、どれほど
이따금…往々、しばしば	으레……当然、必らず
지금……今、ただ今	잘……よく
점점……漸く、だんだん	조금……少し
정말…本当に、真実に	참……誠に、全く
하여간…何はともあれ、	결코……決して
하여튼…それはともかく	다소간…ほんの
아직……まだ、未だに	더욱……もっと、更に
그대로…そのまま	몰래……こっそりと
마치, 마침……さながら、丁度, 마음대로……意のまま,	まるで……意のまま、
	自由自在に
모를지기……まさしく、必ず	

第四十七講

冠 形 詞

- 여러 동무들이 나를 찾아 왔다。
(多勢の友だちが私を訪ねてきた。)
- 새 나라의 주인공이 되자。
(新しい国の主人公になろう。)
- 모든 힘을 다하여 학습에 열중한다。
(あらゆる(すべての)力を尽して学習に熱中している。)
- 간부 동무 외에 일반 학생들은 그만 돌아가십시오。

(幹部の人(友)以外の一般の学生たちはもう帰って下さい。)

上の文章でアンダーラインのある「여러」「새」「모든」「일반」等の単語はその次にきている名詞の <나라>, <힘>, <일>, <학생들>に対する規定語になっています。しかし、形容詞でも、動詞でも、代名詞、名詞、数詞でもありません。このような単語を冠形詞といいます。これは他国語にはあまり見られない品詞であります。そして、その数もそんなに多くはありません。以前はもっと沢山あったのですが、数詞、代名詞、形容詞の範疇に入るものは、それぞれ該当の品詞に整理して冠形詞の数を減らし、曖昧なわけ方をなくしてしまったのです。

第四十八講

語音交替(変格用言)

今まで習った動詞や形容詞の場合は、変化するときに、その「原形」はくずさずに行われたのですが、今度は変化するときに原の形をくずして変化するものについて学習しましょう。これを以前は変格用言と呼んだのですが、要するに英語の不規則動詞に近いものと思えばよいのです。この形には七種類あります。

1. 「ㄹ」がなくなる場合

갈다, 갈고, 갈며, 가니, 잡니다, 가시니, 가오,
(耕す) (耕して) (耕し) (耕せば) (耕します) (耕すから) (耕す)
돌다, 돌고, 돌며, 도니, 둡니다, 도시니, 도오
(廻る)
불다, 불고, 불며, 부니, 불니다, 부시니, 부오
(吹く)

2. 「ㅅ」がなくなる場合

낫다, 낫고, 낫지, 나아, 나으니
(治る)
짓다, 짓고, 짓지, 지어, 지으니
(建てる)
잇다, 잇고, 잇지, 이어, 이으니
(続く)

3. 「古」がなくなる場合

거멓다, 거멓고, 거멓지, 거머오, 거머니, 거머랴,
거머면, 거밉니다, 거머지다.
하얗다, 하얗고, 하얗지, 하야오, 하야니, 하야랴,
(白い)
하야면, 하깝니다, 하야지다.

4. 「ㄷ」が「ㅌ」になる場合

걷다, 걷고, 걷지, 걸어, 걸으니,
(歩く)
듣다, 듣고, 듣지, 들어, 들으니,
(聞く)
묻다, 물고, 물지, 물어, 물으니
(問う)

5. 「ㅂ」が 오, 우になる場合

돕다, 돋고, 돋지, 도와, 도우니
(助ける)
맵다, 맵고, 맵지, 매워, 매우니
(辛い)
춥다, 춥고, 춥지, 추워, 추우니
(寒い)

6. 「ㄹ」がつく場合

누르다, 누르고, 누르지, 누르려, 누르렀다
(黄色い)
푸르다, 푸르고, 푸르지, 푸르려, 푸르렀다
(青い)

이르다, 이르고, 이르지, 이르려, 이르렀다
(至る)

7. 「르」を 己, 己 にする場合

가르다, 가르고, 가르지, 갈라, 잘랐다, 잘리다
(分ける)

기르다, 기르고, 기르지, 길려, 길렸다, 길리다
(育てる)

흐르다, 흐르고, 흐르지, 흘려, 흘렸다, 흘리다
(流れる)

練 習

次の動詞と形容詞を変化の規律に従って変化させて見ましょう。

- | | |
|-----------------|--------------|
| 1. 뽑다 (美しい) | 8. 알다 (知る) |
| 2. 우udu다 (おかしい) | 9. 울다 (泣く) |
| 3. 눕다 (臥す) | 10. 싣다 (載せる) |
| 4. 오르다 (登る) | 11. 쫓다 (拾う) |
| 5. 다르다 (違う) | 12. 쪘다 (注ぐ) |
| 6. 부르다 (呼ぶ) | 13. 달다 (走る) |
| 7. 놀다 (遊ぶ) | |

(解答巻末附錄参照)

第四部

文 章 篇

1. 날씨가 맑게 개인 아침, 줄을 지은 양 떼들이 온 몸에 따스한 해'살을 받으며 방목지로 나갑니다.

[註] 날씨…天氣、天候。맑게…清く。개인…晴れた～。줄…綱、紐、列とかの意味がある、ここでは列の意。줄을 지은…列をつくった～。떼…群(むれ)。온…すべて、全体。온몸…全身。따스한…あたたかい～。해'살을…太陽の光を、陽光を、日射しを。방목지…放牧地(場)。～로…～へ、～に(方向)。

[訳] 天気がよく(清く)晴れた朝、列をなして羊の群が全身にあたたかい太陽の光をうけながら、放牧地へ出てゆきます。

2. 이런 이유로써 학교에서 배운 지식은 반드시 실습을 통하여 공고화되어야 한다.

[註] 이런…このような。리유로써…理由から(で)。배운…習った。～지식은…知識は。반드시…必ず。실습을…実習を。통하여…通じて。공고화…強固化、しっかりとさせる。～되어야 한다…～されなければならない。

[訳] このような理由から学校で習った(おそわった)知識は、必ず実習を通じて強固化されなければならない。

3. 위대한 조국 해방 전쟁에서의 빛나는 승리는 자기 조국의 자유와 독립을 위하여 싸운 조선 인민의 것이었다.

[註] 위대한…偉大な。조국 해방 전쟁…祖國解放戦争。～에서의…～における、～においての。빛나는…輝け

る～、…輝かしい～。승리는…勝利は。 자기…自分、自己。자유와 독립…自由と独立。위하여…ために。싸운…たたかった～。～ 것이다…～ものである。～것이었다…～ものであった(過去)。

[訳] 偉大な祖国解放戦争での(における)輝かしい勝利は、自分の祖国の、自由と独立のためにたたかった朝鮮人民のものであった。

4. 상만은 아름다운 봄의 꿈 속에 잠기였다. 그는 봄이 오면 봄마다 녀학생들과 무리를 지어 산놀이를 가군 했다. 산과 들에서 꽃을 뜯는 녀학생들의 얼굴에는 홀의 웃음꽃이 더욱 밝게 피었다.

[註] 상만은…サングマンは。아름다운…美しい～。꿈 속에…夢に、夢の中に。잠기였다…ひたった、耽けった。봄이 오면…春がくれば。마다…～毎に、～のつど。녀학생들과…女学生たちと。무리를 지어…群をなして。산놀이…山遊び、山のぼり。가군 했다…行ったりした。들에서…野原で。들다…摘む。뜯는…摘んでいる～。얼굴에는…顔には。홀의…生の～、生きる～。웃음꽃이…笑いの花が、笑いが。더욱…もっと、より。밝게 피었다…赤く咲いた。

[訳] サングマンは美しい春の夢にひたった。彼は春になれば、(春毎に)いつも女学生たちと群をなして山遊びに行ったりした。山と野原で花を摘む女学生たちの顔

には、生の(よろこびの)花がより赤く咲いた。

5. 조선 労동당과 공국화 정부 주위에 철석 같이 단결된 근로자들은 천리마를 탄 기세로 사회주의의 높은 봉우리를 향하여 앞으로 내닫는다.

[註] 労동당과…労働党と。공화국 정부…共和国政府。주위에…周囲に、まわりに。철석 같이…鉄石のように、という意味で堅く、強くという意。단결된…団結された…。근로자들은…勤労者たちは。들は複数をあらわす語。천리마…千里馬、千里の駒。탄…타다(乗る)の現在形で、乗ったの意。기세로…勢いで。봉우리…峯。향하여…向って。앞으로…前に。내닫는다…走る、前進する。内닫는다。…現在形で、走っている。前進している。

[訳] 朝鮮労働党と、共和国政府のまわりに堅く(鉄石のように)団結された勤労者たちは、千里の駒に乗った勢いで、社会主义の高い峯(高峯)に向って(前に)前進している。

6. 부두에는 출발을 알리는 고동 소리가 울렸다. 귀국선은 그 목적한 품집을 움직이며 떠나기 시작한다. 과거의 모든 학대와 천대, 잣은 설움에서 영원히 해방되어 어머니의 조국 품안에 안길 귀국 통포들의 행복을 가득 실고——부두에서도 배 우에서도 가지 각색의 헤프를 걸어 쥐고 만세 소리 환호 소

보내는 사람, 떠나는 사람 모두가 희망과 행복
에 찬 낯으로 그칠 줄 모르고 손을 흔든다.

[註] 부두에는…埠頭には。알리는…知らせる。고동…サイレン、汽笛等。소리가…音が、声がの意。울렸다…なりひびいた、なりわたった(過去形)。귀국선은…帰国船は。목직한…重々しい、重たい。몸집…体軀。～을 ~이며…~を~しながら。떠나다…出發する、発つ。
시작한다…始める。모든…あらゆる、すべての。학대와 천대…虐待と賤待。갖은…あらゆる、すべての。
설음…悲しみ。영원히…永遠に。품안에 안길…ふところに抱かれるであろう~。안길のことは未来の推測をあらわす。동포…同胞。가득 실고…いっぱい積んで。~에서도~에서도…~でも~でも。가지 각색…いろいろとどり。걸어 취고…握りしめて。환호 소리…歓呼の声。보내는 사람…送る人。희망과 행복…希望と幸福。찬…차だの現在形。그칠 줄 모르고…終ることを知らずに。을…不完全名詞で~すること。손을 흔든다…手を振る。

[訳] 埠頭には出發を知らせる汽笛の音がなりわたった。帰国船はその重たそうな巨体を動かしながらはなれ始めた。過去のあらゆる虐待と賤め、すべての悲しみから永遠に解放されて、母なる祖国のふところにいだかれるであろう帰国同胞たちの幸福をいっぱいのせて――

埠頭でも船の上でもいろいろとどりのテープを握りしめて、万才の声、歓呼の声、送る人、送られる人(別れる人)みな希望と幸福にみちた顔で、つきることなく手を振っている。

김 일성 장군의 노래

7. 장백산 출기출기 피어린 자욱
압록강 굽이굽이 피어린 자욱
오늘도 자유 조선 꽃다발 우에
력력히 비춰 주는 거룩한 자욱
아아 그 이름도 그리운 우리의 장군
아아 그 이름도 빛나는 우리의 장군

만주별 눈바람아 이야기 하라
필립의 긴긴 밤아 이야기 하라
만교의 빨찌산이 누구인가를
절세의 애국자가 누구인가를
아아 그 이름도 그리운 우리의 장군
아아 그 이름도 빛나는 우리의 장군

[註] 김 일성 장군의 노래…金日成將軍の歌 長白山…
長白山。출기출기, 출기…は莖という意で山に使われ

る場合は峰とか山脈の意。피어린 자욱…血がにじん
でいる足跡、血染められた足跡。굽이…曲り。꽃다발
…花束。력력히…歴々と、はっきりと。비춰 주는…
照らしてくれる~。거룩한…偉大な、神聖で立派な。
그리운…なつかしい、慕しい。만주벌…満洲の野原、
畢は野原、平原の意。눈바람아…吹雪よ、あは呼びか
けの言葉。～하라…～しろという命令形。밀림…密林。
진진 밤아…長い長い夜よ。만고…～万古、ずっと昔、
長い年月。절세…絶世、またとない。

[訳]

金日成将軍の歌

長白山の峰々（山脈）を血染めし跡
鴨緑江の流れ（うねり）を血染めし跡
今日も 自由な朝鮮の花束の上に
歴然と照らす偉大な跡
ああ その名も慕わしい われらの将軍
ああ その名も輝やかしい われらの将軍
満洲原の吹雪よ語れ
密林の深き（長い長い）夜よ語れ
万古のバルチザンが誰であるかを
絶世の愛国者が誰であるかを
ああ その名も慕わしい われらの将軍
ああ その名も輝やかしい われらの将軍

애국심

8. 애국심은 자기 조국의 과거를 잘 알며 자기 민족
이 가지고 있는 우수한 전통과 풍습을 잘 아는 데
서만이 생기는 것입니다. 애국심은 그 어떠한 추상
적인 개념에 그치는 것이 아닙니다. 애국심은 자기
조국의 강토와 역사와 문화를 사랑함과 아울러 자
기 고향에 대한 애착심, 고향 사람들에 대한 생각과
감정, 부모 안해 자식들에 대한 애정에도 표현되는
것입니다. 애국심은 인간의 감정에서 구체적으로 살
고 있으며 구체적으로 그 표현을 보게 되는 것입니다. (김 일성)

[註] 애국심…愛國心。잘 알며…よく知り。가지고 있
는…もっている。우수한…優秀な。전통과 풍습…
伝統と風習を。에서만이…～することによつてのみ。
생기는 것입니다…～生まれる（つくられる）もので
あります。어떠한…いかなる、どんな。추상적인…抽
象的な。개념…概念。강토와 역사와 문화…疆土
(山河)と歴史と文化。사랑함과 아울러…愛すると同
時に、愛するとともに。애착심…愛着心。 생각과
감정…考えと感情。부모 안해 자식…父、母、妻、
子供（息子）。애정에도…愛情にも。구체적으로 살
고 있으며…具体的に生きており。표현…表現

〔訳〕 愛国心は、自分の祖国の過去をよく知り、自分の民族がもっている優秀な（すぐれた）伝統と風習をよく知ることによってのみ、生まれるものであります。愛国心は自分の祖国の疆土と歴史と文化を愛すると同時に、自分の故郷に対する愛着心、故郷の人びとにに対する感情、父母、妻、子供たちに対する愛情にも表現されるものであります。愛国心は、人間の感情で具体的に生きており、具体的にその表現を見るものであります。

9. 그 날 꽈 바위는 다른 위원들과 같이 토지 사정 위원 중에도 한 몇 끼게 되여서 이 마을의 토지를 사정하게 되었을 때 주인 집 고 병상의 토지를 한 자리 분여 받았다. 하긴 그 땅을 요구한 것은 아닌데 여러 위원들이 그래야만 된다 해서 속으로는 멀찌름하였으나 그냥 결정을 지었었다. 땅 한 평 없으면 사람들이 이와 같이 거저 땅이 생기고 그것이 또한 영원한 자기의 소유로 되었으니 이야말로 꿈인지 생시인지 모르겠다(땅)

〔註〕 다른 위원…他の委員。토지 사정 위원…土地査定 委員。～중에도…～のなかにも。한 몇…一株(かぶ) 끼게 되여서…仲間にりするようになり。주인…主人。한 자리…一箇所、ひとところ。분여…分与、하긴 하기는の略で適当に言うならば。아닌데…でないが。그래야만 된다 해서…そうしなければならないという

であったが。 그냥…そのまま。결정을 지었었다…決定をした。이와 같이…このように。거저…ただで、無料で。영원한 자기의 소유로 되었으니…永遠なる自己の所有になったのだから。이야말로…これこそは。꿈인지 생시인지 모르겠다…夢であるのかうつつかであるのか知らない。

〔訳〕 その日クワクバイは他の委員たちと同じように、土地査定委員のなかにも加わるようになり、この村の土地を査定するようになった時、主人（地主の家）の高秉尚の土地を一個所分与された。まあいえばその土地を要求したのではないが、多くの委員たちがそうしなければならないといわれて、心のなかでは渋々であったが、そのまま決定した。土地一坪もなかった人びとが、このようにただで土地が与えられ、それがまた、永遠に自分の所有になったのだから、これこそ、夢なのか現実なのか知らない。

10. 새 것을 창조하기 위한 투쟁에서 혼자서 애를 써서 안 되는 일을 여러 사람이 힘을 합쳐서 하는 것이 좋습니다. 여러 사람이 자기들의 지혜와 힘을 합쳐서 혁신을 일으키면 거기에 참가한 사람은 대혁신자입니다. 여러 사람이 힘과 지혜를 합쳐서 집단적으로 하면 일이 더 흥겹고 더 큰 성과를 거둘 수 있습니다. 그렇기 때문에 당은 집단적 혁신 운동

을 광범히 전개할 것을 요구합니다 (소극성과 보수주의를 반대하여)

[註] 새 것을…新しいものを。창조하기 위한 투쟁…創造するための闘争。혼자서…一人で。애를 써서…骨をおって、力をつくして。힘을 합쳐서…力を合せて。～것이 좋습니다…～することがよいです。지혜와 힘…知恵と力。혁신을 일으키면…革新をおこせば。거기에…そこに。다…みな。집단적으로…集団的に。더 흥겹고…もっと楽しく。큰 성과를 거둘 수 있습니다…大きな成果を取ることができます。今は 方法、手段、ことなどの意。당…党。광범히…広範に。전개할 것을…展開することを。요구합니다…要求します。소극성과 보수주의…消極性と保守主義。반대하여…反対して。

[訳] 新しいもの（こと）を創造するための闘争で、一人で骨折ってできないことは、多くの人が力を合せてやることがよいのです。多くの人が自分たちの知恵と力を合せてやるのがよいのです。多くの人が自分たちの知恵と力を合せて革新をおこせば、そこに参加した人はみな革新者であります。多くの人が力と知恵を合せて集団的にやれば、仕事がもっと楽しく、もっと大きな成果を取ることができます。そのために、党は集団的な革新運動を広範に展開することを要求します。

(消極性と保守主義に反対して)

11. 우리는 오늘 우리 나라에서 무식한 사람이 하나도 없고 누구나 다 적어도 중등 이상의 지식을 소유한 유식한 사람으로 되게 하자는 것입니다. 이렇게 해야만 근로자들의 기술 수준을 높일 수 있고 그들을 더욱 빨리, 더욱 철저하게 공산주의 사상으로 무장시킬 수 있습니다.

그러므로 우선 선전원들과 선동원들은 농촌에서나, 도시에서나, 협동 조합에서나, 공장에서나, 어디서나 할 것 없이 문화 혁명에 적극 참가해야 하겠습니다. (공산주의 교양에 대하여)

[註] 무식한 사람…無知な人。무식とは無識、知識のないこと。하나도 없고…一人もなく。적어도…少くとも。유식한 사람으로…知識のある人に。유식…とは有識で知識のあること。되게 하자는 것입니다…なるようになりますということです。되게 하자…なるようになります。 이렇게 해야만…こんなにしてのみ。기술 수준…技術水準。더욱 빨리…もっと早く。철저하게…徹底的に。사상으로…思想で。무장시킬 수 있다…武装させることができる。그러므로…であるから、そうであるから。우선…先ず、第一に。선전원…宣传員。선동원…せん動員。농촌에서나 도시에서나…農村でも都市でも。어디서나…どこでも。어디서나

할 것 없이…いざれを問わず、どこであろうが。

문화 혁명…文化革命。적극 참가…積極参加。

[訳] われわれは、こんにち、わが国で無知な人が一人もなく、誰でもみな少くとも中等以上の知識を所有した(知識のある)人になるようしようというのであります。このようにしてのみ、労働者たちの技術水準を高めることができ、かれらをもっと(より)早く、(より)徹底的に共産主義思想で武装させることができます。

だから先ず宣伝員たちとせん動員たちは、農村でも、都市でも、協同組合でも、工場でも、どこであろうが文化革命に積極的に参加しなければなりません。

12. 근 반세기에 걸친 일본 제국주의의 참담한 식민지 통치를 뼈저리게 직접 체험한 조선 인민은 조국이 없는 민족의 처지란 어떠한 것이며 식민지 노예의 운명이란 어떠한 것인가를 잘 알고 있습니다. (김 일일)

[註] 근…近く、およそ。근 반세기…半世紀近く。걸친…わたる。제국주의…帝国主義。참담한 식민지…慘たんな植民地。통치…統治。뼈저리게…骨に沁みて。처지란…境遇とは、立場とは。어떠한 것이며…どんなものであり。노예의 운명이란…奴隸の運命とは。잘 알고 있다…よく知っている。인민에게 있어서…人民にとって、人民に。가장 고귀한 것입니다…もつ

とも高貴なものであります。

[訳] 約半世紀にわたる、日本帝国主義の慘めな植民地統治を骨に沁みて直接体験した朝鮮人民は、祖国のない民族の境遇とはどんなものであり、植民地奴隸の運命とはどんなものであるかをよく知っています。祖国一それは、われわれ人民にとって(おいて)もっとも高貴な(貴い)ものであります。(キムイルソン)

13. 우리 작가 예술가들은 애국심과 아울러 우리 민족에 대한 높은 자부심을 작품에 표현하여야 하겠습니다. 자기 조국과 인민에 대한 높은 궁지는 썩어빠진 배타주의적인 모든 낡은 잔재와 인습을 축청하는 데서만이 그 참된 본질을 가지게 되는 것입니다, 때문에 여기에 있어 무근거한 민족주의적 우월감이라든가 타민족에 대한 경멸감은 도저히 용납될 수 없는 것이며 고상한 국제주의적 정신으로 일관되어야 할 것은 두말할 여지도 없습니다。(김 일성)

[註] 작가 예술가…作家藝術家。애국심과 아울러…愛國心とともに。높은 자부심…高い自負心。작품…作品。표현하여야 하겠습니다…表現しなければなりません。궁지…袴持、誇り。썩어빠진 배타주의적인…腐りきった排他主義的な。낡은 잔재와 인습…古い残滓(のこりかす)と因習。축청하는 데서만이…肅清することによってのみ、참된 본질…眞の本質。때문에

…したがって、であるから。 무근거…無根拠、根拠のない。 우월감이라든가…優越性だとか。 타민족…他民族。 경멸감…軽べつ感。 도저히…到底。 고상한…高尚な。 정신으로…精神で。 일관되여야…一貫されなければ。 두말할 여지도 錯습니다…言う余地がありません、 言う必要がありません。 두말…ふた言、二度言う。

[訳] わが作家芸術家たちは、愛国心とともにわが民族に対する高い自負心（ほこり）を作品に表現しなければなりません。自分の祖国と人民に対する高い矜持は、腐りきった排他主義的な、あらゆる古い残滓（のこりかす）と因習を肅清（なくす）することによってのみ、その眞の本質をもつようになるものであります。したがって、ここで無根拠な民族主義的な優越感だとか、他民族に対する軽蔑感は、とうてい許されることであります。高尚な國際主義的な精神で、一貫されなければならぬということは、言うまでもありません。（二度言う余地がありません）。

14. 삼 년 전 내가 집 떠나던 해 겨울에 나는 어떤
깊숙한 산 큰 절에 있었다. 흥 고의 적삼을 입고 이 절 큰 방 구석에서 우두커니 종그리고 지별 때에 고향 계신 늙은 어머니가 보내 주신 것이 지금 이 글 제목으로 불린 <담'요>였다. 그 담'요가 오늘날까지 나를 싸 주고 덮어 주고 밟

쳐 주고 하여 한 시도 내 몸을 떠나지 않고 있으니 그것이 즉 이 글에 나타내는 감정이다 (최 서해 담'요)

[註] 삼 년 전…三年前。 내가…私が、僕が。 떠나던 脱出かけた年、 해は年。 어떤…ある(或)。 깊숙한…うんと深い。 흥 고의 적삼…一重の男子の着るチョゴリ。 고의も적삼もともに男子の夏着(一重)のチョゴリ。 구석에서…隅っこで。 우두커니…ほんやりと。 종그리고…両足をたてて坐っているさま。 지별 때에…時をすごしている時に。 보내 주신 것이…送って下さったのが。 제목으로 불인…題目につけた。 담'요…毛布。 오늘날까지…今日の日まで、今まで。 싸 주고…包んでくれ。 덮어 주고…かけてくれ。 밭쳐 주고…支えてくれ、敷布になってくれること。 떠나지 않고 있다…はなれないでいる。 때때로…時々。 만질 때마다…いじる度(時)毎に。 느끼는 것이 있으니…感ずることがあるので。 즉…即ち。 나타내는 감정…あらわす感情。

[訳] 三年前、僕が家を出かけた年の冬に、僕はあるうんと深い山の大きなお寺にいた。夏着(一重)のチョゴリをきて、この大きな部屋の隅っこで、ほんやり坐って過すときに、故郷にいられる老いた母が送ってくれたのが、いま、この文の題目につけた<毛布>であつ

た。その毛布が今まで僕を包んでくれ、かぶさってくれ、支えてくれたりして、一時も（一瞬）僕の体をはなないでいる。僕は時々この毛布をいじる度（毎）に感ずることがあるので、それがすなわちこの文に表わす感情である。（崔曙海、毛布）

15. 민요는 먼 옛날부터 인민의 토동 행정에서 발생한 순진하고 소박한 감정을 표현하는 노래다. 사냥을 하거나 목축 혹은 농업을 하거나 그 밖에 여러 가지 토동에 종사할 때 인민은 그 시대의 여러 가지 작업을 노래한 토동가를 집단적으로 창작하였다. 목청 좋은 이가 노래를 하고 재주 있는 이가 말을 다듬고 이렇게 구비로 전승하는 동안에 노래는 더욱 세련되어 인민들 사이에 전파되어 갔다. 거기에는 그들의 풍속, 습관과 생활 상태가 반영되며 그들의 즐기는 음조와 형식미가 갖추어져 있다. (민요에 대하여)

[註] 민요는…民謡は。옛날부터…昔から。행정에서…(行程)過程で。발생한…發生した。순진하고 소박한…純真で素朴な。사냥을 하거나…狩りようをしようが。혹은…或は。그 밖에…その他に。여러 가지…いろいろな。종사할 때…従事する時。작업을…作業を。토동가를…労働歌を。집단적으로…集団的に。창작하였다…創作した。목청…声帶、声。노래를 하고…歌

をうたい。재주…才能。다듬고…整えて、よくして。구비로…口卑で。전승하는 동안에…伝承するあいだに。더욱…もっと、より。세련되어…洗練され。사이…間。전파…伝播、伝えひろまる、普及。반영되어…反映され。즐기는…たのしむ。음조…音調。형식미…形式味。갖추어져 있다…備っている。

[訳] 民謡は、遠い昔から人民の労働過程で発生した、純真で素朴な感情を表現する歌である。狩りをしようが牧畜或は農業をしようが、その他いろいろな労働に従事するとき、人民はその時代のいろいろな作業（仕事）をうたった労働歌を集団的に創作した。声のよい人が歌をうたい、才能のある人が言葉を練りこのようにして口卑で伝承されるあいだに、歌はもっと洗練され、人民のあいだに普及されていった。そこにはかれらの風俗、習慣と生活状態が反映され、かれらのたのしむ音調と形式味が備っている。（民謡について）

16. 불러도 대답 없는 모란봉, 내려다 보아도 설어지도록 말이 없는 대동강——그러나 이제는 어둠이 깃들어 어찌 이리도 쓸쓸한가!
- 그러나 점순에게는 차라리 말 없는 산, 태없는 물, 그것이 바로 오늘의 자기 마음인 것 같았다. 점순이는 지난 여름의 즐겼던 그날 일을 이제금 다시 생각하였다. 제비도 쉬여 가는 가없이 푸른 하늘에

솜 같이 소담한 구름이 송이 송이 떠 노면 여름
날, 오만한 미국놈의 비행기가 바로 이 강 위에
서 마지막 연기를 길게 뿜으면서 모란봉 뒤' 발치
에 거꾸로 내려 박혔다. 인민군 고사포에 맞은 것
이었다.

강가에 대피했던 사람들과 그 하가에서 고기를
낚고 있던, 파파 늙은이까지 하늘에 고함치며 바라
볼 때 바로 대동강 상공에서 또 하나 그 무엇이
마치 절하는 것처럼 너울거리며 내려 왔다. (대동
강)

[註] 불러도 대답 없는…呼んでも返事のない。 대답…(対答) 答、返事、返答。 내려다 보아도…見おろしても、
(下を見ても)。 설어지도록…悲しくなる程(まで)。
어둠이 깃들어…闇(暗闇)가しのびより。 어찌 이
리도…どうしてこんなにも。 삐삐한가…さびしいのか。
태없는…おごりたかぶらない。 바로…そのまま。 마음
인 것 같았다…心であるかのようだった。 즐겁던
그날 일을…たのしかったその日のことを。 이제금 다
시…いま再び。 제비도…燕も。 가엾이…限りなく。
솜…綿。 소담한…見よい, 適当な。 송이송이…一つ
하나のかたまり。 떠노면 여름…浮んで遊んでいた夏。
오만한…傲慢な。 미국놈…米国の野郎(奴)。 마지막
…最後。 뿐으면서…ふきながら。 뒤' 달발치 에서裏

の方に。 거꾸로…さかさに。 박혔다…ささった。 고사
포…高射砲。 대피했던…待避していた。 하가…下方。
낚고 있던…釣っていた。 파파 늙은이까지…よば
よばの老人まで。 고함치며…大声をはりあげながら。
상공에서…上空で。 마치…ちょうど あたかも。 절하
는 것처럼…おじぎをするかのように。 너울거리며…
ひらひらしながら。

[訳] 呼んでも返事のないモラポン、見下ろしても悲しくな
る程だまっている大洞江——しかしいまは暗闇がしの
びよりどうしてこんなにも悲しいのか！

しかしジョムスンには、かえってだまりこんでいる
山、おごりたかぶらない氷、それがちょうど今日の自
分の気持のようであった。 ジョムスンは過ぎし夏のた
のしかったその日のことを、いま再び考えた。 燕も休
んで行く限りなく青い空に綿のようにきれいな雲がか
たまりになって浮んでいた夏の日に、傲慢なアメリカ
(奴)の飛行機が、ちょうどこの江の上で最後の煙り
を長くふきながら、モランポンの裏方にさかさにつき
ささった。 人民軍の高射砲に撃たれたのであった。

河辺に待避していた人びとと、その下方で 釣をし
ていたよばよばの老人まで、空に向つて叫びながらみ
ていたとき、ちょうど大同江上空で、また一つ、その
何かがまるでおじぎをするように、ひらひらとおちて

きた（大同江）

17. 장군은 이 날 연설에서 우리 조국을 민주주의 자주 독립 국가로 건설하기 위하여서와 또 이 위대한 사명을 완수하기 위해서는 공고한 민주주의 민족 통일 전선이 필요하다는 것을 강조하였다. <로력을 가진 자는 로력으로, 지식이 있는 자는 지식으로, 돈이 있는 자는 돈으로, 참으로 나라를 사랑하고, 민주를 사랑하는 전 민족이 완전히 통일 단결하여 민주주의 자주 독립 국가를 건설합시다> 장군은 이 같이 간결 명쾌한 자기의 연설을 <조선 독립 만세!>의 구호로써 끝마쳤다.

[註] 장군…將軍。이 날…この日。연설에서…演説で。자주 독립 국가로…自主独立国家に。～위하여서와…～するためと。사명…使命。완수하기 위해서는…完遂するためには。강조…強調。로력…労力。지식으로…知識で。참으로…ほんとうに、眞に。나라를 사랑하고 민주를 사랑하는…国を愛し民主を愛する。전 민족…全民族。단결하여…團結して。건설합시다…建設しましよう（勸誘形）。간결 명쾌한…簡潔明快な。구호로써…スローガンでもって。끝마쳤다…終えた、終った。

[註] 将軍はこの日の演説で、わが祖国を民主主義自主独立国家に建設するためと、また、この偉大な使命を完遂

する（全うする）ためには、強固な民主主義民族統一戰線が必要であることを強調した。<労力のある人は労力で、知識のある人は知識で、金（かね）のある人は金で、ほんとうに国を愛し、民主を愛する全民族が完全に統一團結して、民主主義自主独立国家を建設しましょう> 将軍はこのように、簡潔明快な自分の演説を<朝鮮独立万岁！>のスローガンで（もって）終つた。

18. 이 날 점심 후에 장군은 아동 혁명단 아동들의 사격 훈습을 보았다.

아이들을 두 배로 나누어 한 배는 30 메터, 다른 한 배는 50 메터 거리에서 사격 실습을 하게 하였다. 아이들이 선 맞은 편 산형에는 네 모반듯한 파녁판이 서 있었다.

그 파녁은 동그란 혹점을 한 복판으로 하고 그 밖으로 아홉 개의 동그런 혹선이 차례 차례로 그려진 것이었다. 맨 중앙에 맞으면 열 점, 그 다음 선에 맞으면 아홉 점, 그리고 한 선에 한 점씩 세여 가서 맨 밖의 선에 맞으면 한 점이었다.

가마니를 깔아 놓은 우에 아이들은 순번으로 한 사람씩 엎드렸다. 아이들 앞에는 흙섬이 놓여 있어 그 우에 총을 올려 놓고 겨냥하였다. 그 결에서 교관이 사격 구령을 부르면 아이들은 농축한 솜씨

로 방아쇠를 당기었다. 놀랄만큼 잘 들어 맞았다. 물론 맞지 않는 때도 있었다. 한 방이 끝나는 때마다 개자리에서 뛰여 나온 신호수가 붉은 기 또는 흰 기를 흔들었다. 붉은 기는 맞았다는 것을 의미하였다. (역사)

[註] 점심…お昼、正午、昼飯。아동 혁명단…兒童革命團。사격…射擊。련습…練習、보았다…見た(過去形)。두 배로…二つの組に。대는組分けしたグループのこと。나누어…わけて。다른…もう一方、他方、別の。거리에서…距離で、街で、ここでは距離の意。하게 하였다…するようにした。아이들이 선…子供たちが立っている~。맞은 편…向い側。산협에 …山峽には、山あいには。네 모…四角。번듯한…曲ったりへっこんだろうしてなくまっすぐな。파벽판…的 (まと)。등그란 흑점…丸い黒点。복판…真中。등그런 흑선…丸い (少し大きい) 黒線。차례차례로…順順に、順序よく。그려진…描かれた。맨 중앙에…一番中央に。맞으면…あたれば。한 점씩…一点づつ。내려 가서…さがってゆき。맨 밖의 선에…一番外の線に。가마니…かます。깔아 놓은…敷いておいた。순번으로…順番に。한 사람씩…一人づつ。엎드렸다…伏せた。흙섬이…土をいれたふくろ、土のう(裏)。총을 올려 놓고…銃をあげておいて。겨냥하였다…ねらった。결에서…

傍で、かたわらで。교관이…教官が。子弹을 부르며…口令すれば。능숙한 솜씨로…なれた(上手な)手つきで。솜씨は腕前、手つき、技能等の意。방아쇠…引き金(銃の)。당기었다…引っぱった。놀랄만…おどろく程。물론…勿論、맞지 않는 때도…あたらない時も。한 방…一回(銃を一回うつこと)。매마다…時毎に。개자리…的の近くに穴をほって弾があたったかあたらなかつたかを見るところ。신호수…信号手。붉은 기…赤い旗。흰 칠…白い旗。흔들었다…動かした。

[訳] この日昼食後に、將軍は児童革命団の児童たちとの射撃練習を見た。

子供たちを二つの組にわけて、一つの組は30メートル、他方の組は50メートルの距離で射撃練習をするようにした。子供たちが立っている向い側の山あいには、四角のはっきりした的(標的)が立っていた。

その標的は、丸い黒点を中心にして、その外へ九つのまるい黒線が順順に描かれたものであった。一番中央にあたれば十点、その次の線にあたれば九点、そして一つの線に一点ずつさがって、一番外の線にあたれば一点であった。

かますを敷いておいた上に、子供たちは順番に一人ずつ伏せた。子供たちの前には、土のうがおいてあり、

その上に銃をあげておいてねらった。その傍で教官が射撃の号令をすれば、子供たちは、なれた手つきで（上手な腕前で）引き金をひいた。おどろく程よくあたった。勿論あたらない時もあった。一回が終る毎に、隠れ所からとび出した信号手が、赤い旗、または白い旗を振った。赤い旗は、命中したということを意味するものであった。

19. 짹 바위는 주인집의 그 땅을 일년에도 몇 번씩 갈아 주었다. 그러나 전에는 심드렁하던 그 땅이 마치 온금 보화처럼 들판임은 뭔 일인가? 그는 흙을 한 웅큼 집어서 두 손 안에다 넣고 비벼 보았다. 모래가 섞이지 않은 황토는 마치 떡가루처럼 곱게 망거진다.

사실 이 땅을 올해에 잘 다루면 곡식이 깨 쓸 아지듯 할 것이다. 그 생각을 하니 춤이라도 추고 싶다. 한 동안 그는 밭을 응시하고 있었다. 밭에서 는 금방 모든 곡식이 무력무력 자라나는 것 같았다. 거기에는 강냉이가 우거지고 감자꽃이 만발하고 콩은 꼬투리가 다래다래 영글었다. 수수는 모개미가 쳐쳐 들어졌다. 바람이 불 적마다 곡식들은 와삭와삭 너울거리며 춤을 춘다.

그는 흙 한 숟을 혀'바닥으로 활아 보았다.

(땅)

[註] 짹 바위…郭は性でバウは名前。주인집…主人の家。
몇 번씩…幾回も、何回も。갈아 주었다…耕してやった。심드렁하던…心に大して感じなかった。そんなに关心をもたなかった。온금 보화…銀金宝物。들판…よく見えるのは。한 웅큼…ひとすくい。비벼 보았다…こすって見た。섞이지 않은…混っていない。황토…黃土。떡가루처럼…もち粉のように。곱게 망거진다…よくこすられる。올해에…今年に。잘 다루면…よく耕せば。깨 쓸아지듯…ごまがこぼれるように。춤이라도 추고 싶다…踊りでもおどりたい。한 동안…しばらくの間。응시…凝視、じっと見ること。금방…すぐ、いますぐ。무력무력…すぐすぐ。강냉이가 우거지고…とうもろこしがおいしげり。감자꽃이 만발하고…馬鈴薯の花が満開して。콩…大豆。꼬투리…さや。다래다래…さやがいっぱいつけているようす。모개미…首(こうべ)。挫折…思いつきり。늘어졌다…のびている。불 적마다…吹く度に。와삭와삭…さわさわ。네울거리다…ひらひらする、うかうかする。혀' 바닥으로…舌で(舌の底で) 활아 보았다…なめてみた。

[訳] 郭バウは主人の家のその土地を一年の間でも何回も耕してやった。しかし、前には無関心であったその土地が、まるで銀金の宝物よりもよくみえるのは、どうし

たことだろうか？ 彼は土をひとすくいすくって、両手の中にいれてもんでも見た。砂がまじっていない黄土はまるでもちの粉のようによくもまれた。事実、この土地を今年よく耕せば、穀物がごまのこぼれるようであろう。そう考えると踊りでもおどりたくなった。しばらく彼は島をじっとみつめていた（凝視していた）。島にはいまにも穀物がすぐすくと育つようであった。そこにはとうもろこしがおいしげり、馬鈴薯の花が満開で、大豆はさやがいっぱいていた。きびは首をたれていた。風が吹く度毎に、穀物はざわざわと音をたてながら踊っている。彼は土ひとすくいを舌でなめずってみた。

20. 그들의 생활이 연부년 곤난해지는 까닭을 여기서도 찾을 수 있지 않은가?

그들은 한 섬의 소작료를 왜 백 근씩이나 정했는지 모른다. 논 한 마지기에 이백 평을 잡아서 한 평에 한 근씩 하자는 것인가?

옛날의 한 섬은 일백 륙십 근 밖에 안 되던 것을 지금은 어디서나 이백 근씩 받는 것이 아주 불문률이 된 것 같다.

그들은 이런 생활을 할수록 옛날 세상이 인심은 후한 것 같다. 세상은 점점 개명해 가도 인심은 점점 강박해 가니 이것이 도무지 무슨 까닭인가.

회준이는 김 선달 집에서 막걸리 한 잔을 권에 못 이겨서 간신히 마시고 그 길로 인동의 집 마당질 허로 내려 가 보았다. (리 기영, 풍년)

[註] 연부년…年毎に(年復年)。곤난해지는…困難になつてゆく。까닭을…わけを、理由を。찾을 수…探すことが。한 섬의…一石(ごく)の。소작료…小作料。근…斤(100匁)。마지기…斗落ともいって一斗の種子を蒔くだけの土地(約200坪)。옛날…昔。어디서나…どこでも。아주…とても、全く、全然。불문률…不文律。할수록…する程。인심…人心、心情。후하다…厚い、よい。세상…世の中。점점…だんだん。개명해 가도…開化していっても。강박해 가니…薄情になってゆくから、がめっつくなるから。도무지…이쁘たい、どたい。막걸리…どぶろく。권에 못 이겨서…すすめられて(すすめに負けて)。간신히…やっと、ようやく。마당질…脱穀すること。허로…場所に。내려 가 보았다…おりていってみた。

[註] 彼等の生活が、年毎に苦しくなつてゆく道理(理由)を、ここでも探すことができるではなかろうか？

彼等は一石の小作料を、どうして百斤にも決めたのかを知らない。たんぼ一マジキを二百坪として一坪に一斤もしようとするのか？

昔の一石は百六十斤しかならなかったものを、いま

はどこでも、二百斤ずつ貰うことが全く不文律になつたようだ。

彼らはこのように、考えれば考える程、昔の世の中は人情（人心）が厚いようであった。世の中はだんだん開化していっても（文明が開けていっても）、人心はだんだんひどくなつてゆくが、これがいったいどういうわけだろうか。

ヒュンはキムソンタルの家でどぶろく一ぱいをすすめられて、やっと飲みほし、そのままインドンの家の脱穀するところへおりていった。

21. 일찍 장군은 잔도 월도구 중국 소학교를 졸업하고 고향으로 돌아 갈 것을 아버지에게 말하였다. 그런즉 아버지도 첫 마디에 그것을 허락하였다.

아버지는 아들을 극진히 사랑했으나 사랑하기 때문에 고향으로 돌아 보냈던 것이다. 고향에 돌아 가서 조선 아이들과 같이 공부하고 조선 사람과 함께 살라는 뜻이었다.

일찍 어린 아들을 위하여 손수 자장가까지 지어 집과 고향과 조국에 대한 사랑을 복돌아 준 아버지는 이제는 쓰나 다나 조국의 실생활을 아들에게 맛보이며 한 것이다.

그래서 장군은 고향에 돌아 와서 외가'집 마을인 평양 교외 칠골 창덕 학교에 입학하였다. 그런

데 그 이듬해 봄에 아버지가 중병으로 사경에 이르렀다는 기별을 받고 장군은 다시 만주로 건너 갔다. 아버지는 그 안 해 겨울에 왜놈에게 블틀렸다가 용케 도망을 쳤으나 그 동에 산중에서 중병을 얻었던 것이다. (역사)

[註] 일찍…일찌기の略、すでに、早く、かつて。고향으로…故郷に。그런즉…そうしたら。첫 마디에…最初の言葉で、一言で。극진히…非常に、とても。사랑했으나…かわいがつたけれども、愛したけれども。들려 보냈던 것이다…かえしたのであった。함께…いっしょに。살라는 뜻이었다…暮すようにという意味であった。손수…自ら、自分自身。자장가까지…子守唄まで。복돌아 준…高めてくれた。쓰나 다나…にがからうが甘からうが、よかれ あしかれ。맛보이며 한 것이다…味わせようとしたのである。외가'집…母方。이듬해…翌年。중병으로…重病で。사경에 이르렀다는…死境に到つたという。死にそうになったという。기별…便り。그 안 해…その前の年。용케…うまく。그 통에…その時に。

[訳] ある時、将軍は間島の八道溝の中国の小学校を卒業して、故郷に帰ることを父に話した。そうしたら父も一言でそれを許した。

父は息子をとてもかわいがつたけれども、かわいが

ればこそ故郷に帰したのであった。故郷に帰って朝鮮の子供たちといっしょに勉強し、朝鮮の人びとと共に暮すようにするためであった。

すでに幼い息子のために、自ら子守唄までつくり、家と故郷と祖国に対する愛情を高めてくれた父は、いまこそ、よかれあしかれ祖国の実生活を息子に味わせるためだった。

それで将軍は故郷に帰ってきて母方の村である平壤の郊外チルコル・チャントクの学校に入学した。それが翌年の春に父が重病で死にそうになったという便りをきき、将軍は再び満洲に渡っていった。父はその前の年の冬に日本の警察につかまってうまく逃げたが、その間山の中で重病になってしまったのであった。

22. 시인 동무 어령습니까? 달이 우련한데 시'구절이 하나 나오지 않습니까? 지금 이 강이 바로 당나라 군사에게 백제가 망할 때 삼천 궁녀가 풋처럼 떨어져 훌려 갔다는 옛 사자수입니다. 원쑤에게 몸을 더럽히지 않기 위하여 투신으로 절개를 지켰다는 것——이 얼마나 비극적입니까? 그러나 그것은 벌써 예' 이야기에서나 들을 수 있는 이 나라 조상들의 슬픈 전설입니다. 우리 인민은 이제 다시 그 어떤 포악한 침략자에게도 사랑하는 자기 나라를 빼앗기지 않을 것이며 비극과 눈물의 주인공이

되지 않을 것입니다. 그를 위하여 우리는 토인도 소년도 처녀도 모두 총칼을 들고 주먹을 부르쥐고 원쑤와 싸우고 또 이기고 있습니다. 우리는 이제 4 천년 역사의 갈피갈피 피묻은 오욕의 낭적을 깨끗이 씻을 때가 온 것입니다. (종군기)

[註] 달이 우련한데…月がおぼろであるのに。 시' 구절…詩句。 바로…ちょうど。 군사에게…軍隊に。 떨어져…떨어지여의略、落ちて。 훌려 갔다는…流れていたという。 옛 사자수…昔の死者の水。 원쑤…敵。 몸을 더럽히다…体を汚す。 절개…節操。 얼마나…なんと、どれ程。 슬픈 전설…悲しい歴史。 이제 다시…もう一度、もう再び。 포악한 침략자…暴虐な侵略者。 빼앗기지 않을 것이며…奪われないだろうし。 그를 위하여…そのために。 주먹을 부르쥐고…こぶしを握りしめて。 싸우고 또 이기고 있다…闘っておりました勝っている。 갈피갈피…もの事のすじ、一頁一頁。 피 묻은…血のついた。 오욕의 낭적을…屈辱(汚辱)의 跡。 깨끗이 씻을 때…きれいに拭う時。

[訳] 詩人同志! どうです? 月がおぼろなのに詩でも出ませんか。今、この河がちょうど唐の国の軍勢に百濟が亡ぶ時、三千の宮女が花のように落ちて流れていったという昔の死者水であります。敵に体を汚されないように、身を投げて操(節操)を守ったということ——

なんと悲劇的ではありませんか？ しかしそれは、すでに昔話でのみ聞くことのできるこの国の先祖たちの悲しい伝説であります。わが人民はいまや再び（二度と）その如何なる暴惡な侵略者にも、愛する自分の国を奪われないだろうし、悲劇と涙の主人公にならないでしょう。そのためにわれわれは、老人も少年も、少女（処女）もみな銃剣をもち、こぶしを握りしめて敵とたたかいまた勝っています。われわれは、いまこそ四千年歴史の貢毎に血ぬられた汚辱のあとを、きれいに洗い清める時がきたのであります。（従軍記）

조국의 땅에 입맞추노라

23. 함박눈 내며 떠인

조국의 부두에 귀국선은 름았다.

어서 손을 쥐여 보자 어서

묻게 껴안아 보자.

아! 조국의 땅.

한 숨의 흙을 움켜 쥐고

나는 입맞춘다.

뺨에 비비고 가슴에 대여 본다.

그대의 넓은 가슴 풀어 안고

뒹굴어도 뒤굴어도

몸부림쳐도 몸부림쳐도
사무친 정 풀리지 않아라,
꿈에서만 거닐어 보면 땅
꿈에서만 손 쥐여 보면
조국의 형제들이 아니냐
사랑스런 조국을 가진 영예

이 영예로 하여
내 굴함 없이 살아 왔노라
언제 어데서나 그대를 우러러
새 희망을 노래 불려 왔노라

쳐다 보면 맑은 하늘
내다 보면 푸른 산 넓은 별
아! 볼수록 정다운 땅이여!
어머니 조국이여!

[註] 입맞추노라…口づけする。함박눈…ばたん雪。덮인…おうわれた。귀국선은 름았다…帰国船はついた。어서…さあ早く。껴안아 보자…抱きしめてみよう。뺨에 비비고…ほほにこすり。그대…あなた(第二人称单数)。뒹굴어도…ねころびまわっても。몸부림쳐도…身ふるいしても。사무친 정…深く刻まれた情。풀리지 않아라…解けない。꿈에서만…夢でのみ。거닐어

보면 땅…さまよい歩いてみた土地。줄함 없이…屈することなく。언제 어디서나…何時どこでも。쳐다 보면…見上げれば。푸른 산…青い山。넓은 벌…広い野原。정다운 땅…愛らしい土地。

〔訳〕 祖国の大地上に口づける

ほたん雪におうわれた

祖国の埠頭に帰國船がついた

早く 手を握ってみよう

早く 抱きしめてみよう

ああ 祖の大地

ひと握りの土をすくいあげ

私は口づけする

ほほにこすり 胸にだきしめる

きみの広いふところにとびつき

ねころびまわっても

身ぶるいしても

深く刻まれた 情 解けようか

夢でのみ さまよい歩いた大地

夢でのみ 手を握ってみた

祖国の兄弟ではないか

愛する祖国をもったこのほまれ（栄誉）

この栄誉のため

われは 屈することなく 生きてこれた

いつどこでも きみを 思い

新しい希望を 噴ってきた

見上げれば 澄んだ空

見わたせば 青い山 広い野

ああ！ 見るほど 愛くるしい大地よ！

母なる祖国よ！

24. 어떠한 날 춥고 바람 많이 불면 겨울 밤이었다. 박 교장의 집 행랑에서 글 읽은 소리가 나더니 깨져 가는 초' 불처럼 차츰 차츰 소리가 가늘어 간다. 그러다가는 다시 옆에서 어린 애 입에 젖꼭지를 물려 고서 졸음 섞어 짹 지르는 목소리로

「어서 읽어」하는 어머니 소리에 다시 글소리는 깊어진다.

나이는 열 두 살 보통 학교 4년급에 다니는 진해라는 아이니 그는 박 교장의 집 행랑 아범의 아들이다.

쨍쨍 외우던 글소리는 단 이 분이 못 되여 다시 사라졌다. 그리고는 동리집 시계의 열 한 시를 치는

소리가 들리더니 사연은 고요해졌다.

[註] 어떠한 날…或る日。행랑에서…(行廊) 玄関部屋。

소리가 나더니…声がきこえていたが。꺼져 가는 초'를처럼…消えてゆくローソクの灯のように。가늘어 간다…細くなつてゆく。 그러다가는…そのうちに。젖꼭지를…乳ぶさを。졸음 섞어…ねむけ混りに。글 소리는 깊어진다…本を読む声は太くなる(大きくなる)。행랑 아범…玄関部屋に住むじいや(小使いじいや)。단 이분이 못 되여…二分も足らずに。다시 사라졌다…再び消えていった。동리집…村の家。소리가 들리더니…声が聞えていたが。사연은…四面、四方。고요해졌다…静まりかえった。

[訳] 或る日の寒くて風の強い冬の晩であった。朴校長の家の玄関部屋で本を読む声がきこえたが、消えてゆくローソクの灯のように、だんだん声が細くなつていった。そのうちに、ふたたび傍で幼児の口に乳ぶさをくわえさせている母が、ねむけ混りに鋭い声で「早く読みな」という声に、また本を読む声は大きく(太く)なった。

としは十二才、普通学校四年級に通うチンテという子供であるが、かれは、朴校長の家の小使いじいや息子である。

ろうろうときこえてきた声は、また二分にもならず、ふたたび消えていった。それから村の家の時計が十一

時をうつ音がきこえていたが、四方(あたり)は静まりかえった。

25. 조선은 이미 17년 이상이나 민족 분렬의 비운에 처해 있다. 조선 문제의 평화적 해결의 새로운 가능성을 열어 놓은 조선 정전 협정이 성립된 때로부터도 이미 9년 이상의 세월이 흘렀으나 통일은 여전히 실현되지 못하고 있다.

분렬의 지속은 우리 인민의 국가 및 사회 생활 전반과 매개인의 가정 생활에 이르기까지 계속 해아릴 수 없는 불행과 고통을 가중하고 있다. 분렬의 지속으로 말미암아 세계 평화 특히 아세아의 평화에 위협을 주는 조선에서의 긴장 상태는 해소되지 못하였으며 전쟁의 화근은 엄중한 재화의 씨를 배래하면서 날마다 자라나고 있다.

원래 우리 민족은 남북으로 분렬되어야 할 어떠한 근거도 없었다. 오래인 역사를 두고 우리 인민은 이 반도에서 한 조상의 혈통을 이은 단일 민족의 한 가정 형제로서 화목하게 살아 왔다. 유구한 전통을 가진 이 단일 민족의 인공적 분렬은 우리 나라 남북의 풍부한 자연 부원과 경제 잠재력을 통일적으로利用할 수 없게 하며 민족 문화의 통일적 개화 발전을 불가능하게 하고 있다.

[註] 이미…すでに。분렬의 비운에 처해 있다…分裂の

悲運に処している。 평화적 해결…平和的解決。 정전 협정…停戦協定。 때로부여는…時からは。 세월이 훌쩍으나…歳月が流れたが。 여전히…依然と。 분열의 지속은…分裂の持続は。 국가 및 사회…国家及び社会。 매개인의 가정 생활…個々人の家庭生活。 이르기까지…到るまで。 해아릴 수 없는 불행…数えきれない不幸(限りない不幸)。 말미암아…よって、関連して。 위협을 주는…脅威を与える。 긴장 상태는…緊張状態は。 전쟁의 화근은…戦争の禍根は。 재화의 써를…災禍の種を。 배태하면서…胚胎しながら。 날마다 자라나고 있다…日毎に育っている。 원래…元来。 어떠한 근거도 없다…どんな根拠もない。 반도에서…半島で。 혈통을 이은…血統を継いだ。 형제로서…兄弟として。 화목하게…睦まじく。 유제한 전통…悠久な伝統。 인공적 분열은…人工的な分裂は。 자연 부원과…自然富源と。 잠재력을: 潜在力を。 개화 발전을…開化發展を。 불가능하게…不可能に。

[訳] 朝鮮は、すでに17年以上も民族分裂の悲運に処している。朝鮮問題の平和的解決の新しい可能性をひらいておいた朝鮮停戦協定が成立された時から、すでに9年以上の歳月が流れていったが、統一は依然として実現されないのである。

分裂の持続は、わが人民の国家及び社会全般と、個

個人の家庭生活に到るまで、ひきつづきかぎりない程の不幸と苦痛を加えている。分裂の持続によって世界平和、とくに、アジアの平和に脅威を与える朝鮮での緊張状態は解消されなかつたし、戦争の禍根(火もと)は、きびしい災禍の種を胚胎しながら毎日育っている。

元来、わが民族は南北に分裂されなければならない如何なる根拠もなかつた。長い歴史を通じてわが人民は、この半島で同じ祖先の血統をうけついだ单一民族の一つ家庭の兄弟として、睦まじく生活(生きて)してきた。悠久な伝統をもつたこの单一民族の人工的分裂は、わが国南北の豊富な自然の資源と、経済潜在力を統一的に利用し得ないようにし、民族文化の統一的な開化発展を不可能にしている。

진 달 래

26. 날다리 진달래꽃을 노래하라 하십니까?

이 가난한 시인더러 그 적막하고도 가냘픈 꽃을
이른 봄 산'골짜기에 소문도 없이 피었다가
하루 아침 비'바람에 속절 없이 떨어지는
꽃을 무슨 말로 노래하라 하십니까?

노래하기에는 너무도 슬픈 사실이외다

백일홍처럼 붉게 붉게 피지도 못하는 꽃을
국화처럼 오래 오래 피지도 못하는 꽃을
노래하라니 차라리 불들고 울 것이외다

친구께서도 이미 그 꽃을 보셨으리다
화려한 꽃들이 하나도 피기 전에
찬 바람 오고 가는 산허리에 쓸쓸하게 피여 있는
봄의 선구자 연분홍빛 진달래꽃을 보셨으리다

진달래꽃은 봄의 선구자외다
그는 봄소식 먼저 전하는 예언자이며
봄의 모양을 먼저 그리는 선구자외다
비'바람에 속질 없이 그 얇은 꽃잎이 짐은
선구자의 불행한 수난이외다

어찌하여 이 가난한 시인이
이 같이도 그 꽃을 불들고 우는지 아십니까?

그것은 우리 선구자들 수난의 모양이
너무도 많이 나의 머리속에 있는 까닭이외다

노래하기에는 너무도 술픈 사실이외다
백일홍처럼 붉게 붉게 피지도 못하는 꽃을
국화처럼 오래 오래 피지도 못하는 꽃을

모진 비'바람 만나 흩어지는 가엾은 꽃을
노래하느니 차라리 불들고 울 것이외다

그러나 진달래 꽃은
오례는 봄의 모양을 머리 속에 그리면서
찬 바람 오고 가는 산허리에서
오히려 웃으며 말할 것이외다
「오래 오래 피는 것이 꽃이 아니라
봄철을 먼저 아는 것이 정말 꽃이라고」

〔註〕 진달래…つづじ。 날더러…私をして、私に。 가난한
시인더러…貧しき詩人をして。 적막하고도…寂莫として
また。 가냘픈 꽃…細々とした花。 이른 봄…早春、
初春。 소문…うわさ。 비'바람에…雨風に。 속질 없
이…仕方なく、 やる方なく。 노래하기에는…(歌を)
唄うには。 백일홍처럼…百日草のよう。 노래하라니
(歌を) 唄えというから。 차라리…かえって、 むしろ。
친구께서도…親友も。 께서도は相手を高めていう場合
につかう、 へも。 화려한 꽃들이 華麗な花が。 산허
리에…山腹に。 쓸쓸하게…悲しく。 연분홍빛…軟粉紅
(うす紅) 色。 봄 소식…春のたより。 꽃잎이 짐은
…花びらがおちることは。 수난이외다…受難である。
어찌하여…どうして、 불들고…つかまって。 모진…ひ
とい、 強い。 흩어지는…散ってゆく。 오례는 봄…來

ようとしている春。머리 속에 그리면서…頭の中に
えがきながら。

[訳] 僕をして つつじの花をうたえといふのですか
この貧しき詩人をして その寂莫として弱々しい花を
春の初 山あいに そっと咲いてから
ひと朝 雨風にやるかたなく落ちる花を
どういう言葉でうたえといふのですか

うたうにはあまりにも悲しい事実です
百日草のように 赤く赤くも咲かない花を
菊の花のように 永く永くも咲かない花を
うたえといふからには むしろ 抱きあって泣くであ
ろう

親友も すでに その花を見たであろう
華やかな花が 一つも咲かない前に
冷たい風の ゆききする山腹に 悲しげに咲いている
春の先駆者 薄紅色のつつじを見たであろう

つつじの花は 春の先駆者である
それは 春のたよりをまっさきに告げる予言者であり
春の姿を まっさきにえがく 先駆者である
雨風にたえきれず その薄い花びらが散るのは

先駆者の不幸な受難である

どうして この貧しき詩人が
このように その花を抱いて泣いているか知っています
か
それは われわれの 先駆者たちの受難の姿が
あまりにも多く 僕の脳裡にあるからです

うたうには あまりにも悲しい事実です
百日草のように 赤く赤くも咲かない花を
菊の花のように 永く永くも咲かない花を
うたうからには むしろ 抱いて泣くのです

しかし つつじの花は
こようとする春の姿を 脳裡にえがきながら
冷い風のゆききする 山あいで
むしろ 笑いながら 語るであります
「永く永く咲くのが花ではなく
春を早く知るのが真の花である」

27. 미신이란 말은 그 사회에 있어서 합리적 근거 없
立 상식 있는 사람에는 승인되지 아니 하는 자연
과 사회를 지배하는 힘에 대한 과도한 신망을 말
하는 것이다. 그러므로 미신은 객관적 현실 사물에

대한 계통적 지식인 또는 객관적 현실 사물을 계획적으로 변경할 수 있는 방법의 계통적 지식인 과학과 대립하는 것이다. 원시 시대에 있어서는 인류의 생산 기술이 극히 유치하고 따라서 생활을 위한 자연과의 투쟁이 무력하여 일체 자연 현상에 대하여 쉽게 설명할 수 없었던 것이다. 그런데 원시 종교는 이와 같이 인간이 자연을 지배할 능력이 없는 데서 발생하였던 것인데 계급 사회로 들어간 후에는 계급적으로 예속된 인간들이 스스로 자기를 해방시킬 능력이 없는 데서도 미신이 발생하게 된 것이다.

[註] 미신…迷信。～이란…～といふものは。사회…社会に。～에 있어서…～において。합리적 근거…合理的な根拠。상식…常識。승인…承認。자연을 지배한다…自然を支配する。파도한 신망…過度な信望、信じ過ぎ。계통적…系統的。변경시키다…変更させる。과학…科学。방법…方法。원시 시대…原始時代。대립…対立。극히…極度に、きわめて。유치하다…幼稚だ。무력…無力、武力。설명…説明。이와 같이…このように。발생…發生。능력…能力。계급 투쟁…階級闘争。예속된…隸屬された。스스로…自ら。해방시킬…解放させる。～시키다…～ようとする(この場合의 시키다というのは、させるという意味を現わすもの)

[訳] 迷信という言葉は、その社会において合理的な根拠がなく常識ある人びとには、承認されない自然と社会を支配する力に対する過度な信望をいうのである。だから迷信は、客観的な現実事物に対する系統的な知識であり、また、客観的な現実事物を系統的に変更させることの出来る方法の系統的な知識であり、科学と対立するものである。原始時代においては人類の生産技術がきわめて幼稚であり、したがって、生活のための自然との闘争が無力であり、一切の自然現象に対して正しく説明することが出来なかった。しかし、原始宗教はこのように人間が自然を支配する能力が、ないところから発生したものであったが、階級社会になってから以後は、階級的に隸属された人間が、自分自身を解放させる能力がないところからも、迷信が発生するようになったのである。

28. 해방된 뒤 어머니는 점순이를 따라 가끔 극장으로 갔다. 점순이는 해방된 뒤에도 계속해서 본시 다니면 그 인쇄소로 놀러 다녔으나 생활은 점점 달라졌다. 점순이는 책도 읽고 또 이따금 무슨 글을 쓰기도 하였다. 소학교도 마치지 못한 점순이를 남편이 죽은 뒤 할 수 없이 이 인쇄 공장으로 데보낸 어머니의 절통한 한이 조금씩 풀리기 시작하였다. 남들 말이라 에누리사 있겠지만 점순이는 말

솜씨나 재간이 중학교 다닌 아이보다 낫다고들 하였다.

「돈 벌이 하면서 공부는 공부 대로 하고」
가난한 이웃에서 모두 점순이를 부러워 하였다.
아닌게 아니라 인민반회 같은 때 점순이가 나서서
어른 늙은이 앞에서 오손 오손 좋은 말솜씨로 이
야기할 때 이웃은 모두 부러워하였고 어머니는.

「그래 해방이 좋다고 하지요」
하고 웃었다. 점순이는 극장으로 가지 못하는 이
웃 부인네들 늙은이들에게 가끔 반 회의에서 쓰
련 영화 이야기도 해 드렸다. 「무지개」와 「조야」
의 이야기도 해 주었다.

[註] 점순…ジョムスン。따라서…従って。가끔…ときどき。
극장…劇場。계속해서…継続して。본시…本来、今まで。
인쇄소…印刷所。눌러 다녔다…そのまま押し通して通った。점점…だんだん、漸次。이따금…しばしば→가끔。
마치다…終える。남친…夫(おっと)。절통하다…痛切だ、心痛ましい。한…なげき。풀리다…
解ける。남들…他の人たち。에누리…ものごとを大げさにいう。말 솜씨…しゃべる手腕、話す能力。재간…才能という意。돈벌이…金儲け、稼ぎ。부러워하다…羨ましがる。어른…大人。오손 오손…てきぱきと。
이웃…隣近所。무지개…虹。아닌게 아니라…いうま

でもなく、勿論。

(訳) 解放された後、母はジョムスンについて、ときどき劇場にも行った。ジョムスンは解放された後にも継続して(ずっと)今まで行っていたその印刷所に、そのまま通った。生活はだんだん違ってきた。(よくなってきた) ジョムスンは本も読み、また、しばしば何か文章を書きもした。小学校も終えていないジョムスンを、夫が亡くなった後、仕方なくこの印刷工場に送った母の痛ましいなげきが少しずつ解け始めた。よその人のいうことだから、大きさもあるだろうが、ジョムスンは話すことや才能が中学に通った子供より優れているといった。

「稼ぎながら(働きながら)勉強は、勉強としてやり」
貪しい隣近所でジョムスンを羨ましく思った。事実人民班会の時、ジョムスンが出て大人や老人の前で、てきぱきした口調で話をするとき、近所の人たちはみな羨ましがり、母は

「だから解放がよいというのですよ」
といって笑った。ジョムスンは劇場に行かれない隣近所の婦人たち老人たちに、ときどき班会議で、ソ連映画の話をしてあげた。「虹」と「ゾーヤ」の話もしてあげた。

서 우리 민족의 위대한 혁명가들의 유가족들이 얼마나 신음을 하였던가. 더구나 세상 모르는 유아들은 혹은 어머니의 등에서 혹은 언니나 아주머니의 등에서 주린 배와 독사와 같은 일제의 눈을 피하여 얼마나 떨었던가 한바 나비고 눈보라 치는 커다란 거리를 그 어린 뺨이 얼어 허지며 얼마나 울었던가. 지하에 있는 혁명가들의 가슴도 안타까이 떨었을 것이다. 그러나 지하에 있는 혁명 투사들이여! 마음 놓고 인체야 고이 고이 잠드소서. 그대들의 위대한 혁명 동지인 김 일성 장군의 영명한 민족적 지도로 말미암아 세상에서 제일 친대와 기아와 공포 속에 있든 그대들의 유가족은 새 날이 밝은 공화국에서 누구보다도 귀하고 소중하고 위엄 받고 있나이다. (북조선 기행)

[註] 멸시…蔑視。기아…飢餓, 飢え。공포…恐怖。질병…疾病。위대한 혁명가…偉大なる革命家。유가족…遺家族。얼마나 신음하였나…いかに呻吟したか。세상…世間。주린 배…ひもじい腹。독사…蛇毒。피하다…避ける。찬 비…冷たい雨。눈보라…吹雪。鼙…ほほ, ほっぺた。얼어 허지다…凍り裂ける。지하…地下。안타까이…胸苦しく。~으로 말미암아…~に因つて。귀하고…可愛らしい。밝은…明るい。소중하고…大事であり。위엄…威嚴。고이 고…安らかに。

가슴…胸。

〔訳〕 日帝時代に、虐待と、蔑視と、飢餓と、恐怖と、疾病の中で、わが民族の偉大な革命家たちの遺家族たちが、いかに呻吟していたことか、そのうえ世間知らずの遺児たちは、あるいは母さんの背中で、あるいは姉さんの、おばさんの背中で、ひもじい腹と、毒蛇のような日帝の眼をさけながら、震えたことか、冷たい雨が降り、吹雪の吹きすさぶ暗い街を、その幼いほっぺたが凍り裂けながら、いかに泣いたことか。地下にねむる革命家たちの胸もやるせなく震えたことであろう。けれども地下にねむる革命家闘士たちよ！ 心安らかに眼られよ！ かれらの偉大なる、革命同志である、金日成將軍の英明なる民族的指導によって、世の中でともつもひどい虐待と、飢えと、恐怖の中にいたかれらの遺家族は、新らしい明るい共和国で、誰よりも可愛いがられ、大事にされ、尊厳をうけている。（北朝鮮紀行）

백두산

30. 삼천만이여!

오늘은 나도 말하련다!
 「백호」의 소리 없는 웃음에도
 격화 속아 구름을 삼킨다는
 천지의 푸른 물줄기로
 이 땅을 화물아치던 살풍에
 마르고 한 한 가슴을 추기고
 천연 이끼 오른 바위를 벼룩'들 삼아
 곰팡이 어렸던 이 봉꼴을
 육박이 창풀인듯 고르며
 이 땅의 이름 없는 시인도
 해방의 오늘을 말하련다.

 첨첩 층암이 창공을 치뚫으로
 절벽에 눈뿌리 아득해지는 이곳
 선녀들이 무지개 타고 내린다는 천지
 안개도 오르기 주저하는 이 절정!

세월의 류수에
 추억의 배 거슬려 올리라!
 어느 해 어느 때에
 이 나라 빨찌산들이 이곳에 올라
 천심을 떠받으며
 의분에 불질려
 해방전의 마지막 봉화 일으켰느냐?

 이제 북국의 의로운 전사들이
 사선에 올랐면 이 나라에
 재생의 백광 가져 왔으니
 해방사의 혁혁한 대로
 두만강 물'결을 넘어왔고
 백두의 주름 주름 바투 훠여
 민주 조선에 출곳 헤치노니
 또 장백의 곡곡에 얼룩진
 지난 날의 싸움의 자취 력력하노니
 내 오늘 맘 놓고 여기에 올라
 三천리를 손금 갈이 줄어 보노라!

오오 조상의 땅이여!
 玉천연 흐르던 그대의 혈통이
 일제의 칼에 맞아 끊어졌을 때
 떨어져 나간 그 토막 토막
 얼마나 원한의 선혈로 달궜었더냐?
 조선의 운명이 철성관에 올랐을 때
 몇만의 지사 밤길 더듬어
 백두의 밀림 찾았더냐?

가랑잎에 쪽잠도 그리웠고
 사지를 문학인듯 넘나든 이 그 뉘냐!
 산아 조종의 산아 말하라
 해방된 이 땅에서
 뉘가 인민을 위해 싸우느냐?
 뉘가 민전의 첫머리에 섰느냐?

(註) 삼천만 (三千万, 全朝鮮の人民のこと)

백호 (白虎, ここでは老虎と訳しておく)

천지 (天池, 白頭山の上の大火口湖のこと)

해방의 오늘 (解放の今日, 8.15 のこと)

두만강 (豆満江, 白頭から東南に流れる河)

장백 (長白山脈のこと)

삼천리 (三千里, 全朝鮮のこと, 南北の長さが三千里あるところから朝鮮の異名となっている)

일제 (日帝, 日本帝国主義のこと)

민전 (民戰, 民族統一民族戰線のこと)

白頭山

三千万よ

今は (今日は) 僕も語ろう。

老虎の声なき笑いにも (怒号にも)

激波 雲さえ呑むという

天池のあおき波もて

この地を吹きすきぶ殺戮の風にたえ

焼けただれた胸をいやし

幾千年も苦しめた亘岩をすずりにかえ

さび 傷める この筆もて

肉迫の槍のはこさきのごと みがき

この地の名もない詩人も
 解放のこの日を語ろう。

疊々たる奇岩 天空を貫き
 絶壁(断崖)に眼路も遠くなること
 仙女が虹に乗り舞いおりるという ここ天池
 霧さえ這うのをためらう この絶頂!
 過ぎしときの流れに
 (われら) 回顧の舟を戻そう。
 いつの日 いつの年に
 この国のバルチザンたち この峯によじのぼり
 山頂にて天心を支え立ち
 義憤に心をもやし
 解放戦の最後ののろしをあげたかを。

今 この国の義に燃える戦士たち
 死に追いつめられたこの国に
 生を呼ぶ光かえり
 解放史の疊々たる大路
 豆満江の流れを越えて
 白頭の峯々にのび
 いま民主朝鮮の屋根となって伸び
 かつて長白の谷谷にしるされた
 過ぎし日の戦いのあと いま歴めたるこの地
 この山頂に立ち 僕は心ゆくばかり
 三千里の祖国の山河を
 たなびくのすじのごと数えあげよう

ああ祖先の地よ
 五千年流れる君の血すじが

日帝の刃に打ちくだかれたとき
 切りきざまれたその肉の一切れ一切れが
 どれだけ うらみに血ぬられたことか
 そして この地の命運が いまや死の床に横たえ
 られようとしたとき
 幾千幾万の志士が夜道を分け
 この密林を訪れたことか
 枯葉にむすぶ仮寝も懐かしく
 死地を あたかもわが家のしきいのごと 出入した
 その人たちとは誰々か?
 山よ! 宗祖の地の山よ! 語れ
 解放された この地に
 誰が人民のためにたたかい
 誰が民戦の先頭に立っているかを――

(この詩は朝鮮の天才的な人民詩人趙基天の長篇叙事詩「白頭山」
 の一部です。彼は 1952 年米軍の爆撃により平壠で死ました。)

第四十九講 法の一覧

法というのは名詞、形容詞及び動詞で表現される状態、行動に対して語る人のもつ態度を表わすものです。次にその主なものの一覧表をあげましょう。

(A) 名詞の法

〈接続述語になるときの法〉

並列

フ 合同 ~며, ~고, ~요, ~ㄴ데, ~ㄴ바

~니, ~되, ~로, ~로서, ~자
 ~거든, ~거니와, ~려니와
 ハ 分離 ~거나, ~든지, ~거니, ~나
 ハ 対立 ~지마는, ~견마는, ~나, ~련마는
 ~다가, (~거든), (~되)

従属

フ 原因 ~ㄴ즉, ~여서, ~므로, ~니, ~니까,
 ~거늘, ~ㄴ지라, ~기에, ~라, (~거니)
 ハ 様態と程度 ~己뿐더러, ~己수록

条件

フ 仮定 ~면, ~라면, ~근전대, ~거든
 ハ 讓歩 ~면들, ~라도, ~근찌라도, ~ㄴ들,
 ~근망정, ~근찌언정

(B) 形容詞の法

接続述語になるときの法

並列

フ 合同 ~며, ~고, ~요, ~ㄴ데, ~ㄴ바, ~되,
 ~자, ~거니와
 ハ 分離 ~거나, ~든지, ~나, ~탁, ~거니
 ハ 対立 ~지마는, ~견마는, ~아도, ~나, ~나마
 ~되, ~련마는, ~려니와, ~더니, ~다가

従属

フ 原因 ~ㄴ즉, ~아, ~여서, ~때, ~므로, ~니
 ~니까, ~거늘, ~ㄴ지라, ~기에, ~기로
 ~거든, ~거니
 ハ 様態と程度 ~己뿐더러, ~己수록, ~도록,
 ~아, ~게, ~고, ~이

条件

- ㄱ 仮定 ~면, ~근전대, ~거든
- ㄴ 讓歩 ~면들, ~더라도, ~근꺼라도, ~들,
~근망정, ~근꺼언정

(C) 動詞の法

接続述語になるときの法

並列

- ㄱ 合同 ~고, ~고서, ~면서, ~는데, ~는바,
~던바, ~되어, ~더니, ~전대, ~자,
~거니와, ~다가
- ㄴ 分離 ~거나, ~든지, ~략, ~거니
- ㄷ 対立 ~지마는, ~전마는, ~아도, ~되, ~나,
~려니와, ~련마는, ~다가, ~나마

従属

- ㄱ 原因 ~ㄴ즉, ~아, ~아서, ~므로, ~매, ~니,
~니까, ~거늘, ~는지라, ~기예, ~기로,
~거든, ~거니
- ㄴ 様態と程度 ~게, ~고, ~도록, ~근뿐더러,
~근수록, ~아

条件

- ㄱ 仮定 ~면, ~근전대, ~거든
- ㄴ 让歩 ~면들, ~더라도, ~꺼라도, ~ㄴ들,
~근망정, ~근꺼언정

祈願

~여 (고), ~고자, ~(으)려

これらの法にはそれぞれ終結述語の法もあるが、ここでは省略しました。

付録 練習問題解答

99 頁 練習問題解答

- われわれは誰でも祖国を愛する。
- 私はいつも一時間ずつ昼寝をする。
- いつでも故郷へ行った夢を見る。
- 白頭山に朝から雪が降る。
- 大同江の川辺で老人が釣をしている。
- 朝鮮では沢山の穀物がとれる。
- 日本人は日本語を、朝鮮人は朝鮮語を習う。
- 警官がどろぼうを捕える。
- 朝になるとお父さんは工場へ行く。
- 授業を終えた学生たちが、家へかえって行く。

110 頁 練習問題解答

あたたかい春がきた。残酷(凶悪)な敵が火をつけた戦争が終った後はじめて迎える春だ。川辺からはぬくぬくとした風が吹いてくる。太陽の光がやわらかく、山の麓にはかすみがいっぱいいた。岡にはよもぎとたんぽぽと菖蒲、その他の青々とした新しい芽が、黒くて濕った大地をつき通して出てくる。広い大通りには、復旧建設のための材木を積んだ貨物車がたのしそうに走っている。

120 頁 練習問題解答

日の出

赤い太陽が昇る東の海に
金色のような陽光が輝けば
波は びかびか金の片りんが乱れ飛ぶ。

125 頁 練習問題解答

	現在	過去	未來
가하다	가하면	가하였으면	가하겠으면
놀라다	놀라면	놀랐으면	놀랐겠으면
부르다	부르면	불렀으면	부르겠으면
막다	막으면	막았으면	막겠으면
닦다	닦으면	닦았으면	닦겠으면
느끼다	느끼면	느꼈으면	느끼겠으면
믿다	믿으면	믿었으면	믿겠으면
노하다	노으면	노았으면	노겠으면
싸우다	싸우면	싸웠으면	싸우겠으면
갚다	갚으면	갚았으면	갚겠으면

130 頁 練習問題解答

1. 래일은 꼭 비가 오리라고 생각한다.
2. 이것이 문법 교과서라고……。
3. 그는 노예의 해방이란 것을 열심히 생각했다.
4. 자본주의와 사회주의는 공존할 수 있다.
5. 철학이란 무엇인가? 설명해라.
6. 김 일성이란 사람은 위대한 지도자다.
7. 노동한다는 것이 곧 행복은 아니다. 왜냐하면 최저 생활이 보장되지 않으니까.
8. 위정자는 국민들을 향하여 아무 것도 말하지 말라고 했다.
9. 나와 같이 평양에 가자.
10. 전부 잘못이라고는 말 할 수 없다.

練習問題解答

	높인 말	보통 말	낮춘 말
먹는다	먹습니까? 먹어요? 먹는가?	먹나? 먹어?	
잔다	잔니까? 자요? 자는가?	자나? 자?	
간다	간니까? 가요? 가는가?	가나? 가?	
말한다	말합니까? 말해요? 말하는가?	말하나? 말해?	
논다	논니까? 놀아요? 노는가?	노나? 놀아?	

135 頁 練習問題解答

	높인 말	보통 말	낮춘 말
있다	있으십시오	있으시오	있게
말한다	말하십시오	말하시오	말하게
온다	오십시오	오시오	오게
놓다	놓십시오	놓시오	놓게
간다	가십시오	가시오	가게
찾다	찾으십시오	찾으시오	찾게
읽다	읽으십시오	읽으시오	읽게

138 頁 練習問題解答

	높인 말	보통 말	낮춘 말
먹다	먹으십시오	먹읍시다	먹게
찬다	자십시오	잡시다	자게
간다	가십시오	감시다	가게
논다	노십시오	놉시다	눌게

143頁 練習問題解答

1. 空気の中にある沢山の水分が、刃の鉄分を酸化させる役割をする。
2. その時発表させたものは、語音論という論文である。
3. その戯曲は多くの観衆を笑わせた。
4. ぎらぎらした太陽は洞窟の氷を溶かせた。
5. 正月に新しい着物を彼の娘に着せた。

目録進呈・落丁本・乱丁本はお取替えいたします

152頁 練習問題解答

1. 곁다 곁고 곁지 고와 고우니
2. 우습다 우습고 우습지 우수워 우수우니
3. 늡다 늡고 늡지 누워 누우니
4. 올라 오르고 오르지 오르어 오르니
5. 다르다 다르고 다르지 달려 달으니
6. 부르다 부르고 부르지 불러 불으니
7. 놀다 놀고 놀지 놀아 노니
8. 알다 알고 알지 알아 아니
9. 울다 울고 울지 울어 우니
10. 싫다 싫고 싫지 싫어 싫으니
11. 쫓다 쫓고 쫓지 주어 주으니
12. 붂다 붂고 붂지 불어 불으니
13. 닫다 닫고 닫지 닫아 닫으니



昭和32年2月20日 第1版印刷

昭和32年2月25日 ○第1版発行

昭和55年2月20日 増補第37版発行

著者 宋枝学

発行者 佐藤義人

基礎朝鮮語

発行所

株式会社 大学書林

東京都文京区小石川4丁目7の4

振替口座 東京2-43740番

電話 東京(812)6281~3番

郵便番号 112

印刷・研究社印刷

製本・模本製本